

小	麥	一九二、六八八五	一九一、六六三三	燕	三九七、九六四三	三八〇、六五三五
大	麥	一六七、六三二九	一七三、一四八〇	桔	五九〇、九六九三	五九〇、九七〇一

收穫統計 土地の生産力 前掲の諸表は各作物の作付段別を表示せしものなり。農産物の生産を計料する他の方法は各作物の生産總量を知るに在り。斯る種類の研究は第十一國勢調査に於て計畫せられ其農業部に記述せられ合衆國の農業的富源に關して吾人に與ふる知識としても亦土地の生産物に關し首要なる事實を知領するが爲めに試みんする統計的方法の先例としても趣味と教訓とを供ふるものなり。

穀類 合衆國に於ける穀類の生産を一例として取れば其統計的研究は次の如き方針を以て伸張するを得へし。

- (一) 穀類總產出高
- (二) 穀類各種生産高單立數及百分數
- (三) 生産額累年増減比較(時の比較)
- (四) 各地生産比較(場處の比較)

第三及第四の表章には種々の法あり。單立數の表章各地方哩の生産額、一噓に付收穫の俵數改良地に於ける一噓の收穫俵數、人頭生産額總穀類の收穫に對し以上の方針を以て解剖を試み、次に各一種目の收穫に付同一方針を以て解剖を試むれば合衆國に於ける農産物の概況を最も好く吾人に示すへし。各時代に於ける穀類の生産總額を示せば次の如し(勢調査農業の部)。

年	穀類生産總高	每百増減	總人口に對する人頭俵數
千八百八十九年	三五、一八一、六九〇	三〇・四	五六・二
千八百七十九年	二六、九七五、〇二九	九四・四	五三・八
千八百六十九年	一三、八七二、九一五	一一・〇	三六・〇
千八百五十九年	一二、三九〇、九九七	四二・八	三九・四
千八百四十九年	八、六七四、三九六	四〇・九	三七・四
千八百三十九年	六、一五二、五三〇	—	三六・〇

前表下二段の數を見れば千八百六十九年以來千八百七十九年までに穀類生産額の驚くべき増加あるを知らん。爾後十年間の増加は斯く甚たしからずと雖人口の増加と歩調を均ふるよりは稍や多し。即ち千八百八十九年の生産額は之を人頭に配して一人平均五十六俵なり。尙國勢調査の報告中に左の文あり。

地方的分配に關しては穀類生産の中心は當初の定居以來人口の中心の進行より一步進んで次第に西方に移遷せしものゝ如し。第十一國勢調査は人口の中心は僅かに東南インシヤナまで進みしに、穀類生産の中心は已にミシシッピ河を横さりたりとの事實を示せり。

現今穀類の大生産地は北部中央及西方の諸國なり。總段別の略五分の一はイリノイ及アイワワに在り、之にカンサス、ミツソリーを加ふれば三分の一以上となり、尙ネブラスカ、インヂャナ、ヲハイオを加へて七ヶ國となせば現に全國穀類植付段別の一半に上るへし。但し其生産總額を取りて相對照すれば以上數國に對する割合は稍や一變すへし。是れ各穀類一噓の収獲互に相異あるが爲めなり。然れとも穀類生産の中心は尙ミシシッピ河畔の北岸に在り。總産額の過半はアイワワ、イリノイ、カンサス、ネブラスカ、ミツソリー五國の供出する所たり。穀類の耕作は小數國に集るか故に其各國内に於ても亦生産の集中點あり。例へばミシガンに於て八十四郡中其二十五郡が玉蜀黍に就ては百分の八二、燕麥に就ては七四小麥に就ては七九を産出し。ウキスコンシンにては六十八郡中其十六郡が大麥

は百分の八九、玉蜀黍は百分の六六、燕麥は百分の五三、小麥は百分の五九を産出するか如く、加里福州は五十三郡中其八郡のみにて一國穀類作付段別の五分の三以上を包有すと。國勢調査は海拔高度平均温度平均雨量に従ひ小麥、燕麥、玉蜀黍の分配如何に就き勞苦慘憺たる研究を公にしたり。其數字は敢て教訓的なるにあらす、唯た云ふ最大の生産は海拔五百尺乃至千尺の間に在りと、是れ當然西方太平洋の國々を包含するものなり。小麥の百分の四四、燕麥の百分の五二、玉蜀黍の百分の四五は此高さの地に生産すと。温度に就ては玉蜀黍こそ最廣く五十度乃至五十五度の間何地にても善く成育し、燕麥は四十五度より五十度の間に成長し、小麥は各地に散し尙一層低温の地にも成長すと。燕麥及玉蜀黍の最多量を生産する地方の平均雨量は三十英吋乃至四十英吋なれと、小麥は雨量の尙多き地若くは尙少き地にても生育す。

合衆 ける此首要農産の生産額を農務局の報告に據て示せば次の如し

千八百七十九年	小	玉蜀黍	燕麥
		四、五九八、三三七	一、七四九、一六六
		一七、四五一、六七六	四、〇七五、八九九

Table with 4 columns: Year, Production (千石), Exports (千石), and Total (千石). The table lists production and export data for various countries from 1898 to 1900, with rows corresponding to the years in the left margin.

他の國々、他の國々の農業統計は年々出版せらるゝ所にして種々なる統計

摘要及商業雜誌に於て容易に入手するを得へし。故に此に再び絮説するを要せざるへし。日々に増進する食料の供給と其利用し得へき供給の變動、物價變動の影響たるの標示として全世界に於ける穀類の年々の産額を計料せんとこの計畫は又屢々試験せられし所なり。是等の計測は互に甚た異なるとあり之に就き精確の調査を得るとは實際上豫期せらるへきにあらす。斯る計測の例として次に大藏省統計局の調査を示すへし(千八百九十八年三月財)。

Table titled '世界の於ける小麦の産額' (World's Wheat Production). It lists countries and their wheat production in ten thousand stone for the year 1893 and the average of 1875-1879. Countries listed include USA, Canada, Mexico, Argentina, Chile, Italy, Spain, France, Germany, and others.

第一編 消費及生産 第四章 生産の要素としての土地

羅馬尼亞	五四〇八、一〇〇〇	波爾斯	二〇八〇、〇〇〇
歐洲露西亞	三、七六八二、三八〇〇	亞細亞露西亞	八〇七七、六〇〇〇
塞爾維亞	八三七、〇二〇〇	亞細亞土耳其	四八六〇、〇〇〇〇
西班牙	九四八一、六八〇〇	チーストララシヤ	三六二三、七〇〇〇
那威瑞典	四四六、七八〇〇	アルゼリヤ	二一五一、四八〇〇
瑞 西	四三二、〇〇〇〇	海峽植民地	三三九、〇二〇〇
歐洲土耳其	二〇三〇、〇〇〇〇	埃及	一〇八〇、〇〇〇〇
合衆王國	五三七〇、七〇〇〇	チユニス	六七六、〇〇〇〇
英領印度	二、二八五三、九八〇〇	計	二四、七一二二、〇八三四

大 洲	千八百九十三年	五ヶ年平均	同 上	百 分 比	例
北 米	同 九十七年	五、一六三六、七四三四	八三九二、三六〇〇	二〇・八九	
南 米		一四、一四〇一、五六〇〇	一四、一四〇一、五六〇〇	三・四〇	
歐 羅		三、七八二一、二二〇〇	三、七八二一、二二〇〇	一五・三〇	
亞 細		三六二三、七〇〇〇	四二四六、五〇〇〇	一・四七	
澳 太		四二四六、五〇〇〇	二四、七一二二、〇八三四	一・七二	
阿 弗		二四、七一二二、〇八三四		一〇〇・〇〇	
計					

一噓に對する平均の産額 生産の収穫は作付段別の多少と每噓の生産の多少如何に關す。同一國にても土地極めて異なり或地は少許の勞を以て少許

の収穫あるあり或地は多大の勞を以て多大の収穫あるあり又氣候の加減にて年々其収穫同しからず。例へは英國に於ける一噓の小麥の収穫千八百九十六年には三十三俵と六分、千八百九十五年には僅かに二十六俵二分に過ぎざるが如し。故に一ヶ年の平均一噓の生産額は甚た信し難き者とす。然れとも國際間の事に至ては其収穫に由て耕作法の廣地主義なるや將た深重主義なるやを區別するを得次表は新舊兩國の背反を示すものなり(英米統計續)。

千八百九十七年一噓に對する収穫俵數

小 麥	一三四	北米合衆國	二九・一
大 麥	二四五	大貌利典合衆王國	三二・九
燕 麥	二七二		三八・八
玉蜀黍	二三・八		
稗 麥	一六・一		

英國に於ける一噓の平均生産額及二十八俵を中年作として之に對する生産歩合

を算出すれば次表の如し(農報季)

	一噓の産額	二十八歳を百と計算し 此基数に對する比較
千八百五十七年度—同六十二年度平均	二八四	一〇二
千八百六十三年度—同六十八年度平均	三〇八	一一〇
千八百六十九年度—同七十四年度平均	二七二	九七
千八百七十五年度—同八十年度平均	二二六	八一
千八百八十一年度—同八十六年度平均	二七八	九九
千八百八十七年度—同九十二年度平均	二九七	一〇六
千八百九十三年度—同九十七年度平均	二九一	一〇四

右の表に據れば六ヶ年を平均するも尙其収獲に甚しき動搖あるを知るへし。而して平均の収獲は四十年間事實的に増加したるを見ず。

生産統計 世界に於ける生肉の供給。穀類に次て最も重要なる食料的生産は牛肉なり。吾人が第一に遭遇する困難は肉類は穀物の如く年々の生産物にあらすして生畜の唯一部のみ食料として屠殺せらるゝとなり。吾人は屠畜統計を有

すると鮮し。是を以て吾人は先づ間接に一定時に於ける生畜の統計を示し以て此問題に接せざるを得ず。殊に此生畜統計は屢々食用的のものと然らざるものとを混合するものなりとす。

肉類の供給如何は近今の經濟界に於ては趣味ある一問題なり。現今歐洲各國及米國の一部に於ける人口密度の増加及都會の成長工業都會の發達は肉類の需要を告ぐる益急なるに際し之れか供給の便は次第に減少す。而して一部は麥作麥小段別減少し幾分か之を牧場又は草生地となして之を補ふと雖是れ眞に小部分に過ぎざるなり。故に概して古國に於ては肉類の需用日に増加するに拘らず之れか供給の能力は却て減少したりと云ふへし。此缺乏は新興國よりの供給にて補足せらる故に舊世界は肉も小麥も皆新世界よりの供給を仰くとなりたるは甚た面白き變化と云ふへし。統計の主たる用は此變化を表章すると其變化か進行する速度を計料せんとするにあるなり。我か注意を先づ歐羅巴に向くる時は其狀況次の如し(ノイマン、スバル)。

歐洲に於ける三畜總數

年	牛		羊		豚	
	實數	人口千に付	實數	人口千に付	實數	人口千に付
千八百八十年—同八十五年	九四八三、二〇〇〇		一、八〇一四、八〇〇〇		四四二三、六〇〇〇	
千八百八十七年—同八十八年	九七三七、二一六六		一、六五七五、八三七八		四四〇四、一二七六	

今吾人か此數を以て人口に對照する時は其運動一層明瞭ならんとす。

人口一千人に對する三畜の數

年	牛		羊		豚	
	實數	人口千に付	實數	人口千に付	實數	人口千に付
千八百六十五年—同七十四年	三三一		七〇〇		一五二	
千八百八十年—同八十九年	三〇〇		五四九		一三七	

右の表は三畜特に羊の供給の減少著しきを示すものにして、此數の如くなる限りは歐羅巴は今や生肉の供給を維持するを得ざるか如し。而して歐洲各國の此影響を受くるの程度は各異なるものあり(合衆王國)統計摘要。

年	牛		羊		豚	
	實數	人口千に付	實數	人口千に付	實數	人口千に付
千八百六十八年	九〇八、三四一六	二九三	三五〇六、七八一二	一一五〇	三二八、九一六七	一〇三

年	牛		羊		豚	
	實數	人口千に付	實數	人口千に付	實數	人口千に付
千八百九十年	一〇七八、九八五八	二六九	三一六六、七一九五	七七二	四三六、二〇四〇	一〇二
千八百九十七年	一一〇〇、四〇三四	二六五	三〇五六、七〇六一	七六〇	三六八、二八一九	九二

實數のみを見れば甚しき減少なきか如きも人口の増加を併せ考ふるときは各類ともに減少を示すものなり。殊に羊の減少に至ては實數も比例も共に著しき減少なり。此に尙記憶すへきは丁度此時代に於て大貌利典及愛爾蘭の耕地の段別の減少したりしをなり。若し耕地の減少せしを知らば人は羊の減少よりや寧其増加を來すならんと想像せしならん。此表は英國の農夫にして小麥を作らざらんには其手を以て必ず三畜を飼育するならんとの經濟學上の普通の定説に對して面白き半面を照らすものなり。

佛蘭西に於ても千八百五十年より千八百七十二年までは三畜の數を減したりし。併し其後は羊の外は人口よりは速かに増加したり。

日耳曼に於ては千八百七十三年より同九十七年までに牛は千五百七十七万六千七百零二頭より千八百四十九万零七百七十二頭に増し、豚は七百十二万四千零八十八頭より千四百廿七万四千五百五十七頭に増したり。唯だ羊は二千四百九十

九万九千四百零六頭より千零八十八万六千七百七十二頭に減したり。是れ蓋し人口の増加に従ひ牛及豚の需用増加せしを示すものにして羊の減少せしは羊毛の市場に於て外方よりの競争の影響を受けしを示し共に一大變遷を表示するものなり。歐洲の他の各國は亦一種異なる關係を示せり(千八百九十八年大統利。典農事報告に詳かなり)。之を概論するに家畜の數は千八百七十二年度まで減少したりしか夫より増加し千八百八十六年度に至り最高數に達し其時以來再び減少したり而して到る所何れにても羊の數は著しく減少したり。

各國の比較 各國の三畜を互に相比較する爲めに時に大に力を之に致せるをなきにあらず。斯る目的としては家畜の單立數は其用に適せず。是れ各國人口地積大に異なるものあるが爲めたり。歐洲の統計家は多く家畜の單立數を以て人口は毎千に地積は方基米突に改算するを常とす。斯る比較は極めて粗笨にして唯た其概勢を示すに過ぎざるなり。此場合に於ては其性質の問題—血統、斤量、大小の差異—度外に措かれたればなり。人口毎千三畜の數は次の如し(千八百九十八年獨逸帝國統計四季報)。

	牛	羊	豚
丁抹	六七〇	五九七	三五三
那威	五〇五	七一〇	六一
瑞典	四〇〇	二八〇	一三六
塞爾維	四四六	一九五四	五七六
瑞西	四二八	一一一	一四〇
澳匈	三六二	一三三	一四九
佛蘭西	三四九	五六一	一六五
日耳曼	三五五	二七五	二四六
大統利	二九六	八三九	八七
愛爾蘭	二五一	六六	一一七
白耳義	三〇六	五二九	一一八
露西亞	三四〇	一八〇	一一一
和蘭	八四八	七一九	七三二
合衆國	三一〇九	三、二六九三	二八一
澳斯太刺利亞			

今參考の爲め實數を示せば左の如し(千八百九十八年獨逸帝國統計四季報を載せたり)。

國	調查年次	牛	羊	豚
佛蘭西	千八百九十二年	一三三六、四四三四	二一五〇、四九五六	六三三、七一〇〇

露西亞	千八百八十八年	二七六六、二六五六	四八二二、〇一一九	一〇七四、二〇七四
奧地利	千八百九十年	八六四、三九三六	三一八、六七八七	三五四、九七〇〇
丁抹	千八百八十八年	一四六、三四四〇	一三〇、三八八〇	七七、〇七九三
和蘭	千八百九十一年	一五三、二一〇〇	八一、〇六〇〇	五四、七四〇〇
瑞典	千八百九十一年	一九二、〇一一〇	一三四、五三三七	六五、五〇七七
挪威	千八百九十年	一〇〇、四一九一	一四一、二二九五	一二、〇七三七
瑞西	千八百八十六年	一一一、二五三八	三四、一八〇四	三九、四九一七
澳新太	千八百九十一年	一一八、八五四〇	一一、二四二八、六四九一	一〇六、八四四一
刺利亞				

一九〇

右の表に就ては別に説明をも要せざるへし。三畜蕃殖に關する各國の特性は自ら明瞭なればなり。

各國の家畜を比較する第二の法は一方基米突に對する其分配頭數なり。

國	年	紀	牛	羊	
日耳曼	千八百八十三年		二九・二	三五・五	一七・〇
同	千八百九十二年		三二・四	二五・五	二二・三
佛蘭西	千八百九十二年		二五・三	四〇・七	一一・〇
大統利奧	千八百九十三年		三五・六	一〇・〇	一〇・四
及愛爾蘭	千八百九十年		二八・七	一〇・六	一一・七
奧地利	千八百九十年		二八・七	一〇・六	一一・七
匈牙利	千八百八十四年		一五・一	三二・九	一四・九

丁抹	千八百八十八年	三八・一	三二・〇	二〇・一
和蘭		四七・一	二四・九	一六・八
瑞典		四・三	三・〇	一・五
挪威		三・一	四・四	〇・四
露西亞		五・六	九・七	二・二
合衆國	千八百九十四年	七・〇	五・九	五・九
澳新太	千八百九十一年	一・四	一五・二	〇・一
刺利亞				

家畜の數のみは實際生肉の供給如何を卜すへきにあらず。其供給如何は年々屠殺する獸畜の數と其斤量とに關す普通の觀察に由れば獸畜の斤量は農業の進歩に従て増すものゝ如し。例へは佛蘭西に於て生牛牝の重量千八百四十年には平均四百十三基なりしか千八百七十三年には五百基に上れり。日耳曼に於ては千八百八十三年に牝牛の重量平均四百六十六基牝牛三百八十基なりしか千八百九十三年には牝牛四百九十七基牝牛四百十六基に増加せり。之に反して牝牛一頭の生肉は日耳曼の各都同しからずしてアーヘンにては五百十基アルトナにては二百五十基なるか如し。

吾人は或る國に就ては年々の屠殺統計を有す。例へは和蘭に於て千八百七十一

年より千八百八十年まで毎年屠殺する豚の数は年末生存頭數に對し百分の七九にして千八百八十八年には百分の九二なりしと。場合に由ては屠殺の數は却て年末の生存數より多きをあり。實際上生肉の供給の一定時に於ける畜類の現存數に對し其の百分數漸く大なるは飼育法の改良進歩するに従ひ若き畜類を屠るの傾あるか爲めなり。例へば佛蘭西の如きも以前は羊毛を得んか爲めに羊を三四年も飼養したりしか羊毛の下落以來羊仔は二十一二月にして屠ると云へり。故に羊の實數は減少すれど生肉の供給は却て増加すと吾人か是等の事實を引くは一定國の實際の肉の供給を計料するとの困難をまさんか爲めなり

ノイマン、スバルトの形勢總覽に據れば千八百七十九年乃至同九十四年の十五年間英國にて内國に於ける肉の供給平均は凡そ左の如し(アルナル、ブール計)。

牛及犢	ホンドレット、ウエイト	百分比例
羊及羊仔	一一〇二五七八五	四八・〇〇
	六〇八、九二一五	二六・五〇

豚及鹽豚	五八五、五五四五	二五・五〇
計	二二九七、〇五四五	一〇〇・〇〇

新國に於ける家畜 歐洲各國が肉の供給に就き自國に依頼すると漸く減少するの傾あるは新國に於ける家畜統計に由て確知するを得へし。歐洲に於ける缺乏は阿米利加及澳斯太刺利亞に由て填補せらる牧場の饒多なる事放牧の蕃殖力強き事本國人の消費比較的に少き事飼育費の安直なる事運搬法の進歩せる事は獨り自ら供給するのみならず幾多の生肉を歐洲に供するを得せしむ。此運動を表章する爲めに吾人は二種の統計を有す。第一に吾人は累年家畜統計表を有す。第二に生畜及生肉の輸出統計を有す。合衆國の家畜計測數は次の如し(千八百八十五年同九十年統計要)。

年	乳牛	牝牛其他	羊	豚
千八百七十年	一〇〇九五六〇〇	一五三八、八五〇〇	四〇八五、三〇〇〇	二六七五、一四〇〇
千八百九十五年	一六五〇、四六二九	三四三六、四二一六	四二二九、四〇六四	四四一六、五七一六
千八百九十八年	一五八四、〇八八六	二九二六、四一九七	三七六五、六九六〇	三九七五、九九九三

此表は合衆國が家畜に非常に富めることを示し又二十五年間の増加の大なるを示す。而かも此數は單に田園に於ける生畜を示すのみ。近年減少せしか如くなれとも恐くは是れ計數法改良の致す所ならん。

輸出數は合衆國の統計摘要に掲載せし所なれと此は商業篇に論ずるとし此に
は唯合衆國より歐洲に輸出する數は生畜略五十万頭生肉鹽肉罐詰鹽漬肉一百万
磅以上なりと云ふに止めん。

其他の新國にても阿爾然丁は千八百九十二年に牛二千二百万頭羊七千五百万頭
を輸出せしと云ひ生肉の輸出も近年非常に増加せしと云ふ。

澳斯太刺利亞は羊の非常に多きとに就き名高き所なるか千八百九十七年の報告
に據れば一億零三百五十五万千百零八頭より多しと。

生産統計、礦物 重要なる天然の富源は地表の下に在りて一國の資産を組成
す。吾人は年々の産出高に據るの外之を計測する方法を有せず。礦山の全區
域及其繼續年限の如何に永かるへきかは單に豫算に過ぎず。後來に於ける實際
の生産額如何は畢竟作業の費に關するとなり。我が統計の唯一の用は各國に於

ける年々の産額を比較すると年々の變動に注意するとに在り。此は吾人に
各國の工業力を示し併せて年々の變動如何を示すものなり。

何れの點より之を見るも最も重要なる礦物は石炭なり。牽引力とし工場の動力
とし鑄鐵力とし瓦斯及熱の發生原力としても實に工業の基礎となるものは石炭
なり。石炭に亞くものは鐵なり。鐵と石炭とは密著の關係あり鐵は實に諸般工
業の根本的礦物なり。

金及銀は貨幣の章に於て論ずる如く貨幣として極めて重要なり。是等關係に就
き統計効用の一斑として近時に於ける石炭及鐵の統計を左に示すへし。

各國に於ける石炭の産額(單位は千噸を示す)

	千八百七十年	千八百八十年	千八百九十年	千八百九十五年
合衆國	一一、〇四三	一四、六九六	一八、一六四	一八、九六六
日 本	三、四〇〇	六、三三三	一四、〇八三	一七、二四二
佛 國	一、三一八	五、九一八	八、九二九	一〇、三九八
奧 國	六、四四四	一、九三六	二、六〇八	二、八〇二
義 國	一、三六九	一、四三一	二、四二六	二、八一二
白 耳 義		一、六八七	二、〇三六	二、〇四五

日耳曼以下四ヶ國の斤量はメートルリットクトンにて一噸は二千二百零四磅なり。

此表を一見すれば石炭の産出に付合衆王國の重大なるを知るを得べく又各國共に近き二十五年間に殊に日耳曼及合衆國に於て非常の増加ありしを知るへし。石炭採掘の斯く増加せしは鐵道の發達汽船及鋼鐵使用の増加に基くや明なり。鐵の統計も亦石炭統計の如く同轍の進歩を示せり。

合衆王國	千八百七十年	千八百八十年	千八百九十年	千八百九十五年
合衆	五九六、三五一五	七七四、九二三三	七九〇、四二一四	七七〇、三四五九
日耳曼	一六六、五一七八	三八三、五一九一	九二〇、二七〇四	九四四、六三〇八
佛蘭西	一三九、一〇〇〇	二七二、九〇〇〇	四六五、八〇〇〇	五四六、四〇〇〇
佛蘭西	一一七、八〇〇〇	一七二、五〇〇〇	一九六、二〇〇〇	二〇〇、四〇〇〇

日佛の斤量は前表に同じ。

右の表は合衆王國に於ける鐵工業の重大を示すと同時に日耳曼及殊に合衆國に於て鐵工業の睥睨瀾歩するを示すものなり。

三大國に於ける他の鑛物の生産額は次の如し(千八百九十六年)。

	合衆國	合衆王國	日耳曼
銅	二三、〇〇三	五五六	七一、七三〇
鉛	一八、八〇〇	三〇八一	一五、七五〇
亞鉛	八、一四九九	七一〇	七二、九九〇
白錫	—	四八三八	—
石油	六〇、九六〇、三六一	—	—

生産統計、織物 吾人か著服の原料を供出する淵源は土地なり。就中、木綿、麻、白麻等は植物的纖維にして之を直接の供給と云ふへく獸毛絹絲の如きは動物的纖維にして之を間接の供給と云ふへし。今は唯た各者の特性に就き一言する所あらんとす。

木綿 木綿の生産に就ては合衆國こそ之れか重大なる泉源と云ふべきなり。千八百九十年の國勢調査に據れば前年中棉作に供せられし作付段別は二千零十七万五千二百七十噓即ち三万一千五百二十三方哩にして此收穫は平均一俵四百七十七磅のもの七百四十七万二千五百一十一俵即ち一噓に付百七十七磅の平均なり。國勢調査の農業の部に合衆國の棉花の小史を載せたり。千七百九十一年に

棉花の總産額は二百萬磅にして千八百一一年には四千萬磅千八百二十一年には一億八千萬磅に上れりと。千八百四十年の國勢調査には其調査範圍に始めて農産を加ふることとなり。當該年次の前年に於ける棉花の産額は七億九千萬磅と注せらる。而して南北の戦争は大に其進歩を妨げ千八百七十年に於ける收穫の報告にては十ヶ年前の生産額に比し僅かに百分の五十四なりと云へり。千八百八十年には南部地方の形勢回復し戦争前よりも其收穫を増加し實に二十六億零七百萬磅に上れり。棉花の耕作は臨海^{ベトナム}の諸國に集中し。テキサスは百分の一九・五、フロリダは百分の一六・五、ミシシッピは百分の一四・三、アラバマは百分の一三・七即ち是等諸國にて總收穫の百分の六四を占む。千八百九十七年の收穫は一千一百十八萬零九百六十俵の推計なり。

棉花は印度支那埃及にも亦生産す。

羊毛 羊毛は廣く歐米各國に於て生産せらる。而して其生産額は之か斃屠の數に由て大に増減あり。殊に羊毛の價は羊毛を得んか爲めに之を飼養する歟將又食料の爲めに之を飼養する歟に由て定まるか爲めなり。故に是等の數は比較

的に其價値永からず。ノイマン、スバルトの推定に係る其概算は歐洲にて三億七千四百萬基瓦^{ワット}、謨^{モロ}其他の國々にて六億零五百萬基瓦謨なりと。千八百九十二年合衆王國及愛爾蘭の羊毛の生産額は一億五千三百万磅なりと。而して千八百九十八年合衆國の産額は一億一千六百六十六萬五千五百八十一磅(仕上品)千八百九十五年濠洲より輸出の實數は六億四千四百八十六萬五千六百六十二磅なりと。

生産統計 砂糖、咖啡、茶、煙草は其使用一般に通し且康福奢侈の物品にして其生産、其輸出入、其消費の統計は一國の富有、人生の康福如何を知るか爲め重要な光明を放つものなり。消費の部分に關する限りは已に第二章に於て論じたり。而して普通の統計は百事便覽統計摘要に就て見るを得へし。今此に引用するは殊にノイマン、スバルトの萬國經濟一覽に據るなり。吾人は此に近今發達の傾向を表すへき一二の特性を記すへし。

砂糖 砂糖は従前は熱帯の生産物にして歐洲は之れか供給を東西印度に仰きたりしが近く三十年來甜菜糖の製造起り大に工業全体の進路を變し需給の關係をも一變せり。千八百九十六年度に於て甜菜糖の生産額は四百八十二萬二千佛噸

にして蘆粟糖の産額は僅かに二百四十三万二千佛噸なりし。

千八百九十八年佛國經濟雜誌第三十四冊の載録に據れば甜菜糖の首要國の産額は次の如しと。

日耳曼	一八三五〇〇〇	白耳義	二七五〇〇〇
埃 甸	九五六〇〇〇	和 蘭	一六二〇〇〇
露西亞	七三六〇〇〇	瑞 典	一〇〇〇〇〇
佛蘭西	七〇〇〇〇〇	丁 抹	三〇〇〇〇

咖啡 咖啡は元と東印度の産なり。後之を西印度及南阿米利加に移植せしか今は南阿米利加こそ首要生産國となれり。蘭領東印度に於ては其生産今尙大なりと雖漸く廢弛の傾あり。ノイマン、スバルトに據れば千八百八十八年度の生産額は次の如しと。單位はメートルリツクセントチル、一セントネルは二二〇・四

ブラジル	三八四、〇六〇〇	ポルトリコ	一六、二七三
蘭領東印度	七〇、八七一〇	英領東印度	一二、二八一六
ウエネゼーラ	三九、〇三八一	サンサルバドル	一〇、三二七〇

グワテマラ

三三、二一〇〇〇

コロンビヤ

一〇、〇〇〇〇

ハイチ

二七、〇二六四

計

六四九、〇二四七

茶 七十年の始まては西歐に茶を供給する唯一の本源は支那なりしなり。亞て日本人出で、之と競争し次に近時に至り英領印度殊に錫倫より多量の茶を輸出するに至れり。支那茶の生産の金額は全く知る可らず。而して其輸出せらるは眞の小部分に過ぎざるなり。支那の輸出は千八百八十六年に一億四千四百三十万基瓦に達し之を最高數とし千八百九十一年に至ては一億零九百万基瓦に減退したりし。日本は一ヶ年に凡そ六千一百万封度を輸出し英領印度は一億零七百万封度を輸出す。

煙草 煙草は其價高値なるより極めて重要なる物産なり。其大部分が國內にて消費せらるゝか故に生産の全額を計料すると甚だ難し。且諸國にて重税を課せらるゝが故に生産額を内場に計算すると多し。千八百八十九年に合衆國にて煙草を作付せし段別は六十九万五千三百零一噐にして其収獲は四億八千八百二十五万六千六百四十六封度と計料せられたり。煙草作付段別の過半はケンタッキ

一及ウオルジニヤなりし。ケンタツキーのみにして總收穫の百分の四五を占むと云ふ。キユバは煙草の良性なるか爲め最重至要の生産者なり。其他英領印度、土耳其、蘭領東印度并に歐洲大陸に於ても多量の煙草を産す。ノイマン、スバルトは世界煙草の産額を十六億三千六百万封度と計測せり。

土地所有統計、田圃の大きさ　大區域にて地を耕すか小區域にて地を耕すかの問題は經濟學の大に論究せし所にして通例之を大耕小耕得失論と云ふ。此二組織は經濟上社會上共に異なる結果を有す。或る一定の社會に何れの組織を行ふの利たるやを決するは頗る有益なる問題なり。而して一國に於ける田地の大きさ次第に増加するの傾を有するや將た減少するの傾を有するやを決するは更に一層有益なる問題なり。總て斯る研究の根本は勿論統計的なり。則ち其大きさに従て田圃を數ふるに在り。此比較の目的に向て吾人は田圃の平均の大きさを數ふべく尙よきは其大きさに従て田圃を類別するに在り。斯る類別に於て各類田圃の關係數即ち相互の割合に着眼するとの有用なるのみならず各類の田圃の中に含まるゝ段別の割合に注意すると亦有益なり。田圃の分配上より來る意味

に關し或る決定に到着せんか爲めには以上二點に注意すると要用なり。田圃の大きさに關する國際的比較は其……價值甚だ寡し。是れ農業の狀態各國甚しく異なるか爲めなり。白耳義の如く豊沃なる處にては小田圃も善く存立すべく東普國の如き瘠地にては廣區域を要するなるへし。澳斯太刺利又は合衆國の如く土地の饒多なる處にては小地域を深く耕すよりも廣地域を廣く耕す方利益多かるへし。されは田圃の大きなるものは各國に於て種々なる農業の成立するをに就き甚た趣味ある例證を吾人に供すれど精密なる比較に至ては無益のとなりとす。故に各國共各其一國に就て研究すると必要なり。

佛國の田圃　小田圃の古大國は佛蘭西なり。佛蘭西は積年地主農組織の行はるゝ國として高名なりし則ち佛國に於て其農民か耕す田圃は殆んど皆其農夫が自ら所有する所の地なりとの義なり。ド、ホウイルの説に據れば佛國に於ては殆んど六百万の農民あり。而して地主の數は總して八百万人なりと。此組織は農作に最も注意盡力せしむる爲め獎勵の効ありとして殊に英國の經濟學者に由て稱賛せられき他の者は批難して曰く、此法は土地を四分五裂せしむる傾あり而

して斯く分裂せし土地は困難と多費とを以てのみ僅かに之を耕すを得るのみと而して其分裂せし小田圃の数は千八百八十二年に於て一億三千五百万個なりしと云ふ

田圃の大きさに従て分ちし類別 千八百九十二年に於ては其數次の如し
(千八百九十七年農事統計に據る)

田圃の大きさ	田圃の數	地積(ヘクタール)	田圃數の百分比	地積の百分比	平均の大きさ(ヘクタール)
一ヘクタール以下(二噓半)	二二三、五四〇五	一三三、七三〇〇	三九・二	二・七	〇・五九
一—一〇(二噓半—二五噓)	二六一、七五五八	一一二、四七〇〇	四五・九	二二・八	四・二九
一〇—四〇(二五噓—一〇〇噓)	七一、一一一八	一四三、三四〇〇	一二・五	二九・〇	二〇・一三
四〇以上(一〇〇噓以上)	一三、八六七一	二二四、九三四〇〇	二・四	四五・六	一六二・二一
	五七〇、二七五二	四九三、七八〇〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	八・六五

右表に就て之を見れば田圃の殆んど五分の二は其廣さ一ヘクタール以下のものなり然るに此等の田圃を盡く集むるも田圃總面積の百分の二個半より聊か大なるに過ぎず而して是等田圃の平均の大きさは僅かに一ヘクタール半なり之に反して四十ヘクタール以上の大田圃は田圃の全數に對し僅かに百分の二個半に過ぎ

ざれど其地積は全地積の百分の四十五を占有す就中最も勢力あるは一ヘクタール乃至十ヘクタールの田圃にして此は數に於て殆んど半數を占め地積に於て總地積の五分の一以上を領す。總ての田圃の平均の廣さは八ヘクタール六にして大凡そ我か八町六畝とす田圃の大きさは地方に依て大に異なりアルプス高原の如きは十七ヘクタールに達しセーヌ河畔の如きは二ヘクタールに過ぎず。

今千八百九十二年の數を以て千八百八十二年の數に比するに格別重大なる變化は起らざりしか如し。唯た此にありし運動と云は、大田圃小田圃の共に増せしに拘らず其中田圃に減少の傾ありしと云ふべきか。然れとも要するに其状態は殆んど静止の有様なりし。

日耳曼の田圃 其最近の統計は千八百九十五年のものなり。田圃の類別は左の如し(千八百九十八年農事統計に據る)。

田圃の大きさ	田圃の數	地積(ヘクタール)	田圃數の百分比	地積の百分比
二ヘクタール(五噓)以下	三二三、六三六七	一八〇、八四四四	五八・二	五・六
二—五(五噓以上—十二噓半)	一〇一、六三一八	三二八、五九八四	一八・三	一〇・一

五十二〇(十二半噓以上五十噓)	九九、八八〇四	九七二、一八七五	一八〇	二九九
二〇一〇〇(五十噓以上二百五十噓)	二八、一七五七	九八六、九八三七	五・一	三〇・三
一〇〇〇(二百五十噓以上)以上	二、五〇六一	七八三、一八〇一	〇・四	二四・一
	五五五、八三一七	三二五、七九四一	一〇〇・〇	一〇〇・〇

二〇六

右の類別は佛蘭西と全く同一にはあらず。併し第一類の二ヘクタール以下(五噓以下)の地は佛蘭西の小田圃に匹敵し而して其他のものは小農、中農、大農及大領地を代表するものなり。右小田圃は其數甚た多しと雖其地積は總地積の僅かに百分の五六に過ぎず。日耳曼に於ける實際の農業者は其數に於て百分の二十三を占め田圃總地積に於て百分の六十を占むる中地主農及大地主農に在りとす。千八百八十年來是等中等地主は漸や其分頭地を増加し小田圃及大農地は少しく之を失へりと云ふ。

左表は種々なる大さの田圃の用法を示せしものとして趣味あるものなり。

五噓以下	農作園	作葡萄園	森	林	荒地	地	其他
五噓—十二噓半	六九・三	四・一〇	一・五〇	一七・一	三・五	四・九	四・五
	七七・一	二・一〇	一・〇〇	一三・二	四・九	二・五	

十二噓半—五十噓	七六・六	〇・六〇	〇・三〇	一四・八	六・一	一・六
五十噓—二百五十噓	七四・五	〇・四〇	〇・〇七	一六・七	六・九	一・四
二百五十噓以上	七〇・五	〇・四〇	〇・〇二	二三・三	二・六	三・〇
全般	七四・〇	〇・七七	〇・二九	一七・五	五・二	二・四

大貌利典に於ける田圃の大さ 佛蘭西及日耳曼に反して小田圃の數は比較的少し千八百九十五年の調査に據れば其結果次の如し。

噓を越へず	數	百分比	地積	百分比
一噓以上五噓を越へず	一一、七九六八	二二・七	三六、六七九二	一・一
五噓以上二十噓を越へず	一四、九八一八	二八・八	一六六、七六四七	五・一
二十噓以上五十噓を越へず	八、五六六三	一六・五	二八六、四九七六	八・八
五十噓以上百噓を越へず	六、六六二五	一二・八	四八八、五二〇三	一五・〇
百噓以上三百噓を越へず	八、一二四五	一五・六	一三八七、五九一四	四二・六
三百噓以上五百噓を越へず	一、三五六八	二・六	五一、三九四五	一五・七
五百噓以上千噓を越へず	四六一六	〇・九	三〇〇、一一八四	九・二
千噓以上	六〇三	〇・一	八〇、一八五二	二・五
	五二、〇一〇六	一〇〇・〇	三二五七、七五一四	一〇〇・〇

此表に據れば一噓以下の占有權は總て之を除き農業的地上權の全數は五十有二

万個なりとのを知るへし。全數中五分の一以上か地積五噓に越へざる小農なれとも此級に屬する農民の占有地は耕地總地積の百分の一に越へざる小部分に過ぎず。田圃中最も重要なるは百噓乃至三百噓のものにして是れ數に於て百分の一五地積に於て百分の四二六を占むる者なり。大貌利典の田圃の平均の大きさは六十三噓にして就中英國は六十五噓威爾斯は四十七噓蘇格蘭は六十一噓なり元より地方に依て大に同しからず。例へばノラソムペルラントは百二十二噓ラソカシエヤは四十噓なるか如し蘇格蘭に至ては其懸隔更に甚しくソーセルランドの如きは平均の大き十二噓の如く低し。

普通の想像に反し最も多く牧場として用ゐらるゝは決して大田圃にはあらず。實際に於ては田圃の最も小なる者の多くは却て恒久の草生地として用ゐらるゝを見るなり。次の二級五噓より五十噓までの者に在ては耕すへき地の一噓毎に殆んど二噓の草生地を有す。百噓以上の田圃に於ては耕地は牧草地よりも大なり。五百噓以上千噓の地に在ては地積の百分の五八まで耕地なりと聞く。然れとも此は地方に由て極めて甚たしき差異あるものを平均したるものなり。例へ

はチエシエヤ、ダアヴ井ーシエヤの如きは耕地甚た少く之に反しソ、ホークの大田圃は四に對し一キヤムブリツヂシエヤの如きは五に對して一噓のみ恒久の草生地として報告せらる。

以上掲げたる所有地の外に五十七万九千三百三十三の小地所あり。此は三万七千百四法も十三の園地と五十四万一千九百九十の小耕地に分る是等小地所は借地夫々異なるのみならず其用途も亦種々にして庭園等に用ゐらるもの多し。其數は地方に由て異なれり。

英國に於ける小田圃の問題は千八百八十七年三月英國欽定統計協會の雜誌に於て農務局長マジョール、クレイギーに由て極めて精細に論せられたるをあり。其要點は次の如し。

第一小農作なるものは英國に於てさへも未だ全く盡きたるにはあらず例へばイリリー島の一村の如きは農業者の百分の四十七までは四分の一噓乃至一噓の地を耕しワウイツクシエヤの他の一村の如きは所有地の大半は一噓以下のものなり。斯る狭小の田圃は主として大都會の近傍に在りて都會に向て野菜果物

などを供給する者なり。加之之を耕す者も獨り農業を爲すに止らず兼て他の職業を行ふ者なり。斯る事情より最も偏鄙なる田舎に於ては小農却て行はれずとの變象を呈せり。然るに之に反して小農は田舎の人口の離散を防ぐに有効ならぬものと見へ實際上にては大農の地方にこそ却て最も多數の労働者を有すといへり。農産を需要するの地あらざる限りは唯た小田圃を作るとも人口を維持する上に於て決して有効ならざるものゝ如し。小農を英國に常に存在せしめんとする事に關しては意見區々たり。マジヨール、クレイギーは小農の存続は稍々不安のものありと雖尙存続の命脈ありと信せり。マジヨール、クレイギーの引用せしトリユツスの説にては日々生活に追はるゝ者及單に當年の收穫に依頼するか如き者は大なる者より凶年の壓迫に耐ゆること少なしと。之に反して欽定農事調査委員に提出せられし舉證に據れば大農は其田圃を維持する爲めに要する資本の多額なると物價の低落に拘らす拂ふべき賃金は之を拂はざるを得ざるよりして凶年の爲め最も難儀するものなりとのを示せり。マジヨール、クレイギーは又大農の爲めに要せらるゝ努力は小農の爲めに要せらるゝ努力よりも少しとのを示せり。五噓以下の地を耕すには二噓半毎に一人を要すれど三百噓以上の大田圃なれば四十噓毎に一人を用ゐて足れりと大田圃に使用せらるゝ人の數少なき事に關しては二つの著眼點あり、單に努力經濟の點より之を見れば吾人は最小の努力を費して農産を得るを以て最も願はしきと思へり然れとも土地に直接に關係する人民を減するを以て不幸の事なりと考ふれば吾人は之を悲まざるを得ざるなり。

合衆國 合衆國は之を歐洲の各國に比すれば大田圃の國なり。次表の示す所に由れば田圃の平均の大きさは百卅七噓なれど百分の五十以上は百噓以下なり。土地は農業的阿米利加思想に従て善く分配せらる(千八百九十年合衆國國勢調査)。

合衆國に於ける田圃の大きさ

	持主に依て耕さる	金錢にて借る	收穫の分配にて借る	計
十 噓 未 滿	九、八九九〇	二、六一八一	二、五〇二三	一五、〇一九四
十 噓 以上 二十噓未滿	一三、二九七〇	四、六九二一	八、五六五九	二六、五五五〇
二十噓以上 五十噓未滿	五〇、五三一三	一三、七七〇九	二五、九七五五	九〇、二七七七
五十噓以上 百噓未滿	八四、〇一七八	一〇、〇六一三	一八、〇六九四	一一二、一四八五

百噓以上 千噓以上	計	一五九、四六四一 七、〇九一一 二、六七二五 三二六、九七二八	一三、五七四八 五二一六 二二七一 四五、四六五九	二七、八三〇五 八二六八 二五五〇 八四、〇二五四	二〇〇、八六九四 八、四三九五 三、一五四六 四五六、四六四一
--------------	---	--	------------------------------------	------------------------------------	--

右百分比比例

十噓以上 二十噓以上 五十噓以上 百噓以上 千噓以上	計	二・八 四・一 一五・五 二五・七 四八・八 二二・二 〇・八 一〇〇・〇	五・八 一〇・三 三〇・三 二二・一 二九・八 一・二 〇・五 一〇〇・〇	三・〇 一〇・二 三〇・九 二一・五 三三・一 一・〇 〇・三 一〇〇・〇	三・三 五・八 一九・八 二四・六 四四・〇 一・九 〇・七 一〇〇・〇
--	---	--	--	--	---

小作農 經濟學は田圃の所有主の何人なるかに常に重きを置けり。即ち實際の耕作者は田圃の眞正の地主なるや否に注意せり。前掲の表は此點に就き合衆國の實際の事實を示す。千八百九十年の調査に據れば總田圃中百分の七一・六は自作農の耕す所にして百分の一〇は賃借に由り百分

の一八・四は收穫分配の契約にて之を耕せり。但し千八百八十年の割合は百分の七四・五百分の八及百分の一七・五なりし。故に此十ヶ年中に於て自作農の耕す田圃の數は毎百九五六を増加し賃借に由るものは四一・〇四を收穫分配に由るものは一九六五を増加したりしなり。是れ少しく借地農の増加を示すものなりとす。**借地農の分配** 今、自作農賃借農及收穫分配農の聯邦に於ける分配如何を見れば人口と農業法の相違より互に甚しき差異あるを見るなく、借地農は南方に於て黑人の間に甚た廣く行はるゝを見る。千八百九十年の調査に據れば田圃の類別は次の如し。

南大西洋區	自作農	四六、一〇五七	六一・五
	賃借	九、六〇九八	一二・八
	收穫分配	一九、二四四五	二五・七
	自作農	六六、八九七二	六一・五
	賃借	一五、一九〇一	一四・〇
	收穫分配	二六、五八九九	二四・五
南中央區	賃借	一五、一九〇一	一四・〇
	收穫分配	二六、五八九九	二四・五

右兩區の賃借及物借の合数は併せて百分の三八・五なるに此兩者の歩合北大西洋區は僅かに一八・四北中央區は二三・四西區は僅々一二・一に過ぎず。田圃及住家統計に就ては其狀況稍や異なるものあり此調査は田圃の數にあらすして家族の數なり。田圃を所有し又は借地する家族の百分比例は次の如し。

所	有		借	
	地	地	地	地
合衆國	六五九	三四一	二一五	一八九
北大西洋區	七八六	二一五	四五八	四八三
南大西區	五四二	四一五	二六五	四八三
北中央區	七三五	二一五	二六五	四八三
南中央區	五二七	二一五	二六五	四八三
西區	八一二	二一五	二六五	四八三

聯邦中或る國の如きは借地農の家族の數尙一層多し。例へはミシシッピは百分の六二・三南カロライナは六一・五シロジャは五八・一アラバマは五六・八なるか如し。是等統計の意味は尙十分に明瞭ならず或は曰く斯く借地農の増加するは畢竟富の集中より來るものにして土地を買ひ又之を保つとの出來難き徴候なり

と。自作農は土地の主人にして業務の利害直接に已れに及ぶか故に爲めに獎勵せられて才智熟練に加ふるに全力を盡す者なるに斯る獨立の農夫は漸々消失し土地に利害の關係を有せず。而かも土地の所有主にのみ万事を依頼する不注意なる借地農の増加するは決して好ましき事にはあらざるへし。然れとも借地農は種々なる事情より生ずる者なり。唯た單純なる労働者の借地農となりて身分を固める者あり。南方に於ては黑人をして土地に就き一定の利益を有せしめんか爲めに借地法を行ふものあり。或は單に生産法の改良より大田圃の漸次分裂するか爲めなるあり又一つには老農の都會に移り其田圃を子孫又は其他の相續者に任ずるものあり。故に借地農の數と田圃の大きさの統計のみを以ては是等問題に答ふるは尙未だ十分ならざるものあり。是等は地方の事情に従ひ借地農の事實を研究するを要用なり。例へはホルムスは合衆國を通して一般借地農の分配に付左の如く記せり。

借地農は段別平均地價の低き地方よりは平均地價の高き地方に於て其割合高く低き地方にては其割合低し要するに借地農の分配比例はアルレガ

ニ、山地方に於ては總て低く。又大西洋岸及墨其哥灣岸の地方に於ても低く、棉作地一帯は總て高く、人口中黑人が其多分を占むる地方に於ては高し。借地農の高歩合と田圃の地價高價との間には或る外面上の關係存するか如く見ゆれと此關係は偶然の一致に出つると屢なり。殊に大都會の近傍に於て二者の間に外觀上の關係あるは後に示すが如し。云々

借地農と人口稠密の間には別段關係なきものゝ如し。又借地農と田圃の大きさ或は各田圃の價格との間にも直接何等かの關係あるへしとも見へず。例へは加里福尼に於ける田圃の平均價は一万二千五百三十三弗にして此地方に於ける借地農の比例は毎百、二三・九なるにイリノイに於ては田圃の平均價は四千九百三十三弗にして借地農の比例は毎百、三六・七なればなり(案するに地價が、高ければ借り、安ければ、買ふべき筈なるに然らざるを云ふならん)。合衆國の各區を通覽するに都會の存せざる地方又少くとも人口八千人以上の市街を有せざる地方に於ては借地農の歩合少し。合衆國の全体に於て借地農の割合に多少あるは左の如し。

合衆國內各地借地農の比例

合衆國一般		人口八千以上の都市を有する地方	其他の地方
北 大 西 洋 區	二九・七一	三五・一〇	
南 大 西 洋 區	二二・四六	二〇・三四	
北 中 央 區	四七・〇三	四五・七五	
南 中 央 區	二八・二四	二六・〇六	
西 南 中 央 區	五六・七二	四七・五九	
西 南 中 央 區	二三・七一	一七・九六	

殊に西方の各地に於ては抵當の買戻禁止より借地農増加すと主張せらるれと此は統計的に査定し難し。如何にも合衆國にては田圃の賃金稍や重きものゝ如し併し家屋はとには甚しからず。田圃は其實價の三分の二の抵當價ありと假定し此抵當價の百分の十二乃至十六まで負擔するものゝ如し。土地登記簿に就て之を見るに抵當借は國內最豊富の地方に於て最も重きを知るべく又抵當借の主要の目的は新なる土地の買収と土地の改良とに在るを知るへし故に抵當負擔の壓迫か地主を借地農に變するに與りて力ありとの言は信すへからざるか如し。又田圃が殊に西方に於て投機の爲めに購買せられしと云ふは事實なり。斯る場合に於ては恐らくは名義主が抵當權主に其土地を讓渡し己れは借地人となりて續

て其地に住するなるへし。然れとも斯る人は決して真正の土地所有者にはあらずりしなり是等は單に地價の騰貴するを待ちし投機者の流なるのみ。故に合衆國の統計の示す所に據れば田圃の所有者は尙現行の組織の上に安する者なり。借地農増加の傾向は尙甚た大なりとは云ふへからず。借地農の多數殊に南方に於けるものは地主に進まんとするの第一著歩として善意に解釋すべき者なり。其他は各自の有するよりも貸付法を行て耕すを以て得策と爲すが如き種々の事情より來るものと如し。

佛國に於ける借地農 佛蘭西に於ける自作農及借地農の最近調査は千八百九十二年のものにして其數次の如し。

自作農	借地農	收穫分配
七〇七	二二・一	七二
地積	五二・八	一〇・九
	三六・三	

自作農の耕地の平均の大きさは五ヘクタール四一、賃借耕地は一一ヘクタール八九、收穫分配地は一〇ヘクタール九五なり自作農の數は近年減少の傾あり。借地

農の數は千八百八十二年に百三十万二千九百四人より百四十万五千五百六十九人に上り農家全數の百分の二七・〇九より二九・三三に増進せり(千八百九十七年佛國農業統計)。

日耳曼の農業に就ては極めて綿密なる類別あり。農民の總數五百五十五万六千九百にして其別左の如し。

自作農	賃借農	其他形式の異なる借地
二二六、〇六六	九一、二七四	九八、三五八一
數	五三、二八七	
	一一六、〇七〇	
	二〇、九	
	一七、七	
	四〇・七	
	一六・四	
	九・六	
	二〇・九	
	一七・七	

總地積中百分の八六・一が自己の所有地に係り百分の一・二四のみ借地に係れり。故に日耳曼に於ては耕者は尙土地の所有者なるを示せり(前表に誤あるは原書の誤)。日耳曼に於ては田圃の幾分まで農業を専業とせざる者に由て耕さるゝかを研究せしものあり。今百個の田圃に就き持主の本業を示せば左の如し。

農業

五七八

園作及漁業	一八
工業	二六九
商業	二六
運輸	二四
其他	八四

之に由て田圃か農業者以外の者殊に工業者の援けとなるの事情を知り得たり。且農業を本業とする五七八中其一三は傍ら農日傭を業とす。之を詳言すれば一方の田圃にて賃金を得て働きつゝ又自己の爲めに他の地を耕すものなりと云ひ又工業を本業とする者二七人中其一四人は隷屬者なり。詳言すれば是等は勞働者にして其所得に加ふるに小菜園等を耕して自ら助くるものなり。之に由て日耳曼にては經濟的改革論者の希望の如く職工は職工なると同時に土地の一片を有すへしとの事は實際日耳曼に行はれつゝあるを見たり。

科學的研究

本論に於ては土地統計農業統計生産統計などは極めて不完全にして計測よりも

尙甚たしきものならんと疑はると云ふの外他に云ふべきこと少なし。是等統計の不完全にして疑はしきものなりとのことは之を用ゐる總ての人に由つて領知せらるゝ所なるへし。而して此は實際止むを得ざる必然の結果なり。合衆國に於て畑牧場森林など、其使途に従ひ土地の片々を精密に區別計料するか如きは到底出來難き所なり。若し之を爲さんと欲せば數年を要すべく而して之を做し遂けたる時には事情一變して其事實は全く價なきものとなるへし。小麥、玉蜀黍、棉花の如きも政府にて檢閲するを得へきにもあらざれば幾何ほど出來せしやを精く知り得へきにあらず。土地に就ては國勢調査の巡調員は各農業者に就き其田圃の大き改良地及未改良地の段別及各種植付段別牧場段別等を推問すへし。是等の材料は必然不完全なり土地の注意して耕さるゝ英國の如き古國に於ては農民も多少其の道に巧者のものなるが故に田圃の段別も容易に知らるれと合衆國の如き事情の下にはそれさへ出來難きとなり。斯る統計に於て其誤謬の程度幾何なるへきやは決定し得へきにあらず。然れとも一般の目的に於ては極めて精細なることは必要にあらず。若し田圃に就き其大勢滔々として改良段別の増

加にあらは一部の農民其段別に就き誤りを報告する者あるも報告の全般に於て改良段別の増加顯はるへし。『誤謬は互に相平均す』と精しく云へば『積り過ぎは積り不足を平均す』と云ふをあり。斯る事は疑もなく起るなるへし。然れとも同じ事情の下に立つ者は恐らくは同じ様に働くへし。故に此は當てにはならぬとなり。例へば小麦作にして已に利益なきことならば農民は舉て麥作に利ならざる土地を他のものを使用せんとする傾を生すへし。統計は大体の視察を確定し吾人に時に於ける變遷と段別に於ける變化の大概を示すへし。例へば英國に於ては麥作小麦の段別常に減少し愛爾蘭に於ては牧場草地優勢なりと云ふが如し。研究益精詳とならば吾人が其結果(統計)を用ゐるに於ても益々注意を加へざるへからず。統計は屢々忽布^{ホッ}莢豆^{ホウ}豆などと瑣細の作物にまで及ふをあり。是等は地質に由て收穫の多少異なるか故に斯る作物の段別は甚だ多からざるなり。生産の統計も亦國勢調査の當年に於て收穫せし物産の數量を農業者が單に積りたるものに過ぎざるなり。是等も亦不精確なるものなり。殊に已か取り入れたる品物を已れが喰ふ如き或は其家畜を飼ふ枯草の如き小農に在ては不精確なるを免かれ

す。農民の如きは其糶賣する物産の數額さへ果して知るや否疑はしきとなり。左れば統計の如きは之を其首要産物に限るを以て明智のとなりとす。

國勢調査以外の年に於ても農務局或は實業新聞などにて年々收穫の計測を行へり。是等は至極粗漏なるとなり。此は近傍に於ける各觀察者が各作付に對する段別と其一段に對する大凡の收穫を假算計測し而して此結果が總收穫となるなり。此收穫數は其後藏番等の受入たる數量又は輸出の數量などより多少斟酌増減せらるゝを得へし。故に此數も亦唯た單に比較の用に適するに過ぎず。

鑛産物の統計は鑛業會社より採集せらるる是等は割合に其數も少く營業的に行ふものなるか故に其統計も恐らくは信すべく少くとも一般比較の目的に適應するなるへし。

家畜統計は諸統計中にも最も困難なる者なり。是れ牝軀の斤量及其性質の良否大に異なるものあるか爲めなり。吾人は市場の老練家に就て概略の平均を聞きするを得へし。

統計的技術上最も趣味あるは借地農及田圃の大きさに關する統計的研究なり。此

二現象の變動は最も重要なり。若し此統計にして借地農か耕作者として恰も田圃所有者の位置に立つことを示し或は又大田圃か漸次小田圃を合併しつゝあることを示すとあらは經濟學上の論究に對して最も貴重なる材料を供するものと云ふへし。此變動の解説は尙經濟學上の問題として止るへし然れども吾人は此事に就き少くとも材料を有せざるへからず。

以上の事業は統計的研究の權力範圍以外とは見へす但し次の條項は勸告して可なりと思はる。

第一、全國の爲めに統計を集めるよりも寧小地方に特種の研究を爲すを勸む。

土地性質と耕作法との相異より一地方に於て大田圃なるもの他の地方にては小田圃なるをあり。殊に合衆國の如きは全國よりは寧區に由て研究するを有益なり。例へば東にては大なるへし併し西にては小なるをあらん。其大きさに従ひ種々に田圃の種類を分つ場合に於ても右の主意に従ふへし。

第二、右同一の理由を以て万国比較統計は無益なり。佛蘭西に於ける田圃の平

均の大きさは一二噎半なり合衆國に於ては一三七噎なり。然れども是れ他なし唯た二國の農業組織全く異なりとのを示すのみ。

第三、地主農及借地農の統計は地方或は時勢の特別なる事情に参照せざるへからず。然らすんは解説を誤るへし。借地農と田圃の大きさを講究すれば今少しく知り得べきをあり。例へば何れの地にて借地の更に有利なるやを示すへければなり。又田圃の位地例へば大都會の近傍或は作物の種類(例へば園作牧羊棉作など)に由て講究すれば其他借地農の種々なる組織の出來すへき徴候を示す。吾人は又人口をも考へざるへからず。例へば南方に於ける黑人の如きは其借地農となるは彼等に取りて經濟上社會上の進歩を意味するにあらすや。之を要するに吾人か云はんとするは非常なる大數には何等の意味もなく却て精細なる研究に種々なる意味の存するをありとのとなり。

評 論

統計の示す所に據れば生産の要力として土地は開明の富に愈々益々多くのもの

を寄與す。是れ新開地の開けて常に開明的地積を加ふるか爲めなり。斯る事情の何時まで繼續すべきかは一の疑問に屬す。合衆國の公有地は尙盡きす。然れども其良土は已に賣られ或は讓られぬ。阿弗利加が吾人に幾何の地を供すべきかは尙未定に屬す。然し一般地積か名稱上のみ田圃となるのみにて唯だ開墾して改良地と爲せしのみにて非なる進歩の餘地を有す是れ實に資本の爲めに放下の道を開くものなり。況んや土地は種々なる事業に用ゐられ其特用せらるる事に就ては別に利益を生ずるものなればなり。此利益を生ずる大要力は交通機關の改良進歩なり。交通機關の進歩の爲め吾人は吾人の食料を最も有益に収獲し得る處に於て耕作するを得せしむ。是を以て英國にては小麦を作るを廢し土地と牧場に使用するに至れり。交通機關の改良は資本及勞力の應用も打ち勝ち難き耕作の新限界を作るか故に大に収獲減殺の法を顯はすに至れり。此は疑なく耕作法に變轉を來たし或る民級を苦むる者なれと此事たる一般の社會に對しては有益のとなり。何となれば之れか爲め食料の價を減し從て眞正の富を従前より一層多く起すべき總ての勞働が一層有効のものとなるへければなり。

自由貿易及分業法に關する經濟學上の總則は農業統計に由て大に明かなるを得べし。

農業統計及農産統計に由て顯はれたる大勢如何と云ふに歐洲は其食料及工業原料に就き漸々新國に依頼すとのを示せり。斯く發達する所の生産法は新國並に古國の農業家安價なる食料及原料の供給に依頼する工業家、食料及製造品を輸出又は輸入する貿易家に取りて甚だ趣味あるとなるへし。要するに社會其もか此複雑なる組織に關係を有するを見出すならん。食料を最も安價に産出せしめんとは抑も根本的の事業なればなり。

將來萬國の繁榮は恐らくは左の問題に關するなるへし。(1)新國は引續き安直に食料を生産するを得べきや或は新開地の膏肥盡くる時は古國の土地に類似のものとなるべきや。獨佛の農業に保護を勸むる者は斯るを希望するなり。然れども此希望は恐らくは正皓を失せん。改良より得べき土地の限界は極めて大にして小麦は尙多年の間殆んど今日の如き安價を以て生産せらるゝなるへし。(2)食料も工業原料も共に新國に於て安値に生産せらるゝとせば製造工業も亦同し

地にて行はるゝには至らずや。詳言すれば古世界の國々は唯た其製造工業たけにても維持するを得るや、少くも外國の市場に於けるたけにても能く維持するを得るや否と云ふにあり。是も亦甚た重要な問題なり。此運動の第一歩は農業統計に於て顯はるれとも尙輸出入統計及製造統計に由て補はさるへからず。吾人の知り得たる所にては工業も亦新國に於て大に興らんとするの徴あり。耕作法所有者及田圃大小の統計は生産状態の一變せしより其意味の一半を失へり。生産物の廉價を要するより農作上新法を採用せざるを得ざるが如き勢となり。小田圃を耕す小農は結局葡萄園又は日常使用する蔬菜の如き特別なる要求に應ずるのみを以て満足せざるを得ずして彼の首要農産は器械の力を借て之を多量に耕さるを得ず。地主農を保存し若くは之を作らんと計畫は周邊の事情を極めて精しく研究せしにあらすんは其成功少なるへし。然れとも一方に於ては其と同時に穀類及肉類の價低廉となるよりして他の農産物の需要愈々大となるへく是に於て小農も亦其活路を見出すなるへし。

第五章 資本組織及富

經濟上の目的

赤手の労働は土地に應用して大功を奏すると罕なり、必ずや器具器械肥料其他を具へざるへからず。是等のものは即ち資本なり。故に資本は生産の第三の要力として認識せらるゝほど重要なものなり。加之方今に於ける工業に在ては勞力を之に應用する作業方法即ち工業の組織に重きを置ざるを得ず。時に之を生産の第四要力と云ふ。

理論の必要 論者曰く資本に伴ふ労働は無資本の労働よりも多くのものを生産すと。此は説くを要せざるの言にして平常生産事業の觀察上に於て種々明示せらるゝ所にして又一般工業の歴史に於ても知らるゝ所なり。理論は斯る單純なる説を主張するよりも更に大なる事を爲すなり。理論は次の事項を表示せんとする者なり。曰く資本は直接に於て生産的なり。曰く富の増加は一つに資本の増加に依頼す曰く今時資本は益々重要な要力となれりと。又曰く資本及

組織の關係する範圍にては大計畫の生産は小計畫の生産よりも比較的其結果多しと。是れ分業の利益原料の經濟的使用工場及機械の有効なる使用市場への輸送其他分配上の利益に出づるを説明指示する者なり。理論は資本の種々なる形狀其應用せらるゝ法式其労働に代用せらるゝ範圍其代用の法則及其結果を分析解剖し又工業組織の進化工場組織の成長工業の集中多額の資本と科學的組織とを備へし土地と労働力との協力に由て富資の増進する例證を發見する者なり。

實行の必要 理論か生産の要力として資本の重要な表示せし間に實行は運動の詳細を視察するの機會を有せしと屢なり。其固定資本か如何に速かに増すかを知るは世人の趣味ありとするとなるへし。又如何なる事業に其資本か放下せらるゝや鐵道鑛山機業等如何なる形式に凝集するや此をれ知るも要用なり。經濟生活及其動作の爲めには労働と機械の關係小工業より大工業への移遷の如きは殊に重要なり。斯る移遷の起る毎に多少人民の境遇に變轉を生し或者は業を離れ或る放下資金は其價を減し或る者は其價を増加すへし。而して其加除せし利益は如何に又工業進化の段階に於て吾人は如何なる位地に立つやを知

るは極めて重要なり。斯る變遷を中止するとは出來難きとなり。又其活力を失ひたる舊態を回復せんと試むる如きは其策を失するものなり。我か經濟政策の方針は之を新形式に向けざるへからず。

統計の勤務 此に於ける吾人の希望は先づ資本の重要な事及び各工業に於て時に於ては年々歳々場處に於ては此處より彼處と終始變動する其變化を示すへき分量的計測を得んとするに在り。吾人が能ふ限り吾人は種々なる形式の資本を計料せざるへからず。則ち特殊の用に放下したる金額例へは原料機械建物及各工業に於ける。其關係的重要等を計料せざるを得ず。

工業的組織の方法は特別なる形式の下に特別なる場處に於て大工場として凝集せしものを表はす。されは極めて概略なる計數の外は統計的計測を逃るゝものなり。然れとも種々なる數と巧に用ゐる時は工業的組織の一の形式より他の形式に移る變化の事情を寫し加之變化の程度をも計料するを得へし。之を終りにして吾人は社會富實の全量方今に於ける生産手續の結果を計測すへく各社會の富を比較すへく其進歩を監視すへく租税の負擔生活の程度社會的趨勢等を計測

するか如き種々の目的に我か統計を用ゐるを得へし。

二二二

統計的材料

本文の材料は多く千八百九十年合衆國國勢調査報告製造の部に據る

資本統計 一定社會の資本は増加するや將た減少するや又如何なる事業に向つて使用せらるゝや、是等を決定する爲めに其の資本の額を知るは實益の事なるへし。之を爲さんか爲めには種々の困難あり。第一は資本と云ふことの定義なり。資本とは何のとなるや。之に就ては經濟學者の中に大議論あり。殊に食料并に消費物も亦資本と稱すへきや否と云ふに就き大議論あるなり。然れども此論を決定するとは吾人に取りては切要ならざるなり。我か統計は最好の場合に於ても是等の物を資本の中に加ふると加へざると大に異なる無きはと粗雜のものなればなり。

若し吾人にして資本の意義を最も廣く取り今日以後の生産を助くるものは悉皆資本なりと云ふか如くは一國の富より其資本を區別するは頗る難きとなるへし。其故は富の殆んど何れの一部たも直接又は間接に經濟的繁榮の爲め必要なる活動及開化狀況の維持に與らざる者あらざればなり。之に反して若し吾人か資本

とは富を産する目的にして土地勞力資本を合併せし現實の生産者なりとせば事業資本の意義となるへし。事業資本とせば生産の爲め勞力を使用するに必要な富と其形式なり。故に吾人は資本に就き二様の意義を有し共に其用途に由ては尊重すへく且統計的分解には其機會を供ふるものなり。

右二様の意義に一致すへき資本の統計を得るに二種の方法あり。第一は國富の總額を計料するに在り。吾人は國勢調査の時に方り土地鐵道田圃船舶貯藏物品等の如き富の首要なる形体を調査して以て一國の富を計料するを得或は又財産税所得税に基きて之を計料するを得。此場合に於て吾人は資本と富とを概略區別するを得。即ち資本とは富の中にて所得即ち収入を生ずるもののみを指すと限定するなり。然れども斯る區別は決して精確なるものにはあらず。結局國資と國富とは同一のものなるを免れ難し。是を以て一國の資本と一國の富とは本章の第三段に於て生産の結果と共に論ずるとなるへし。

第二の方法は首要なる工業を取り或る一定時に於て實際放下せし事業資本の額を知らんとするに在りて、此總額を集計せしものは即ち一國の事業資本なり。然

るに斯る總額を知るとは小資本の事業を數ふると難きか故に殆んど出來難きとなり。故に吾人は概して之を大工業及一定事業に限らざるを得ず社會の資本の總額を得んか爲めには此方法は第一方法の如く可なるものにあらず。資本の功用と土地と労働に對する資本の關係を分析研究せんか爲めには前者に比して後者を有用なりとす。吾人は先づ此問題を取らんとす。

製造の統計 製造統計を採集するは合衆國の最も苦慮經營せし所なり。第十一國勢調査に於て巡調員は各種の機械工場は素より小工場機械使用の業務に至るまで生産的工場には一切殘なく巡檢し調査を全ふするを命せり。然れども一千四十二ヶ所の生産工場の統計を集むるとは之を特別委員に委託するとなれり。其調査項目は次の如し工場の數資本の額費用の額備役人其賃金原料の原價生産物の價是れなり。是等事項の調査は極めて重要なり。之を結ひ之を比較する時は之に由て大仕掛なる製造事業の實際を明かにするを得へしと思はるればなり。就中調査に最も困難なるは資本の高なりとす。

第十一國勢調査に於ては資本なる言葉を廣き實在的のものとして用ゐたり。即

ち實際或る事業の爲めに用ゐられたる富の總額と云ふ意なりし。土地建物機械器械器具 (machinery tools & implements) 買入れ所有する原料製造中の半製品仕上品其他現金手形其他收入すべき證券類是なり。由是觀之其意一定時に於ける放下資金の總てを取らんとするに在るものゝ如く製造家か事業の爲めに下せし總資本即ち所謂事業資本を指せしものなり。

資本なる文字の意義如何の論は之を評論の部に譲り調査の首要なる結果如何を考ふると爲すべし。千八百九十年合衆國に於ける國勢調査の示す所は次の如し。

場所數	三五、五四一五所
資本	六五、二五一五、六四八六弗
諸費用	六三、一二二五〇三五弗
平均備役人員	四七、一二六二二人
總賃金	二二、八三二一、六五二九弗
原料の原價	五一、六二〇四、四〇七六弗
生産物の價	九三、七二四三、七二八三弗

吾人は此に或る甚だ重要な數を有す。其は合衆國に於ける工業の發達と其性質との上に光明を放ち其實際を明かにするを得べきものゝ如し。

吾人か問はんとする第一の問題は此十ヶ年間に製造は如何に速かに進歩したるやと云ふに在り。不幸にして第十一國勢調査に用ゐたる方法は第十國勢調査の方法と同じからざるを以て其結果は比較すべきものにあらず。併し其増加は次の如しと云ふ(百分比例にて之を示す)。

資本	一二一
備役人	六六
賃金總額	一三一
原料の原價	四八
生産品の價	六九

右の數をして信すべきものならしめは賃金の總高と資本の總高は共に殆んど生産物の價の二倍に上れりとの面白き推斷に達すへし。然れども今日の統計材料の有様にては斯る比較は出來得べきとにあらず。吾人は寧ろ千八百九十年の事實

に止まるを可とす。

製造の分配

千八百九十年の數を取り之を地方に従ひ又類に従て分配するを得へし。一つは工業の位地を示し他は各種工業の重要な程度を示す。

工業の位地は國と都會とに従て分つを得へく吾人は其場所數或は備役人員或は總生産物の價を尺度として使用するを得。然れども場所數の比較は價値なし。場所は大き甚だ異なりて一ヶ年五百弗の物品を生産する鍛冶も一ヶ年に數百万弗の産物を生ずる工場と均しく工場と稱すればなり。備役人の數は社會的關係の問題にしては殊に趣味ありとす。總生産物の價額は數個の舉證あり。然れども是又原料の過不足に由て大に影響せらるゝものなり。資本も亦恐らくは其他の如く好個の研究なるへし。資本は概して生産物、備役人員、原料使用額等と共に變動すへければなり。今資本と生産總額とを取り其數額の優れる國々を擧ぐれば左の如し。

資本	一一、三〇一、六一九五 ^弗	生産物の價	一七、一一五七、七六七 ^弗
紐育			

ペンシルヴェニア	九、九一二四、三二一五	一三、三二七九、四九〇一
マサチューセッツ	六、三〇〇三、二三四一	八、八八一六、〇四〇三
イリノイ	五、〇二〇〇、四五二二	九、〇八六四、〇二八〇
ヲハイワ	四、〇二七九、三〇一九	六、四一六八、八〇六四
之に次ぎミチガン	は資本の高二億六千二百万弗	ニューヨーク
ウキスコンシン	は二億四千六百万弗なり。	は二億五千万弗
資本及生産物總額の共に列に於て略秩序を保てるは注意すべきとなり。	斯る統計表は何れか製造國なるやを善く表示す。	都會に集中する模様は較著にして資本及生産の額に由て善く表明せらるゝと次の如し。
紐育	四、二六一一、八二七二 ^弗	生産物の總價額
ヒラデルフキヤ	三、七五二四、九七一五	七、七七三二、二七二二 ^弗
シカゴ	三、五九七三、九五九八	五、七七三三、四四四六
		六、六四五六、七九二三

ブルークリン	一、六一七三、〇五〇〇	二、六九二四、四一四七
セントルイー	一、四一八七、二三八六	二、二九一五、七三四三
ボストン	一、一八一九、八五三九	二、一〇九三、六六一六
ピッツボルグ	一、〇八三六、八八三八	一、二六八五、九六五七
シンシナチ	一、〇四四八、三〇三二	一、九六〇六、三九八三

本表に就て之を見るも資本と生産品價額とは略同一の次序を保つが如し。人口二万以上の一百六十五都會の直接放下の資本總額は三十九億九千六百七十万零五千七百三十四万弗なりしを以て此は全國總資本の一半(百分の六一)に過ぎたり。此比例の大なるは都會の統計の田舎の統計より完全なるにも由るなるへし。借入財産の價をも合併すれば總資本の高四十八億二千九百八十七万八千七百四十二弗なりとす。

毛織棉織の如き特種工業の國別及大都別は國勢調査の製造篇に詳かなり今抄録して其一斑を示さん。

千八百九十年ニユーイングランド及中央の國々に於ては合衆國に於ける

織物總價の殆んど百分の九〇を産出したり。就中ニュー・イングランドのみにて百分の五〇六マサチューセッツのみにて百分の二五六を生産せり。此に記すへきは一種の織物業の榮ふる國にては他の織物業も共に榮ふるとなり。獨り南方に於て棉織の發達せしは疑問に屬する除外の例なり。絹布製造の大に發達したる小數の國々は棉毛の製造も亦盛大に行はるゝ國々なり。毛織工業は當初には羊毛の生産と水力存立の位地に從ひ各地に擴まりしか今は次第に集中するとなれり。千八百七十年に於てニュー・イングランドは機械力全体の百分の四〇を占めたりしか千八百八十年に至り百分の四七五千八百九十年に至ては百分の五〇を占むるに至れり。八大國の機械力は千八百七十年には百分の六七八なりしか千八百九十年に至ては百分の八三八となれり。

工業の重要 工業の重要程度は資本と生産總額とに由て計料するを得へし就中重要なるは次の如し。

	資本 本單位は百万弗	生産物價額 單位は百万弗
機關を用て製造する木産物材及其他木材的生産所及機械工業	四九六	四〇三
鐵及鋼鐵	三八二	四一二
棉織類	三七二	四三〇
瓦斯	三五四	二六七
リキユール及麥麵	三五八	五六
製粉	三三二	一八二
印刷業	二〇八	五一三
毛織物類	一九五	二七五
材木及板製造機、建具類	一三〇	一三三
屠殺及生肉業(小販賣を除く)	一一〇	一八三
	一一八	五六四

以上十一工業何れも資本金一億弗以上は主として原料よりの生産を事とする根本的の大事業なりとす。

製造事業の内部の關係 地方に由て製造事業を分配せし前掲の諸數及合衆國に於ける是等各工業の重要程度は單に一時的地方的利害に過ぎず。此統計は單に記述に止るのみ。然れとも今一層精しき例へは前に記せし場所資本諸費

用以下四項調査に基きて是等事項の相互の關係及一般工業に對する關係を査定する能はずやとの疑問起るならん。其起るべき問題と云は、各工業に放下せられし資本の額如何資本の額の備役人員及仕拂貸金總額に對する關係如何總生産價額に對し純生産價額に對し諸費用に對し其關係如何と云ふとなり。

統計の概略なるが故に吾人は是等の間に對して委しき答の提出を期する能はず如何なる答にもせよ吾人は之を待望し得るや將た其答は信すへからずして却て誤を傳ふへきやと云ふにあり。

資本の平均額 其計畫の大なるや將た小なるや機械を設備するや將た手仕事なるや多大の資金を要するや將た然らざるやの如き工業の性質は場所に對する資本の平均額に出て表示せらるへし。左表の如き其一斑を示すものにして趣味なきにわらず。

農具	場所の數	資本	一場所平均
天幕帆布類	九一〇	一、四五三一、三九九七	一五、九六八六
自轉車及修履	五八一	三〇六、三〇〇九	五二七二
	八三	一七、二〇七〇	二〇七三

自轉車	場所の數	資本	一場所平均
鍛冶及車輪	二七	二〇五、八〇七二	七、六二二五
鐵及鋼鐵	二八〇〇	三四五〇、〇一三九	一二三二
靴及長靴注文請負修履	六四五	三、七二六七、八〇一八	五七、七七九五
靴及長靴仕入もの製造	二、〇八〇三	一四二二、〇〇八一	六八四
靴及長靴ゴム上被	二〇八二	九五二八、二三一	四、五七六五
絨緞布覆用毛織物	一一	一七七九、〇九七〇	一六、七三六一
棉段通麻段通	一七三	三八二〇、八八四二	二二、〇八六〇
男もの衣服注文請負修履	八五四	九七、五三八一	一一四二
男もの衣服仕入もの製造	一、三五九一	五四一〇、九二七三	三九八一
女もの衣服表衣裝飾共	四八六七	一、二八二五、三五四七	二、六三五二
女もの衣服仕入製造	一、九五八七	一、二八八、三〇八九	六五八
製粉	一一二四	二、二二五、九五二八	一、七三六九
瓦斯光用及沸煮用	一、八四七〇	二、〇八四七、三五〇〇	一、一二八七
石油同精製業	七四二	二、五八七七、一七九五	三四、八七四九
	九四	七七四一、六二九六	八二、三五七八
	三五、五四一五	六五、二五一五、六四八六	一、八三五九

右は合衆國國勢調査に掲けたる三百六十四工業の標本に過ぎず而して是等は次の事項を示さんか爲めに類集せし者なり。多數の工業には實に二類の別あり。其一は大規模を以て製造するもの其二は注文に應し又は修繕を爲して小規模に

て行ふものは是なり。例へは自轉車製造と自轉車修覆と靴及長靴製造と其の注文修繕とを比較すへし。何業に就ても小規模にて行ふべき餘業の存するを知るへし。又或る職業は其性質上本來小計畫なるべきものあり。例へは鍛冶車輪製造、天幕帆布製造又製粉の如し。或る業務は本來大事業あるあり。例へは鐵及鋼鐵、瓦斯及石油業の如し。若し詳細の統計表を見れば其他工業組織を明かにすべき有益なる例證少なからず。

大々の生産に對する資本の關係 大々の生産の必ずしも放下資本の額に關せざるは前々表に於て明瞭なり。其故如何と云ふに蓋し或る工業に於ては設備すべき機械の非常に高價なると製造の手續に多數の時間を要するか爲めなるべく而して他の工業に於ける首要の費用は單に原料を得るに在て其運轉も速なるが爲めならん。資本の爲めに要す所のものは利益なり。利益なるものは必ずしも生産饒多に關せずして生産物の總價の諸費用より多きか爲めに生せし純益是なり。各工業とも事情區々にして定則を見出し難し次に掲ぐる比例は其一斑を示すものなり。生産總價(純益にあらす)百弗に付所用資本左の如し。

生産品	資本	生産品	資本
農具	一七八・八〇	靴長靴仕入製造	四三・一八
天幕帆布	三九・一二	靴長靴ゴム上被	九五・四九
鍛冶車輪	六三・五三	製粉	四〇・五六
鐵及鋼鐵	八六・四八	瓦斯點燈用	四五・四〇
靴及長靴 <small>注文請負修覆</small>	四〇・八二	石油	九一・〇八

右に示せし結果は稍や驚くべきものあり。大工業と小工業の差甚しく大ならず例へは靴及長靴に於けるか如し。一般に大工業は均しく百弗の生産に多額の資本を用ゐるものゝ如し。然れども亦反對なる場合も少なからず。例へは精製糖は一九弗五〇仙リキユール製造は二九弗七六仙屠殺及生肉荷造は二〇弗九〇仙なるか如し。要するに資本と生産總價との關係よりして資本の運轉力を計測する方法尙未だ存せざるか如し。

機業に於て資本と生産品價額との關係は其使用する原料に由て異なり。例へは絹織は原料高價なるか故に資本に比して生産物の價最も大なり。

絹織に亞くものは毛織なり。毛織物の總價の其資本に超ゆる高は二千四百六十四万七百六十八弗なるか棉布製造の資本は其生産品總價に超ゆると八千六百三万九千九百十九弗なり。

硝子の製造に於ては生産品價額一百弗のものを生ずる爲めには資本も亦一百弗を要す。尙板硝子なれば要する資本二百十弗窓硝子なれば九十弗青又は黒硝子なれば僅かに八十四弗にて足れり。板硝子に多く資本を要するは製造機械の高價なると多量の原料を運搬するを要用なるか爲めなりと云ふ。

資本及勞力の輕重 生産に於て何れか一層重要な要力なるや吾人は之を決定する能はざるなり。吾人か答へ得るは各工業に於て資本は次第に重要なる働作をなすものなりと云ふに過ぎず。或は一ヶ年間仕拂はれし賃金の總高を以て資本に對照するものあり。然れとも此二者の比較すへからざるは明瞭なり。何者は資本の中には固定資本を包含すると多く總生産物より補充せざるを得ざる所のものは唯た工場機械等の腐朽磨滅等に止ればなり。第十一國勢調査に報

告せられし資本の總額は六十一億三千九百万弗にして賃金仕拂額は二十一億七千万弗なれば其割合略三分の一に當れり。千八百九十七年のマサチユセツツの製造統計に於ても資本の高三億四千九百万弗にして賃金の仕拂高一億三千二百万弗なれば是亦三分の一に當る(千八百九十四年には資本四億一千七百万弗、賃金一億二千一百万弗即ち百に付二六六)。然れとも今眼を各工業上に轉すれば其相違の甚しきを次の如し。

靴及長靴 絨及絨 木棉類 革類 機械類 金屬及金屬品類 洋紙類 毛布類 毛絲類	資本に對し賃金の割合	
	千八百九十四年	千八百九十七年
靴及長靴	七.八	九.八
絨及絨	一.八	二.四
木棉類	一.九	二.四
革類	三.二	四.〇
機械類	二.四	三.三
金屬及金屬品類	三.四	三.六
洋紙類	一.六	一.八
毛布類	二.〇	二.五
毛絲類	一.九	二.七
放下資本	二二五 <small>百万弗</small>	二二五 <small>百万弗</small>
仕拂賃金額	二一六 <small>百万弗</small>	二一六 <small>百万弗</small>

右の表は資本と勞働力の結合の種々なる情態を示すものにして其趣味少からさ

るなり此相違如何を尋ぬるに或る種の工業は多額の資金を放下し高價の機械を買はざるを得ざると原料を多量に仕入之を保存せざるを得ざるとに歸すへし。例へは靴長靴の如きは二千三百万弗の資本に對し使用原料の價六千一百万弗なるに木棉製造の如きは一億一千万弗の資本に對し使用せし原料の價僅かに四千九百万弗なるか如し。斯く多數の重要な變化は此比較の法の如何に價値なきものなるかを示せり。抑も放下資本額并に仕拂賃金總額は損益の計算上此事業こそ資本と勞力とを用ゐて最も有利なるものなりとの斷決と事業其もの、繁閑とに由て増減するものにして決して二類の工業又は年次を距てたる同一工業に用ゐて資本と勞動力とに就き其輕重を考へ以て一定の規則を其間に求むべきものにあらざるなり。

資本及勞力の効力 マサチユセッツの勞働統計局は製造工業に就き更に其内部を研究せんと試み富の増加と之を生出せし資本及勞力の二要素との關係如何を數に由て表はさんと試みたり。之を爲さんか爲めには所謂「工業的生産」を取れり。此は總生産と云ひて使用せし原料よりは却て少きものなり。

「工業生産」とは資本と勞力との結合より生したる富の添加なり。各工業の富の添加に對する効力如何は次の如し。但し此表は勞働統計局が放下資本一千弗及傭役者一人毎に「工業生産」を産出する比例を計算せし者なり。

長靴及靴類	絨類	木棉類	革類	機械類	金屬及金屬品類	洋紙類	毛織類	毛絲類
一六八四・二一	一六八四・二一	三三三・五〇	三三三・五〇	三三三・五〇	三三三・五〇	三三三・五〇	三三三・五〇	三三三・五〇
八二一・二一	八二一・二一	五三三・六〇	五三三・六〇	五三三・六〇	五三三・六〇	五三三・六〇	五三三・六〇	五三三・六〇
四六〇・二六	四六〇・二六	四六〇・二六	四六〇・二六	四六〇・二六	四六〇・二六	四六〇・二六	四六〇・二六	四六〇・二六
八七九・七八	八七九・七八	八七九・七八	八七九・七八	八七九・七八	八七九・七八	八七九・七八	八七九・七八	八七九・七八
一〇三九・七六	一〇三九・七六	一〇三九・七六	一〇三九・七六	一〇三九・七六	一〇三九・七六	一〇三九・七六	一〇三九・七六	一〇三九・七六
八九七・八八	八九七・八八	八九七・八八	八九七・八八	八九七・八八	八九七・八八	八九七・八八	八九七・八八	八九七・八八
九三一・二一	九三一・二一	九三一・二一	九三一・二一	九三一・二一	九三一・二一	九三一・二一	九三一・二一	九三一・二一
六二六・二九	六二六・二九	六二六・二九	六二六・二九	六二六・二九	六二六・二九	六二六・二九	六二六・二九	六二六・二九
七四二・六一	七四二・六一	七四二・六一	七四二・六一	七四二・六一	七四二・六一	七四二・六一	七四二・六一	七四二・六一

此表は實に大膽なる表章と云ふへし。加ふるに當局者は斯く云へり。此表は千八百九十七年に於て是等の工業に放下せし資本の働力を示し傭役者一人に對する平均工産は勞働力の効力を示す者なりと考ふるを得へしと。此言の當否は暫く措き靴工場に於ける資本の働きは絨織製造の四倍に當り勞働力は彼れに比し

て五割有効なりと云ふも強ち不當なりと云ふへからず。去りなから右の表か眞實に表章する所のものは排列比較せし工業に在ては放下せし資本の形式も夫々異にして之に應用せし勞力の種類も亦均しからすとの事を示すものなり。一の工業に於ては放下せし資本は高價の機械となり。其生産品は相當の利益及不動資産消却の爲めに必要なるもの、外多きを望まず。然るに製靴の如き他の工業に在つては原料買入賃金仕拂等の爲め多くの資本を要するが故に工産多からされは是等を補足するの道なからんとす故に若し是等各工業の資本なるもの、如何なるものより成れるやを示さは是等の關係を一層明かならしむるを得へし。勞力の効果に付ては一層著明なるものあり。熟練なる職工を用ゐる時は勞働者に對する平均の生産比較的に大なるへく不熟練者を用ゐる時は其割合恐らくは小なるへし。勞働者の熟練相同しき場合に於ても其報酬の多分が流通資本に對する報酬として償還せらるゝ場合に於ては各勞働者に對する平均の割合其勞働効力に拘らずして多大なるへし。思ふに粗雜なる統計に由て資本又は勞働力の効果を計料せんとするか如きは行はれ難きをなるへし

一步を進めし資本の解剖

前段の論究に由れば資本の總額こそ最先最要の一條項なるへし。資本とは何を指したる言葉なるや第十一國勢調査に於ては甚だ廣き意味にて此言葉を用ゐる生産の爲め實業家の指揮する資財の總額なりと云へり。之を調査するに其事項次の如し。

放下資本所有及借入金共

(一) 固定資本の價格 各場合に相當なる減價を見込みて若し之を建築するとせば當該年次に幾何を費すへきかを基礎として計算すへし。

土地	七七五 <small>百万</small>
建物	八七八
機械器具	一五八四
小計	三二三八

(二) 流動資本

貯藏原料	……
仕上品及製造中の貯藏品	……

現金受取へき手形當座帳決算

小計	三二八六
合計	六五二六

右の様式に據れば國勢調査局にて用ゐし資本の意義明瞭なるを得へし。資本の意義曖昧にして恐らくは不注意に種々の計算を立つへければ其數のみを以てすれば甚た價值あるものには非ざるか如し。而して右の類別に由れば流動資本の價の固定資本の價に略匹敵するは至奇至妙と云ふへきに非ずや。他の事項を見んか爲め一百六十五都會に於て製造事業の爲めに放下せし資本の統計を見るに。

借り入たる資産	千八百九十年調査	百分比例
土地	八三三三	一七〇
建築物	四四四	九二
機械器具	五〇六	一〇五
原料	九一二	一八八
	四六四	九六

貯藏品仕上品

現金受取へき手形當座帳決算	一〇二八	二一三
	四八二九	一〇〇〇

借入財産をも不動産中に算入する時は總資本に對する固定資本の割合は百分の五五六となり流動資本は百分の四四三なり借入財産とは蓋し首として土地及建物なり。故に宜しく兩者の中に分つへきものなれと如何なる割合にて分配すべきかは未決なり。機械器具の價は所有の土地及建物を合せしものに略均しく現金及受取へき手形の高は原料貯藏品及仕上品の高に略相似たり。假令ひ是等の數に重きを措かざるも尙是等の數は企業資本家なるもの、獨り土地建物機械等を提供のみならず又事務執行の爲め必要なる流動資本をも供ふるものなるを示すものなり。さて是等の數の如何計り精密なるやを知らんと欲せば業務の性質に由て説明し難き種々の工業に就き其報告を對照し以て比例の差異の如何に甚しきかを知るの外なし。

斯る計畫の一斑は次の結果を示せり。

(次の表は固定及流動兩資本を各百分比例と爲せしものなり)

固定資本	農具	靴長靴	車輛	牛酪干酪凝乳	精粉	製革	製紙	肉類
二一・八	二二・五	三六・〇	七二・六	六五・五	二七・七	六八・三	三七・三	一〇・七
四・三	二・二	一一・二	六・〇	一一・四	七・八	一〇・九	一〇・七	一七・四
九・四	五・七	一五・八	三四・八	二〇・〇	一二・五	二二・一	一七・四	九・一
八・二	一四・五	八・〇	三一・七	三四・〇	七・四	三五・二	六二・六	八・八
七八・一	七七・四	六三・九	二七・三	三四・〇	七二・二	三一・六	六二・六	八・八
七五	一五・三	一四・四	二・三	一一・三	一一・〇	六・八	六二・六	八・八
一二・四	一七・二	二〇・五	一一・九	五・四	四〇・二	七・八	三四・六	三四・六
五八・二	四四・八	二八・九	一一・〇	一七・七	一九・六	一七・〇	一九・二	一九・二

是に由て之を觀れば工業に由て固定資本と流動資本との割合に至大の相違あるを知るへし。則ち農具製造に在ては僅かに百分の二二のみ固定し牛酪干酪凝乳製造に在ては資本の殆んど四分の三まで固定となるにわらずや又現金手形の如きも農具及靴長靴の製造に於て他に比して殊に大なるにわらずや。資本の使用法か業務の性質に由て大に異なるは疑を容れざる所なれと本表に顯はれし如き甚しき相違は恐くは其報告の不注意不精密を示すものたらしむを得ず。國勢調査製造統計第三部に二三の業に就き收入及經費の精しき統計あり。之に由て資

本の形狀の如何に甚た異なるかを知るを得へし。次表は木棉硝子及化學的の三大工業を示す。

借入財産の價	木棉類	化學的製品	硝子製品
八三〇、一四六四	一二〇九、八〇三七	一、六八四六、二〇四四	四〇九六、六八五〇
三、五四〇二、〇八四三	一、六八四六、二〇四四	七二六四、〇〇〇七	二五四三、七四五〇
二、三〇九九、三五六七	一七二〇、〇四四一	二六二二、八四六三	五〇九、七七二六
二、三三二二、五〇九七	二九三二、一一〇三	九五八二、二〇三七	一一四〇、一〇二一
一、三八〇二、五八〇六	一九二九、九二七〇	二七二四、一一一六	八九三、八七〇三
六九七四、二六六四	四九二八、一五五一	一三六四、〇三四三	一五五二、九四〇〇
一、三三〇二、七二七六	九四、一六六〇	七、〇二六五	二一五、九八六〇
一、二二〇二、七二七六	二六八、九六三二	七、〇二六五	六三三、九一九六
三七七九、六〇〇九	二六八、九六三二	七、〇二六五	七〇三、〇三四四
四一三八、八二八〇	二六八、九六三二	七、〇二六五	二二六、七六九六
四三八四、二九八七	二六八、九六三二	七、〇二六五	七、〇二六五
一六七、一六五二四	二六八、九六三二	七、〇二六五	二二六、七六九六
四八、八七三五	二六八、九六三二	七、〇二六五	二二六、七六九六
二六八、九六三二	二六八、九六三二	七、〇二六五	二二六、七六九六
一一一、三三二二	二六八、九六三二	七、〇二六五	二二六、七六九六
三九八、七七四八	二六八、九六三二	七、〇二六五	二二六、七六九六
四〇九、八四三五	二六八、九六三二	七、〇二六五	二二六、七六九六
四二三、八六五二	二六八、九六三二	七、〇二六五	二二六、七六九六

木棉工業に於ては固定資本の割合直接放下資本の百分の六五に當り化學的工業に於ては百分の四三に當り硝子製造に於ては百分の六三に當る。又其經費の統計を見れば流動資本の重大なることをも知るへし。但し此諸經費報告は極めて不完全なるものなり。例へば「コルク」製造場の如き其報告を出せしもの二百十八ヶ所なるに其中租税を報告せしは百十二ヶ所保険料を報告せしは四十五ヶ所修繕を報告せしは六十九ヶ所事務上現金拂の利子を報告せしは二十二ヶ所雜費を報告せしは四十六ヶ所に過ぎざるなり。而して同一の工場にて他の工業を行ふ場合には右と同一の條項を報告するを得ざるなり。

工業組織の法 資本を勞力に應用し又は勞力を資本に應用する仕方を工業組織法と稱す。近時汽力を機械に應用する場合に於ては多量の固定資本、分業の執務、市場の擴張と共に一大工業の形体を組織す。是れ衆人の日常目撃する所なり。故に吾人は唯だ統計に由て大勢の變遷と變遷の程度とを示さんとするに在るのみ。吾人は工業の大工場に集中すると機械及氣力の使用増加するに就き其統計を有す。第一に吾人は工場數の減少するに拘らす多分の工業に於ては

其生産額増加すとの事實を有す。英吉利に於て千八百七十年より千八百九十年までに棉絲紡績場の數二千四百五十三ヶ所より二千五百三十八ヶ所に増加せしか其鍾數は三千三百九十九万五千二百二十一本より四千零五十一万九千九百三十四本に増加し機杼の數は四十四万零六百七十六より六十一万五千七百十四に増加せり(ホブソン著近世資本の發達に據る)。紡績機一基に對する平均の鍾數は千八百五十年には一万零八百五十八本なりしか千八百八十五年には一万五千二百二十七本となりし。ウエルの説に據れば合衆國に於て製造場より産出する平均の數額は千八百六十年に比し千八百八十年には毎百、六〇の増加なりと。

工業集中の狀況は千八百八十年乃至九十年の調査に係る次の數に由て一層明瞭となるへし。農具の製造に就ては工場の数十ヶ年間に千零三十三ヶ所即ち百に付五三を減したりしか傭役者の數は二千九百六十四人即ち百に付七人五を増し生産の價額は千二百万弗即ち百に付一八・四を増したりと。靴及長靴の製造場は其數百に付六を増せしに過ぎされと傭役者は百に付二五を増し生産價額は百に付三三を増し靴の對數は毎百、四三を増し千八百八十年に於ては一場所の平均傭

役者五十七人、一場所の平均産額八万四千七百六十三弗なりしか千八百九十年には備役者は六十七人、産額は十万五千九百八十弗に増加せしと精粉工業の数は五千八百六十八ヶ所即ち毎百、三二の減少なるも其生産額は却て聊か増加したり。製紙場の數も亦毎百、一八を減したれとも備役者の數は毎百、二二生産物の價額は毎百三五を増したり。棉絲製造場の數は千八百五十年乃至六十年より少しといへとも其鍾數に至ては方今は千八百五十年の殆んど四倍となりしと。羊毛の工業に在ては其傾き機械を増大するに在り、昔時工場の多數に於ては一座若くは二座の機械を据へしに過ぎず。西及南の各國に於ては今日と雖尙斯くの如し。然るに東の國々に於ては多數の機械を使用すると流行す。千八百四十年の國勢調査に際しては打毛機の數二千五百八十五座と注せられしか是等補助機に由て各自々家にて製造せし毛織品の價額は蓋し製造場の産額の價の上に在りたるなるへし。而して毛織もの、手續も亦反對となれり。毛織工業の手續以前は隔離孤立の様なりしより總て同じ工場にて取扱たりしが。今は分業の傾ありて洗滌整毛紡績機織染上仕上共皆別々の工場にて之を行ふとなれり。大工業の發達を

表章する他の方法は備役職工の數に従て場所を區別するに在り。日耳曼には千八百八十二年より千八百九十五年までの變遷を知るの料として左の如き調査あり。
(千八百九十八年獨逸帝國統計四季報)

場所	千八百九十五年	千八百八十二年	千八百九十五年	千八百八十二年	場所	每百増加
五人以下ノ小場所	二九三、四七二	二八八、二七六	四七七、〇六九	四三三、五八二	一八	一〇〇
中 工 場	一九、一二九	一一、二七一	二四五、四二七	一三九、一七二	六九	七六
六人―十人	一、三五四	六、八七六	八三、三四〇	五〇、〇〇九	六五	六六
十一人―五十人	七、七七五	四、三九五	一六二、〇八八	八九、一六二	七六	八一
大 工 場	一、八九五	九、九七四	三〇四、四三三	一六一、三二四	九〇	八八
五十一人―二百人	一、五六二	八〇九五	一四三、九七七	七四、二六八	九三	九三
二百一人―千人	三〇七六	一七五二	一一五、五八三	六五、七三九	七五	七五
千人 以上	二五五	一二七	四四、八七三	二一、三一六	一〇〇	一一〇
計	三二四、四九七	三〇〇、五四五	一〇二六、九二六	七三四、〇七八	四六	三九

右の表は大工場の數は小工場の數より速かに増加す。職工の數は又工場の數より速かに増加すとのを示す。

製造に於ける動力 千八百九十年に合衆國にて製造の爲めに使用せし動

力の數五百九十五万四千六百五十五馬力にして就中四百六十六万二千零二十九馬力即ち每百七八三は汽力にして百二十六万三千三百四十三馬力即ち每百二二二は水力なりし。而して之を過る十年間に視るに汽力は二百十八万五千四百五十八馬力即ち每百一一三を増し水力は百二十二万五千三百七十九馬力即ち每百僅かに三一を増加したりと。

國家の富力 本章の前段に於て吾人は事業資本即ち營業資本と稱すべき業務執行に使用せらるゝ資財の總額を論究したり。事業資本に關する報告は獨り大工業のみに就て得らるゝに止らす。其報告も亦不備なるを免かれず。而して一般商工業の如き多數なる小事業の資本及箇人に由て使用せらるゝ資本は終に計數を逸するとなるへし。

資本を計測する第二の法は先づ國家全般の富を數へ以て此總額に付資本として用ゐべき相當部分を計料するに在り。國富を直接に數ふるとは不可能なり。而して之を計數するに二方法あり。其一農業製造等の如き資本放下方法の首要なるものを取り其總額を得て之を集計するに在り。其二基礎として所得税又は其

他の税を取り斯る所得又は税金を生ずる資本の可信的價額を算定するに在り。其何れを採用すべきかは當該國家の事情如何に關す。

合衆國國勢調査に於ける方法 合衆國に於ては所得税の施行なきよりして前の第一方法を使用すると必要となれり。國勢調査局に於ては調査の科目を定め國富の計測を爲すを以て恒例とす。千八百九十年の秤價は則ち次の如し。

(一千八百九十年國勢調査)
富賃價及租税の部抄録)

總額

六五〇、三七〇九、一一九七

土地(改良工事と共に)

三九五、四四五四、四三三三

家畜(農家の農業機械器具

二七、〇三〇一、五〇四〇

鑛山石坑(採掘貯藏品共)

一一、九一二九、一五七九

金銀貨幣及地金

一一、五八七七、四九四八

製造機械(原料製造品共)

三〇、五八五九、三四四一

鐵道及其必需品共

* 八六、八五四〇、七三二三

電信電話船舶運河(其必需品共)

七、〇一七五、五七一二

其他

七八、九三七〇、八八二一

二六二

* 印の中には市街鐵道の價額三億八千九百三十五万七千二百八十九弗を含む

右の箇條に就き必要なる報告は各方面より採集せらる。土地の價は國勢調査局の判定に従ひ眞價に近き評定價なり。眞價と評定價との關係を確知せんとの目的にて全國を通して地價に通ずる者と信せらるる者に二万五千通の質問を發し回答を得て評定人の報告に比照し丁重に稽查を加へたり。農家の飼養する家畜及機械器具の價は農家之を出し國勢調査局之を集め鑛山及石坑は國勢調査に於ける鑛業の報告より金銀貨幣及地金は造幣局長の計算より鐵道機械船舶の價は國勢調査局の報告より之を集め電信電話の價は其純益を五分と見積り其資本を計算せしもの其他の項は種々の仕方にて種々の方面より集めたるものなり。合衆國の國富に關する此計算は決して大に信用すべきものにあらざるなり。課税せられし動産及不動産の評定價は僅かに二百五十四億七千三百万弗に過ぎず。然れども實價と評定價との比例は果して略毎百、四〇なるへきや否やは保證

し難し。此兩者の間には實に甚た大なる變動あり。例へば評定價額は推定眞價に對し紐育にては毎百、四四ペンシルヅエニヤにては毎百、四三イリノイにては毎百、一六ヲハイヲにては毎百、四五マサチエセツツにては毎百、七七なりと總ての數が斯く不精確なるに之に由て聯邦各國に富を分配し加ふるに之れか地圖を製して附録となすか如きは無用のとなり。而して是等の計算か種々なる仕組を以て計畫せらるゝか故に國勢調査毎の事實を對照し以て國富の増進を表示するが如きに至ては愈々益々無用の事なりとす(阿米利加經濟協會雜誌に就き教授アレインの合衆國國勢調査方法及數の批評を見よ)。

ギツフエンの方法 國富を知る他の一方法は所得税に基きて行ふに在り

其好適例はサ、ロバ、アト、ギツフエンが千八百六十五年同七十五年及同八十五年に於て合衆王國の所得及富に就きて推算せしものにして人の善く知る所なり。此法は資産の各類毎に之を區別し其所得税報告を集め利率を定めて其資本を推定するに在り。例は土地は年收の廿六倍家屋は十五倍石坑鑛山鐵工場は四倍瓦斯會社は廿五倍鐵道は廿八倍と云ふか如し。此方法にて報告を得たる放下資本の價を計算すれば千八百八十五年には七十六億一千九百七十五万一千封度

なり。之に其他不課税の額幾何を加ふれば収入ある資本總額は八十五億七千七百四十三万六千封度となる其他収益を生ぜざる動産の價額中央及地方政府の財産を加ふれば國富の總額百億零々三千七百四十三万六千封度に達す。千八百八十五年の推算の詳細は次の如し(サー、ロバート、ギツフエン著『資本の増長』を看よ)。
 千八百八十五年合衆王國の所得及富

甲式	乙式	丙式	丁
其他家土	農家の收益	公債内国公債	漁業
六五〇三、九〇〇〇	六五二三、三〇〇〇	二二〇九、六〇〇〇	三二六、〇〇〇〇
一、二八四五、九〇〇〇	二二〇九、六〇〇〇	九三三、〇〇〇〇	三五四、六〇〇〇
八七、七〇〇〇	九三三、〇〇〇〇	七六〇、三〇〇〇	六一、八〇〇〇
二六、三〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
二六、三〇〇〇〇	五〇二、六〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
二八、四〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
二二、八六四〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
五、二七四〇、〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
三、七三二、〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
三〇四、一〇〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
九〇六、〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
一、二五五、〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
六五二〇、〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
七〇九二、〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇
一一三六、〇〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二二六、五〇〇〇	二〇

市場通過税等	其他會社	外國及屬地公債等	國外	國內	外國及屬地公債等	特別配當	其他の收益	諸職業總所得額	所得税の課せらるべき總額	免除せらるる職業及營業見積高	千八百七十六年所得税免除の定額	千八百七十六年所得税免除の定額	資本より引上りたる為漏る可きもの	税を納めたるもの收入	丙及丁様式外國への放資	收益なき動産家具美術品等	政府及地方の財産
五九、〇〇〇〇	三三七、〇〇〇〇	三三八、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇	三三二、〇〇〇〇
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一一八〇、〇〇〇〇	一九七、一八〇〇〇	九、三一五六、〇〇〇〇	七六、一六、〇〇〇〇	一、二六〇、二五〇〇	二八七〇、〇〇〇〇	二八七〇、〇〇〇〇	五、四一、四四〇〇〇	七六、一九七五、一〇〇〇	一、〇八二、八五〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇〇	三、三五〇〇、〇〇〇〇	三、三五〇〇、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇、〇〇〇〇	九、六〇〇〇、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇、〇〇〇〇	一〇〇、三七四三、六〇〇〇

國家の資本及富の斯る計算に付幾分か不確實の要素あるは當然なり。其一は所得の報告は果して眞實のものなるや否と云ふに在り。此場合に生ずる誤は超過よりは寧不足に在り。其二は各項に當てたる資本の推定率なり。此は最も經驗

熟練を積みたる説に據らざる可らず。サア、ロバート、ギッフエンは各項に就き十分に其理由を説明したり。其三は表末に示せし數項の計算なり。是又經驗家熟練家の説に基けるものなり。故に斯く精密なる數になさんとするも其間には誤謬の容るべき餘地甚大なるを承認せざるべからず。然れども周到の注意を以て調定せられたる所得稅熟練家の批評を経たる計算は恐らくは吾人が國家の全富を判知する爲めに最良の方法なるべし。

資本の増長 國家の富に對する是等の計算は假令ひ精密ならざるにもせよ對照比較の爲めには尙且重要なり。試に毎十年に同一の方法を行ふとせば吾人は此に國富の増加に關して一の意見を得べく又從て其増加の歩合を知るべく又如何なる形式にて放下せし資本の重要となるや其變遷をも知るを得べし。左表は千八百六十五年同七十五年に於ける資本の高と其毎百の増減を示すものにして前論の諸點を示すものなり。

千八百六十 五年	千八百七十 五年	千八百八十 五年	千八百六十五 年より同七十 五年の増	同上の每 百増	千八百七十五 年より同八十 五年迄の増減	同上の每百 増減
-------------	-------------	-------------	--------------------------	------------	----------------------------	-------------

土地	家屋	農家	公債	鐵道	鐵工	運河	瓦坑	石坑	其他の收益	其他の所得主として諸業務諸會社の計	免除せらるる職業營業所得稅を納めざる者の資本より納まる收益の丙及丁様式外國への放益なき動産	政府及地方の財産	合計
一八六四	一〇三一	六二〇	二二一	一九	七	四一四	一八	三七	五五	六六〇	四九三八	七五	六一一
二〇〇七	一四二〇	六六八	五一九	五六	二九	六五五	二〇	五三	八四	一一二八	六六四三	一〇五	八五四八
一六九一	一九二七	五二二	五二七	三一	九	九三二	七一	二六	四	一六六四	七六二〇	一〇八	一〇〇三七
一四三	三八九	四八	三〇八	三七	二二	二四一	二	一六	二	四六八	一七〇五	三〇	二四三五
八減	三八	八減	一四六減	一九五減	三一四	五八	一〇〇	四三	一〇〇	七一	三五	四〇	四〇
三一六減	五〇七	一四六減	二五減	二〇減	二七七	二七	五	七三	三二	五三六	九七七	三	一四八九
一五・七	三五・七	二・九	一・五	四・五〇	六・九〇	四・二〇	二・五〇	一・三・〇	三・八・〇	四・七・五	一・四・七	三・〇	一・七・四

右の表に由て之を見れば合衆王國の富は千八百六十五年より同七十五年までは

四割の割合を以て増し千八百七十五年より同八十五年までは一割七分四厘を以て増せり。然れとも此に吾人は後年に於て物價の天下落ありしを記せざる可らず。サー、ロバート、ギッフエンは此下落を以て大凡そ一割五分なりと算定せり。而して若し吾人か千八百七十五年の總價より一割五分を控除すれば八十五億封度は變して七十五億封度となるへし。左すれば千八百八十五年に百億封度を増加せしは前の十ヶ年に均しく殆んど四割の割合なり。若し又千八百八十五年の數を修正して之に一割五分を加ふれば其總額百十五億封度にして亦殆んど四割の増加なり。尙一層古き時代の事に就きロバート、ギッフエンは古き計算を利用し次の如き比較表を示せり

千八百十二年以來合衆王國に於ける資本及人口の増進

年	人口を單位とする	財產單位を單位とする	每人頭封度
千八百十二年 (コケインの說に據る)	一七	二七〇〇	一六〇
千八百二十二年 (コケインローに據る)	二一	二五〇〇	一二〇
千八百三十三年 (コケイン、マプロド、マブレレルに據る)	二五	三六〇〇	一四四

年	人口を單位とする	財產單位を單位とする	每人頭封度
千八百四十五年 (所得税に據る)	二八	四〇〇〇	一四三
千八百六十五年	三〇	六〇〇〇	二〇〇
千八百七十五年	三三	八五〇〇	二六〇
現時 (譯者曰く現時とは著述の當時なり)	三七	一〇〇〇〇	二七〇

資本の種類

前々前表に於て示せし如く資本放下の最も重要なる形状は土地及家屋なり。然れとも二十年間に於て土地は其第一位を失ひ家屋代つて其位地を占めたり。是れ農家の利益減少し従て農地の貸付料低落せしか爲めなり。鑛山及鐵工の價の減せしはサー、ロバート、ギッフエンの說に據れば千八百七十五年の頃法外に騰貴せし反動なりと其他の事項は皆増加せり。唯た其割合を同ふせざるのみ。就中鐵道と諸職業諸營業との増加は其著しきものなり。斯く計算せし國富の用法は次の如し。

- 一、所得を推算せし財産の存する處に從て其社會の所得を互に對照すると
- 一、異なる社會の上に國債負擔の輕重を測る事
- 一、總収入歳入人口の如き他の要素を參考とし各社會の應分の力量と資量とを計料する事

一、社會に於ける總貯蓄を自由貯蓄と株式仲買の手を経て漸次資本として放下せしものとに區別して比較する事

一、貨幣の價格の『變化の問題』に對する説明に資する事

ホーキールの方法

相續税に基きて佛國國富の精密なる計算をなせしと

あり。佛國に於て相續又は讓與に由て年々移權する財産の高は大凡そ六千二百五十万佛なりモツシユード、ホーウキールの計算に據れば先代より後代に移る平均の歲月寧一定の財産を某甲が受取り之を次の相續者に渡すまでの間は凡そ三十六年なりと此意は佛國總富額の三十六分の一は毎年相續又は生前の讓與に由て移權すとのとなり今六千二百五十万佛に三十六を乗する時は二億二千五百万佛となる是れ佛國に於ける私有財産の總額と見るべきものなり
右の計算は各項に従ひ佛國の富を秤價する他の方法にて補助せらる即ち左の如し

土地

七五〇百万佛

建物(工場を含む)

五〇〇

金銀貨幣

五〇

公債株券

七〇〇

農具家畜

一〇〇

動産別項に掲げたるものを除き

一五〇

々

二二五〇

科學的考試

本章に於ける首要問題は統計の方法に由て工業上に放下されたる資本の額を能く計料し得べきや否に在り此事に就き吾人は或る明瞭なる誤謬を有す

會社資本 會社の場合に於ては所謂公稱資本なるもの存す此公稱資本なるものは元來放下せし金額に對して必要の關係なく又土地建物等の現價にも關係なく又業務の執行に必要な通貨の總額にも關係なし若し多くの場合に於けるか如く利益あるに方り其株數を増さすして之を實際に資本に運用する時は其公稱する資本高は餘りに寡少なるへし若し又發言權の爲め或は業務の利得を街はんか爲め株數を増發せし場合に於ては其額却て餘りに大となるべし業務を合

併する場合に新株を増發するか如きは業務刷新に由て舊來の資本の利益を作興すと云ふの外一つも根據とすへきとなし之を終りにしては多くの事業計畫の場合殊に鐵道事業の如き事業費の全部又は一部は債券にて顯はれ株式は多少詐を含みて一つに収益あるものゝ如く粧へり例へは千八百九十六年に於て合衆國の鐵道の放下資本は次の如しと云ふ

資本

五二、九〇七、三〇五、六七^冊

債券

五四、一六〇七、四九六、九

一時借入金

三三、九五〇、二三〇、二

一一〇、四六三〇、七八三八

元來鐵道が右の費用を要したりとの保證もなく却て現今鐵道を新に布設するとも斯る費用を要すへしとも確信せられず其他銀行保險鑛山其他の會社の如きも其所謂資本に關しては同様なり

信用資本

名稱上の資本に就ては前文の如き誤謬あるより統計家は一定時に於て首要なる工業に實際使用せらるゝ資本の額を算定せんと勉めたるをわり此

に盡力せし先進者はカロール、チー、ライトなり。ライトは千八百八十五年のマサチュセッツの國勢調査に於て之を試みたり。

是より先き合衆國の國勢調査に於てもマサチュセッツの國勢調査に於ても製造家に其事業に放下せし資本の高を報告せしむるをなりしか此報告は頗る不完全なるを以てゼネラル、ウォーカーは斷然之れか廢棄を決定せしほどなり。ミストル、ライトはマサチュセッツに於て或る會社の名義上の資本は其實資本より慥に三分の一寡少なりとのを知りたるを以て千八百八十五年に於て新類別法を採用して次の結果を得たり

百分比例

土地

三四四、一二五、一六^冊

六、八七^冊

建物及定著作物

八四四、七四、一二七

一、六八七

機械

一〇〇、九五、五六、一九

二〇、二七

器械器具

一四二、九、八七、一一

二、八六

現金

一、七三、四四、〇九、四七

三四、六五

組合人又は株主より信用にて出せし資金

一九四、八、一四、〇五

三、八九

債券手形又は長期の)

七三五三、一〇五二 一四・六九
五〇〇五九、四三七七 一〇〇・〇〇

二七四

此類別に付特別なるは固定資本に加ふるに信用資本を以てせしと現金を以て流動資本を加へしとなり統計局は斯る信用資本を測定する爲めには次の方法を用ゆへしとのとを勧告したり。則ち利息の總額と其年中の割引の平均を取り此利息の高と利子とを計算して借入金額を推定すへしと。例へは會社の仕拂ふ利子の總額二千弗にして割引の利息六分ならば借入金は十万弗なりと算定するか如し。此に由て之を視れば製造統計の中には其固定資本と共に信用資本の包含せらるゝや稍や明なり蓋し斯の如きは畢竟製造家か其製造品を作出する力は實際建造物又は機械等に放下せられし金額のみならず又其信用に關するを大なりとのとを表するものなり製造家は其信用に由て一ヶ年中好時機に投して組人又は株主より借越しをなし又は取引先きの交渉に由て其左右する生産力を資本の形式にて増加するを得へし斯る資本は統計にて捕捉し得へきにわらず。千八百八十五年マサチューセッツの國勢調査にて其資本に加りたる信用資本の高

は甚た大なるもの(九千三百万弗なりしか如くなりしも報告の二割のみ組合員の出せし信用資本を記入し百分の一割二分五厘のみ其他の信用資本を記したりしか如し製造家か是等の間に悦んで答ふるや將又答へ得るや否やは疑はし。第二には又信用資本が機械原料現金等と重複するの恐無きにわらず試に思へ銀行より資金を借り機械を買入れ或は原料其他の需用品を買ひたりとせば能く二重の計算を爲さるへきや如何。

資本の推算 千八百九十年の合衆國々勢調査は此思想の稍や變調せし者なりといへとも尙一定の時に於て業務の大勢を卜する爲めに資本を取るとなしぬ。故に土地建物機械原料現金のみならず製造品受取手形當座勘定までを包含す。此は業務の力量を代表するものにして又資本の形式を爲せる生産力を代表するものなり是れ則ち廣き具體的の意味に於ける資本なり而して人は云へり如何なる製造家にも右の事項は其帳簿より報告するを得へきものなりと。然れども之にても製造家の信用資本なるものは一部分なりとは云へ尙重複となるの恐あるはミストルノースか次に説明する所の如し。

例へは甲紡績場にて十万弗の木綿を他の工場に賣り此に手形にて仕拂を受けたりとせよ此に甲場にては之を信用資本の中に算入すへし而して乙工場にては是の木綿を原料として其資本に算入すへしと。

具體的資本 千八百九十五年のマサチュセツツの國勢調査に於て資本の意義を一層狭く解釋し唯だ直接に製造に使用する器械原料及現金製造中の營業品工業用品の如き業務の用品に限らんとせり此定義に従へは仕上品受取へき手形當座計算は之を排斥したるなり是れ狹義具體的資本と稱すへきものなりマサチュセツツの報告様式は次の如し

- い 工場の占有する土地の價 (若し所有ならば)
- ろ 建物及固定物の價 (若し所有ならば)
- は 機械及動力の價 (若し所有ならば)
- に 器械器具の價 (前項以外の)
- は 特許商標等の價 (若し所有ならば)
- へ 報告當日の銀行及手元在金

と 報告調製の當日に於ける工業に使用すへき原料及用品の實價但し製造中の物品をも含む。

上掲の調査書式に於て(い)より(へ)に至る項目か業務に必要な資本を含むは明白なり専ら生産に要する資本の項目はこれにて盡くせり。(と)號に關しては其趣旨分明ならざるものあり。右の中には不完全なから貯藏品及生産品なる箇條あり如何に考ふるも是等は製造を了るに先んして放下せし資本又は製造を行ふに必要な資本の形狀なり。斯る調査は少くも重複の恐れなく而かも分明にして確定せる答を要するの價値を有す。但し専ら生産に用ゐる資本は之にて一つも漏らさざるものゝ如し。

吾人は此類別を合衆國の類別に比較して其價値如何を論ずるを要せず。合衆國の調査は其資本か機械に下されしか或は又現金若くは仕上品或は得意に對し信用貸となり居るかに拘らす業務を行ふに必要な額を知らんとするに在り。而してマサチュセツツの報告は實際生産に使用せらるゝ部分のみを知らんとするに在り此兩法は次の理由あるか故に共に満足なる結果を得へきや疑なき能はず。

(1) 此處に根本的の困難あり此類別にして假令ひ完全なるにもせよ斯る問題に對して事業家が答ふること能はざるか若くは答ふるを欲せずとの事あらは如何。土地、建物、機械、特許、商標の眞價は幾何なるべきや。本來是等の物の實價は幾何なるや下落せし時の見込を立てし價なるや、賣却してそれだけの價あるものなるや。以上の豫定價は勿論互に大に異なるべきも而かも正直に爲し得べきものなり。然れども其困難は此に止まらずして事業家か此面倒を爲すへしとは決して保證し難きにあらすや、又之を作りし後と雖之を監督訂正するの道なきにあらすや。

(2) 資本統計に於て常に感せらるゝ一大困難は占有せし借地の價なり。此借地の料は製造家より資本として報告せらるることなく之を單に事務費の一部に加ふるを常とす。又吾人は借りたる建物の價を問ふを常とすれども數名の製造家か同一の家屋を用ゐる場合に於ては脱漏重複の恐あり借入れたる動力又は機械に於けるも亦然り。

(3) 同額の物産を生ずる二工場にて一は十萬弗の工場を有し他は之を借る

とせは同し生産物を造出するに必要な資本に相違あるなり

第十一國勢調査に於て借入財産の價を十一億五千六百萬弗と推定したれと實用の價値多からずマサチュセッツの調査にては全く之を廢せり。總生産及純生産又は賃金仕拂高等に對する資本の關係の如きも決して統計にて十分に顯はるゝものにあらす。其故は生産の狀況と場合は事業毎に又時毎に大に異なるものなればなり。總て是等の數を相結んで利益を計算せんとするも先づ數の不確實なるか爲に失敗し又實業を組織するものにして而かも確知し難き要素又は勢力の爲めに敗亡すへし。故に資本の統計を得んとする計畫は斷然之を放棄するを以て得策とす是等の統計は不確實不信用にして一般事業家に通有なる知識を有する者の善く知れる最概略のものに過ぎず。加之是等統計は資本と勞力との關係的重量及關係的報酬の問題に就ては却て人を誤謬に誘ふの介たらざるを得されはなり。

總生産及純生産 合衆國の國勢調査は調査當年同國に於ける總ての製造工

業の總生産額を知らんとし加ふるに國勢調査の年は千八百五十年までは遡て之を調査せんと欲せり。是等の工業は其數三百六十九類にて各類に就き總生産額を示すとせり。調査は此に止まらずして製造工業の生産額を州別として示し且千八百五十年以來の各國々勢調査の年に於ける事實の比較をも爲すとにして尙之にも飽き足らずして各州に於ける各工業の生産額を區別表章し各州内の各部にも及はんとせり。

是等の數にして果して正確なるものなりせば合衆國の製造工業に就ては甚だ精しき調査を得たる譯にて場處に就ても時に就ても比較をもなし得べきなり。材料は斯る比較の爲めには餘りに不完全なり其理由左の如し。

(1) 總生産(Gross Produce)なる言葉は餘りに漠然にして精密なる使用に適せず却て誤迷の種子となるべし。此中には原料の價をも包含すへし。然るに乙工場の原料は屢々甲工場の生産品なれば總生産額なるものは重複すると少なからざるへし。加之工業が多く工場に分れて行はるれば此の重複は愈々多かるへく種々の取扱か一ヶ所に集中せらるれば此重複は少なかるへし。總生産は製造の組織及手

續の相違のみにて工業毎に變すへく時毎に變すへし。故に斯る統計は殆んど無意味のものと云ふべし。

(2) 報告其者か不完全にして而かも國勢調査の調査毎に工業毎に場處毎に不完全の程度を異にす。千八百九十年の報告は千八百八十年の報告よりも完全なり。都市の報告は田舎の報告より完全なり或る場合に於ては大工場の報告を得ずして調査を終るとあり。且又工業も首要の生産物に由て類別せらる特別報告の計は一般報告の計には合せざるなり。例へば特別報告にて鐵及鋼鐵なる名稱の下に組入られたる如く見ゆる多くの工場が一般報告にては釘、鐵線、棉俵の帶鐵の如き殊別せし名稱を蒙れり。其結果混雜なれとも致し方なし。斯く異なる基礎の上に立てられたる比較は誤迷の媒介たるを免かれざるへし。然るに若し比較の用に立たすとせば總生産なるものは全く無意味のものとするの外なし。

(3) 總生産の價より原料の價を扣除する時は純生産となるは此製造の手續に由て原料に添加したる價值を代表するものなり。然れとも總生産及原料の價にして不確實ならば其結果も亦不確實ならざるを得ず又之を以て工業の利益と認むへ

からす之より尙雜費を扣除せざるべからず。且記せよ總生産物の價なるものは工場に於て積りたる價なるを此純生産と資本或は賃金總額又は原料の價との比例の如き正に迷誤の種子たるを免かれず。

(4)時を以て比較するには尙此他に困難あり。何そや價の基本變化せしことなり。千八百七十年には紙幣を以て價額を計算せしなり。勿論之れが爲めには二割を刪減したりと云ふ。千八百九十年は千八百八十年より物價安直なりし。故に同額の物産出來したりとするも其價額は大に寡少ならざるを得ず。之に就ては恐くは又ソレ相當に物價下落の爲めに起る變化を示す爲めに物價の標準數なるものを示せしなるへし。然れとも其は亦他の不確實を誘ふに過ぎず。

鐵及鋼の工業に於て千八百八十年より千八百九十年まで其價の増加は二億九千六百万弗より四億九千八百万弗に上りたれば毎百六一四なるに噸數の増加は七百二十六万五千四百四十噸より千八百二十一万六千二百十五噸に上りたれば毎百一五〇七なり。

或は時に其價を取るとなく木棉は碼にて鐵は噸にて取るへしと勸むる人もあれ

と單位にて計算するも調査より調査までには其性質變るへく況や斯る種々の名稱を以て工産の總量を計數するは到底行はれ難きとなり。故に實際に於て吾人は吾人の研究を價格に就ても單位に就ても之れが計測を爲し得へき或種の工業の生産額のみ止めざるを得ざるや明かなり。

評 論

統計は生産の要素として資本の重要なことに關して經濟學の理論を確證す。富の増加は人口の増加より急なり。之を詳言すれば資本の増加は勞働力の増加より急なり。大なる生産國は最高速度を以て富の増加する國なり。社會は其生産を以て已れを支ふるのみならず其富の一部を以て他の生産に用ゆ。一たひ四十年來鐵道の爲めに放下せし非常の資本額に思ひ到らは斯る莫大なる高が何れより來りしやとの問起らん。何れより來りしにもあらず其多分は鐵道自ら生産したるなり。新方法は極めて生産的にして利潤として夥多の超過を來たし此利益は一轉して又資本となる。各工業共に斯る狀況なり。千八百五十年に木棉の工業に用ゐたる資本の高は七千四百五十万九千九百三十一弗と推定されしか千八

百九十年には三億五千四百零二万零八百四十三弗に上れり。此増加せし資本は首として木棉工業の得たる利益にして再ひ之を資本として放下せしものなり。新工業も亦起り其資本も亦供給せらる例へは石油の如し。石油の資本は千八百九十年合衆國に於て七千七百四十一万六千二百九十六弗なりし。此に又漠然ながら統計的に搜索し得る一事あり。則ち手工の機械工業に移轉するとなり。例へは麵包又は麵包類の製造資本は千八百八十年に於ては千九百万弗なりしか千八百九十年に至りては四千五百万封度以上に上れり。其計畫の擴大せしは工場にても知らる煉瓦及瓦の製造場の數千八百八十年には五千五百三十一ヶ所にして千八百九十年には五千八百二十八ヶ所なれば箇所は唯た僅々を増せしに過ぎされと其資本に至ては二千七百万弗より八千二百万弗に増加し其生産高は三千二百万弗より六千七百万弗に上れり。斯く資本の集中するは時勢の然らしむる所にして拮抗すへからざるものゝ如し。斯くて工場は皆大都會に集り大都會々其大を加ふるの因となり此偏重を來たし而して其原因は亦鐵道其他交通機關の發達に在り。總ての系統は互に相ひ係り能く其煩累を免かるゝも

のなし。方今工業組織の屈從斯くの如く甚しと雖尙二種の地方分派あり。一は工業の性質よりして汎く地方に頒布せるものなり。建築又は地方の修營の如く又運送し難き重量品の如し。二は大都の負擔例へは市稅借地料等を逃れんが爲め大都を避けて小市に就くもの是なり。然れとも資本生産共に大に集中するは今後の勢なるへし。要するに同量の産物を製造するに多分の資本を使用する是なり詳言すれば固定資本を増加し一層多勞にして紆徐の方法を取らんとする者なり。此は統計上生産に比して資本の増加せしにて知るを得へし。我か統計にして今少しく完全ならば機械器具の爲めに下せし資本の増加歩合を示して之を説明し得へきに。

資本と勞力と何れか重要なると云ふに關しては我か統計は疑もなく資本の重要なるを示せり。詳説すれば勞力は次第に複雑にして高價なる機械器具の助を借らざるを得ず。其如此一方に資本は益獎勵すへく決して其勢を殺くへからず。此は立法と輿論にて容易に其目的を達すへしとの義理を示すものなり。且資本増加すれば一定の業に在ては或は一時其業を離るゝ者ありとも全体に於て勞力

の需用も亦増加すへし。第十一國勢調査の賃金騰貴の統計は恐らくは誇大なるへきも他の賃金統計に徴するも亦然るものあり。賃金統計に據れば勞力の報酬は減少するよりは寧ろ増加しつゝあるなり。

此は資本と勞力との利益は同一なり。資本の饒多は高賃金の先驅なりとの經濟學の通則を確證するものなり。方今の經濟組織に於て資本が勞力を虐待するを妨ぐる二箇の事實あり。一つは資本饒多にして尙互に劇しく競争する事なり。二は勞働者の轉移なり甲の業より乙の業に遷轉するを得る事なり。資本が機械の形を取りて此兩運動を獎勵するをあり。最新發明の機械となりて屢々舊式機械との競争に成功するをあり。機械が單純にて自動的なればそれだけ勞働力を甲の業より乙の業に轉せしむると容易なり。資本は一方に其高の非常に増加すると同時に他方には勞力に依頼するを益大なるへしと思はる。勞働力は生産に就き尙依然として有力なる要素なり。但し唯だ單純なる勞力にはあらずして而かも最も完全なる器械を具備し以て天然力を制馭する所のものなるへし矣。

第二編 交換

消費及生産までの關係に於ける交換 經濟生活の上古の形に於ては

人は直接に其需要を充足せし者なり。各人共に其費やす所の者を生出せしなり。生産の手續の稍や複雑となりしより殊に分業の道開けてより己れの生産物を以て他人の生産物とを交換し得へしと信するか故に各人共に己れか最も適したる物産を生出するとなれり。是に於て各人共に其需要を間接に充足するとなれり。麵包焼は其焼く所の麵包を以て其穿つ所の靴に代へ靴師は其造る所の靴を以て麵包に代ふ。多數の人は曾て自ら使用せし事なき物品を製造す。例へば化學者は其製造せしコロロホームを使用せし事なく絹織職工は其織りたる絹布を纏ひしをなきか如し。カール、マックス曰く方今の世は人は自ら必要とせざる所のものを製造すと眞なり。

斯る事情は個人の間止まらずして國民相互の間にも及へり。之を國際貿易と云ふ二様の結果之に次く第一の結果は生産の所作次第に複雑となり廣遠となり

恒常の貿易又は交換となれり。生産は生産品の分配を終り各人の希望を達するに至らされは十分なりと云ふへからず。ゼービーグラークも云へる如く交換は其實生産の一枝葉に過ぎず。吾人の知る如く商業交通交換の爲めには社會多數の人民専ら力を此に致せり。交換なき生産なるものは必然不完全なり交換中の或る事件を生産以外の現象とするは不自然にして唯た便利の爲め許すへきものあるに過ぎず。第二の結果は各人の經濟上の幸福は己に屬する生産の力に關するを勿論なれとも己れか生産せし所のものを以て己れか需要する所のものに交換し得る力に依頼すると恐らくは一層大なるへし。各人か其需要を満足する程度は所謂分配の所作に由て決定する所のものなり而して其分配は交換に由て始めて實際に行はるゝものなり。交換は其實分配の所作なり而して分配と生産的所作との間には分離し難き纏綴あり斯くて吾人は生産より交換を経て分配に移り終に消費に歸著し此に一周圏を全ふす。是等互に相待て社會の經濟的活動を全ふす是れ則ち人類の經濟的動作なり。

然れとも吾人は生産論に於て便利の爲め土地勞働及資本を生産の三要素として

論せしか如く實際は決して別々にあらずして資本家か自ら材料を取つて調理するをあり交換と分配の現象を別々に研究する方便なるへし。吾人は交換の部に於て生産の所作か如何に複雑となり來りしかを説明し。分配に於て此混雜なる生産物交換が各人に及ぼす効果如何を研究すへし。

交換に於て吾人が研究するは左の三方針なり(1)交換に用ゐる言辭價格及物價(2)交換の機關即ち貨幣及信用(3)交換の有形的現象、貿易商業及運輸。今之を論するに方り其前後を云ふへき必要を見ず、商業貨幣市價は皆共に同時に存立するものなり。故に此に論する秩序は前篇に論せし秩序を取るへし即ち勞働土地資本より國富に及ひたれば此には物價貨幣信用より内外貿易に論到すへし。

第六章 物價

經濟上の目的

物價の法 物品又は勤務と交換せらるゝ爲めに金錢にて定めたる高を物價と稱す。經濟論の勤めは此價の定る法式を説明するに在り。一方に於て或る物品

を購買し又は或る勤勞を得んとするに於ても大に之を望む者と少しく之を望む者とあり。従て之れか爲めに大に其價を拂はんとする者と少しく之を拂はんとする者と一人以上の購買者或は希望者あるへし。

又他方に於ては同し物品又は勤勞に對して稍や大なる報酬を求め又は稍小なる報酬を求むる一人以上の商賈或は勞働者あらん。而して物價なるものは何れ如何なる場處又は時に於ても一定の價にて提出せられし供給の高か其價に同意する需要に由て購買せらるゝものなり。物價の此點にあるを之を需要供給の標準と云ふ。故に一定物品の價を説明せんと欲せば必ず先づ需要供給の狀況を調査せざるへからず。之を概論すれば需要大なれば供給小に價貴く供給大なれば之に反す若し價の騰落を説明せんと欲せば是又需要供給の狀況を查察せざるへからず。是れ極めて容易ならず一方には需要も甚だ種々の事情に由て影響せられ他方には供給も亦容易に定め得へきにあらざればなり。需要は第一に飽滿の法に由て司配せらるゝものなり。詳言すれば慾望か満足せらるゝ時は慾念は其力を失ひ需要は速かに減退す。或る物品の需要は他の物品を代用するか爲めに大

影響を蒙るゝ屢なり。價の騰貴せし場合に於て咖啡の代りに茶を用ゐる牛肉の代りに猪肉を用ゐる等の如きは是なり。又需要は他の場處或は他の本源より供給の來るまで其満足を延引する力あるか爲めに又之に由て影響せらるゝものなり。物品の供給は極めて種々なり。或る場合に於ては眞に制限ありて其價を増すと増加し難きものあり消滅するものゝ如きは一時に費消せざるを得ず久しきに耐ゆるものは貯藏の一部を未來の需要の爲めに保存するとあり時間に暇あれば物品を新に供給するの道あり。但し此増加せしものは從前の費用にて製出せらるゝとあり又は遞減法の爲めに費用の増すとあり或は増加法の爲めに之を減するとあり。是等の事情か種々相關連するとの有るへきを考ふれば物價の騰落を説明し又は其未來を推測するとの如何に混雜なるやは推想するに難からず。

物價變動の效果 物價の變動は社會の各人に影響す。人か其生産せし所のものを賣つて以て得たる價金は其勤勞又は能力が適當の報酬を受け得るや否と決する所のものなり。而して此價金は他方に於て消費者に對しては其所得は如何なる程度まで買ひ進み得るやを決するものなり。標準價の一般の變化の如き

は社會の全般に影響するものなり。物價昇騰すれば業務を刺激獎勵し事業家及相場師に幸し、物價下落すれば業務を沈滞し相場師の勢を殺く。物價と賃金と同じ比例を以て同時に變する時は労働者の状態は同一にて止るへし。然るに一方の他方に後るゝとわれは労働者は生活費に缺乏し業主は賃金の爲め製造費不償に増加して共に一時大不便を感じるをあり。之を終にして一定價額を以て延へ取引を爲すの契約ありとせんに標準價の變化は債務者の責任を或は輕め或は重くするとあり、而して又之と同時に債權者をして或は損失せしめ或は利益せしむるとありと知るへし。

統計的問題 右等の事情よりして物價の進行か實業家及消費家に對して絶へず重要な事たるは驚くまでも無きとなり。然るに物價調査の必要は此に止まらず、社會に於ける各級人民の事情に考ふる時は眞に戒心を要すへき案件なりとす。故に吾人は獨り實業に従事する者の爲めにのみならず物價變動の原因を説明し又其變動が各階級に及ぼす影響を説明するの用に供せんが爲めに有益なる多數の材料を有する者なり。吾人は此に統計法の應用を試むへき特別の演習場

を有す。或る一の物價は調査ありとも其れのみにては其益大ならず此に必要なるは一般標準價を示すか爲めの物價の聯結なり。一般物價の變動を示す爲めには右聯結の繼續必要なり。次に此變動と他の現象此變動を説明すへきとの關係如何を知るを要す。故に物價統計は次の方針を以て料理排列せざるへからず。

- (1) 一日一周一月一年の如き一定期間の價を代表するか如き仕方にて或る一物品の價を決定する事。
- (2) 時期より時期まで例へば年々歳々物價の變動を表示するか如く第一項に示せし如き平均の物價を排列する事。
- (3) 全体を一括として物價の運動を推定する目的を以て一般標準價を得へきか如く數多の物價を結合する事。
- (4) 物價變動の原因を領知するが爲め物價の變動を以て、需要供給生産原費乃至は立法等の如く商品に關係を有する現象に比較する事。

右の統計に基づき次に吾人は左の研究に及ぶへし。

- (5) 社會の各階級の上に或は又社會全体の繁昌の上に或る種類の物價の變

動又は標準價の變動の及ぼす効果を講究する事。

- (6) 貴金屬の供給、貨幣の分量、信用の使用及之を小にしては一定社會の之を大にしては世界の業務執行の方法と物價の總平均との關係を搜索する事。
- (7) 金貨本位の如き貨幣制度の變更、銀行制度の改正又は長期仕拂に關する他の基本を定むるに方り其説を維持する爲めに物價統計を使用する事。

統計材料

物價統計調製の第一著歩は一定の品に就き日々物價表(相場表)を調製するに在り。今や商家の發行する物價表又は商業雜誌か出版する市場報告に由て種々なる取引に於て多數の商品の價を知り得るに至れり。此に就ては勿論本位の物品を選定し品位も同一にして其斤量尺度も永く同一にして而かも同一市場の價格ならざるへからず。斯く選定し得る物品は性質品位のよく定りたる標準品なるへく其相場は卸賣の相場なるへし。

一周一月の價は通例單に日々の價の平均にして一年の價は一月の價の平均なり。或る物品の斯る價を年々取る時は該物品の物價史を得へし。斯る物價表は一

の原因の爲めに多數の波動を示すへし。例へは

- (a) 農産の如く年々の收穫の多少と海外各國に於ける同一物品の豊凶よりして需要に變動起り兩者相待て其價に變動を生ずるもの、
- (b) 一時の需要より來るもの例へはゴム品の如きもの、戦時の需要、流行の變化、季節より起る相違例へは衣服帽子類靴類の如きもの、
- (c) 立法より來るものには税率増加又は奨励金の下付、
- (d) 一定商品に代る爲め他の商品の増加するを例へば馬車に代る自轉車、
- (e) 運送費の減少但し採用には遅速あれとも、

Index number 標數

或る一物品の價の始終變動するとは實業家に取ては極めて重要な事なり。又社會一般に必要なるは小麥、砂糖、鐵の如き重要品の價の一般に騰貴せしや將た下落せしやと云ふに在り。此は物價の騰落に伴ふて昇降する普通の統計的線圖に由て表章せらるゝ所なり。或は又一定年の平均價又は或る數年の平均價を取つて一百と假定し次年又は次て來る數年の價を以て之に對する比例となし。一百以上若くは之より以下の數を以て之を代表せしむ之を名けて標數と

云ふ。今其一例としてソーエルベツクの示せし英國の小麥の價を示すへし。

千八百六十七年乃至七十七年の平均	五四 _±	六 _±	一〇〇	之を平均點と定む
千八百八十五年	七四	八	一三七	平均より三割七歩高
千八百九十八年	三四	〇	六二	平均より三割八歩安

標數とは約り平均に對する百分比例なり。小麥の如き重要な物品に就き斯る仕方にて其價を列記し或は線圖にて其昇降を示すときは長期の間物價の行路如何に就き貴重なる知識を吾人に與ふるものなり此方法を尙他の重要な物品に及ぼさば各品に就き同様の知識を得へきは明瞭なり。然れとも斯く爲すときは其結果たる多少矛盾する所あるへし。或ものは騰り或ものは下り假りに同一方向に昇降するとするも其騰落の程度は同じからざるを見るへし。是を以て全体の運動を知らんか爲めには各年の割合數を合算し其平均を取るへし。就中先づ共通の性質を有する物品を類集するを可とす。今ソーエルベツクが千八百六十七年乃至七十七年の物價を一〇〇と定め千八百九十八年分の標數を製作せし實例を示すへし。

右の表が何を示すやと云へば或る物品例へは小麥一俵、麥粉一樽、鐵一噸等は千八百六十七年乃至七十七年及千八百九十八年に於て其原價が一〇〇と六四との割合なりとのとに過ぎず。されば標數の算出は略同様にして毎年各品に就て計算せられ或は或る一類の物品に就て計算せらる。而して其結果標數の繼續表を調製し得ると次の如し。

品	種	標數の數	總數	平均
(1) 穀菜類食物(小麥、麥粉、大麥、燕麥、玉蜀黍、馬鈴薯、米、野菜)		八	五三八	六七
(2) 肉類(牛肉、豬肉、豚肉、鹽豚、牛酪)		七	五四二	七七
(3) 砂糖、咖啡茶		四	二〇五	五一
(1)-(3) 食料		一九	一二八五	六八
(4) 礦物(鐵、錫、鉛、石灰)		七	四九三	七〇
(5) 織物(棉、麻、亞麻、ジニート、毛、絹)		八	四〇五	五一
(6) 雜品(毛皮、革、獸脂、油、曹達、硝酸鹽、洋藍、材木)		一一	六九八	六三
(4)-(6) 材料		二六	一五九六	六一
一般平均		四五	二八八一	六四

穀類	肉類	砂糖、咖啡茶	食料一般	礦物	織物	雜品	材料一般	全般
----	----	--------	------	----	----	----	------	----

千八百七十九年	八七	九四	八七	九〇	七三	七四	八五	七八	八三
同 八十年	八九	一〇一	八八	九四	七九	八一	八九	八四	八八
同 八十一年	八四	一〇一	八四	九一	七七	七七	八六	八〇	八八
同 八十二年	八四	一〇四	七六	八九	七七	七三	八五	八〇	八五
同 八十二年	八二	一〇三	七六	八九	七六	七〇	八四	七七	八二
同 八十四年	七一	九七	六三	七九	六八	六八	八一	七三	七六
同 八十五年	六八	八八	六三	七四	六八	六八	七六	七〇	七二
同 八十六年	六五	八七	六〇	七二	六六	六三	七六	七〇	七二
同 八十七年	六四	七九	六七	七〇	六七	六五	七六	七〇	七二
同 八十八年	六六	八二	六五	七二	六八	六四	六七	六九	七〇
同 八十九年	六五	八六	七五	七五	七五	六四	六七	六八	七〇
同 九十年	六五	八二	七〇	七三	七〇	六六	六八	七一	七二
同 九十一年	七五	八一	七一	七三	七六	六六	六九	六八	七二
同 九十二年	六五	八四	六九	七三	七一	五九	六七	六八	七二
同 九十三年	五九	八五	七五	七二	六八	六九	六七	六八	七二
同 九十四年	五五	八〇	六五	六二	六四	六八	六七	六八	七二
同 九十五年	五四	七八	六二	六四	六二	六四	六五	六五	六八
同 九十六年	五三	七三	五九	六二	六三	六三	六三	六二	六三
同 九十七年	六〇	七九	五二	六五	六三	六二	六二	六一	六二
同 九十八年	六七	七七	五一	六八	六六	六三	六一	六二	六四
一八八六年—九七年	六二	八一	六六	七〇	七〇	五九	六六	六一	六七
一八六六年—八七年	七九	九五	七六	八四	七三	七一	八一	七六	七九

右の表は全く食料并に原料ともに卸賣相場に據りしものなり。而して右の標數は千八百六十六年乃至七十七年來平均價に於て三割六歩の下落ありしとを示せり。就中其下落は織物に於て最も大なりし實に木棉の標數は三七まで絹の標數は四六まで低下せり。之に亞けるは砂糖珈琲茶にして殊に砂糖の標數は四〇まで下れり。下落の最も少きは肉類なり最も多くの場合に於て下落は千八百九十六年の頃其極に達せしもの、如し。

次に左に掲ぐる標數は食料原料及製造品の價に基きフヲクネル教授の計算せし所のものにして卸賣相場に就き上院が報告出版せし所なり。其基本として取りしは千八百六十年の相場にて千八百六十二年乃至七十八年の物價は之を金貨の相場に改算せしものなり。

物品の種類に随ひフヲクネルの計算せし標數(金貨の價)

千八百六十年	食料	一〇〇〇〇	衣料	一〇〇〇〇	光熱	一〇〇〇〇	礦物器械	一〇〇〇〇	築材木建	一〇〇〇〇	學製材化	一〇〇〇〇	家具	一〇〇〇〇	雜類	一〇〇〇〇	万品	一〇〇〇〇
同 六十一年	九五・八	九四・九	一〇三・五	一〇二・五	一〇八・九	一〇一・三	九六・八	一〇〇・七	一〇〇・六	一〇七・七	一一二・一	九四・八	一一四・三	一四・五	一一三・六	八七・三	一〇一・二	一一四・九

投機的活動の進歩等の如き現象と物價の騰落とを對照比較するは其精密更に一步を進めたるものなり。然れども此第一の目的を満足に達する爲めに必要なる程度の科學的處理にては第二第三の目的を達するか爲めには甚だ不完全にして粗雑なるを免かれず。標數の如き即ち是なり。標數は物價の一般の進行を示すには十分なれと第二種第三種の事實を定むるには餘りに不完全なり。吾人が標數を査定するに就き科學的の困難を有すると次の如し。

- (1) 物價を採集する事
- (2) 物品の性質の變化を看破する事
- (3) 品種を選定し其數を定むる事
- (4) 物品の輕重を測定する事
- (5) 物品の相對的即ち關係的重要に於ける變化を打算する事
- (6) 新に物品を選定増加するの用意あるべき事

物價及品質 第一の問題は單に技術的専門的の事なり然れども極めて困難なる事なり。標數に算入せらるべき各品の價を如何にして定むべきや、鐵又は茶

などの名にて廣く知らるゝ物品が常に同じ品質にて繼續するや否を確知すべき事。例へば均しく茶と云ふも前のものは或る品質にして後のものは他の品質なりとせば價格の高低は何等の意味をも有せされはなり。

物價調査の方法は種々なり(1)フランクネルの方法に従へは會社組合等の帳簿に據り實際取引したる價を採集する事なり又英國の小麥の價をガセットより取るか如く市場の物價表或は取引所の報告に據る事又は銀貨の價をピツクスレー、エンド、アパースの銀價表より取るか如く公認場所の出版ものに據る事(2)他の方法は輸出入の重要品の届書の價を取り一ケ年間の總量にて一ケ年間の總價を扣除する事此は平均の價格を示すものなりと想像せらるゝ所のものなり(3)ソフトラベルの説に従へは病院、貧院、海陸糧餉部等にて購買せし物品に就き基本品の價を調査する事是等の方法は皆明かに重要物品の卸賣相場なり。

是等は公然の買入なるを以て劇しき競争に由て定る價にして其量の多きとも亦多少影響する所あるへし。卸賣の價と雖品位と相場より始終變動ありて調査頗る困難なるものなり。小麥の性質と雖常に同一なるにわらず英國の本位麥一俵

の價は普通のものより稍や高價なり是れ其量目稍や重くして製粉の上其結果良好なるか故なり。然れとも其差は品等を別にするほどにはあらず又米國産の棉は歳月を累ぬるに従ひ塵芥も少く俵作りも亦善良となれり。

サ、ロバート、ギッフエンの説に鋼鐵の本位價を定むるに就き英國の商務局に於て非常なる困難ありしと云へり。倉庫に収蔵するに方り是等の物品を處理する慣習に於て強ち同一種類のものを取るにはあられと一定種類の物品を集むるが故に年々殆んど變らざるはと其性質を一定するものなり。

物品の選擇 標數は貨物の數に由て大に異なるものなりとす。エコノミストは二十二ソヲエルベツクは四十五ソートペールは百十四フォクセルは二百二十三を選擇せり。而して幾多の品類を選擇するの必要あるや又如何に之を決定すへきやは極めて趣味ある問題なり。品數少なければ少きはと勞力も亦少なき譯なり且多數の物品を調査するよりは少數基本品の信すへき價を引續きて調査する方容易なるは當然なり。之に反して標數の目的か平準價に於ける年々歳々の變化を定めんとするにあらは殊に其變化の影響を究め其原因を討究するにあら

は一見したる處にては出來得へきたけ多數物品の調査を欲するなるへく加之其理想としては其標數か賣買せらるゝ總ての物品の價に基かんとをも主張するなるべし。然れとも格別重要ならざる物品に就き信すへき價格を得るとの困難なる事物品の性質の變化する危険又多數の物品の價の高低歩合を算出するの手續等は暫く之を措き數多の物品を相乗するか如きは願しからず又必要ならざるか如く思はる況んや標數の用單に物價變更の概略の方向を示すに止まる場合に於てをや。之れか爲めには數種の重要な物品にて足れり理想的の希望か行はるれば兎も角も然らざる限りは其數を加ふるに従ひ或る種の物品には不當の推想加はるか故に一般の標數を紊亂するの恐あり。例へば熟鐵の如き或る原料を取り又其變形たる塊鐵、棒鐵、鐵線、鋼鐵其他切物器械器具の如き鐵の製品を一々數ふるとせば反復重疊に由て鐵に對して不相當の重さを置くか如き恐なきや。例へば博士フォクナアは金屬品及器械の物價五十四類中懷中小刀のみ二十五種を採り其總數は終に二百二十三に達せり。然るに家具類の物價は僅かに十五就中其七は桶箱の類にて又野菜の物價は僅かに二にして共に蕃薯を選び魚の物價は四

にして其三は鹽漬の鯖なりし。是に由て之を觀れば不相當なる價值か格別重要ならざるものに與へられたるもの、如し。然れども此仕組にても一切の商品に之を及ぼすを得は結局互に相平均して其害を殘さるへしと雖も之を萬種の物品に行ふは出來難き所にして僅少の物品のみ屢々其選に入るは全く偶然の事なるへし。而して前にも述へし如く瑣細なる物品の相場を相乘するか如きは全く必要ならざる事なり。若し是等輕微のものにして重要なるもの、變化の方針を追ふものならしめば其調査は不用なるへく、若し又反對の方向に向ふものならしめは輕微なるもの、多數を入るゝは畢竟物價の真正なる變化の表章を誤らしむるものにして標數を左右するの力を彼等に與ふるに異ならず。其較著なる例は教授フォクナアの報告に於て見るを得へし。是を以てフォクナアは金屬及器械の標數を與ふるに方り終に數種の懷中小刀を廢せり。千八百六十一年より千八百九十一年まで小刀を除きたる標數は二ヶ年を除くの外連年一般の標數より高し今其一斑を示すと左の如し。

懷中小刀を加へ

懷中小刀を除き

千八百六十年	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇〇	一九一四	一二七八	一一七五	九六三	七七四	七三二	七三二	七三二	七三二
一九〇〇	二一八七	二二八八	一三一〇	一〇五二	七九六	七七七	七七七	七七七	七七七
一九〇〇	一九一四	一二七八	一一七五	九六三	七七四	七三二	七三二	七三二	七三二
一九〇〇	一九一四	一二七八	一一七五	九六三	七七四	七三二	七三二	七三二	七三二
一九〇〇	一九一四	一二七八	一一七五	九六三	七七四	七三二	七三二	七三二	七三二
一九〇〇	一九一四	一二七八	一一七五	九六三	七七四	七三二	七三二	七三二	七三二
一九〇〇	一九一四	一二七八	一一七五	九六三	七七四	七三二	七三二	七三二	七三二
一九〇〇	一九一四	一二七八	一一七五	九六三	七七四	七三二	七三二	七三二	七三二
一九〇〇	一九一四	一二七八	一一七五	九六三	七七四	七三二	七三二	七三二	七三二

物價高低の一般の趨勢なるものは右二列の數に於て異なる所なし。故に標準價の變化なる一般の問題に對しては其用相同し。然れども社會の一部の康福安寧か懸て金屬及器械の價に在りしとせば二十五種の小刀の價か標數中に數へらるゝと否とは一大問題なり。之を詳言すれば如何なる標數を選定すべきかは甚た重要なる問題なり。然れば則ち此事たる獨り物價變動の方向のみに止らず又其程度の問題なりとす。尙一層人類の利害に關する場合は次の如し。食料として重要な標數を算出する物品中に魚類四種あり。魚類は千八百六十年より其價總て騰貴せり大口魚の相場のみにて千八百六十年を一〇〇と定め

千八百九十年までに其標數三一二までに上れり。食料全般の標數は千八百六十年を一〇〇と定め千八百九十年までに一〇三九に上れり。此は甚だ面白き事實なり。食料は消費物中最も重要なるものなり而して食料の騰貴は諸商品の下落と相反す。然るに今大口魚の一品を除く時は千八百九十年の標數は九九九に下り若し又大口魚及鯖の相場四件を除く時は一般の標數は九四九に下るへし。左れば先には毎百三と三分の一の騰貴なりしもの後には毎百五の著しき下落となるなり。之を詳言すれば五十三品中僅かに大口魚鯖の四品を加へざるが爲め食料の標數に入點の影響を來したりと云ふへし。

一種の品に就ては數多の價を取り他種の品に就ては少數の價を取るとの不當なるはミストル、フオクナアが價の上りしもの下りしもの或は不動なるものを排列せし第二表に於て一層明白となれり。其表を見るに九品は其價不動にして百五十三品は下落し、六十一品は上騰したり。此表が下落の傾向を示し居るは無論のとまれども此處にても亦百五十三品中懐中小刀の類二十五品に下らざるなり。故に物價の數愈よ多ければとて標數に對する吾人の信用は強ち増すものにあら

ざるは前例に於て明かなり。

多くの他の經驗に於て稍や矛盾の結果の現はるゝを見たり。例へばミストル、ソールベックは四十五商品の卸賣相場に基ける其標數を試験せんか爲めに主として食料品及原料品より成れる他の六十一商品の卸賣相場と製造品及半製品五十一品の卸賣相場を之に加へたりし。此計畫に於て千八百六十七年乃至七十七年の平均を一〇〇と定め千八百八十五年の標數は次の如くなりし。

四十五重要品	七一・九
六十一雜品食料及原料	八四・八
五十一品製品又は半製品	七三・六
百五十七品	七七・五

此試験の結果に由れば食料及原料の四十五重要品に稍や經易なる物品及製造品を加ふる時は確に標數を上騰せしむの傾向あるを示すものゝ如し。

ミスター、フオクナアも其四重要標數を同一の基礎に改算する時は之を比較するに方り前項と同様の事ありと云へり。

今千八百六十年の價を一〇〇と定め千八百九十一年の標數を算出すれば其比例次の如し。

エコノミスト	(二十二品)	八一〇
ソーエルベック	(四十五品)	七五四
サフトビヤ	(百十四品)	九〇三
フォクナア	(二百二十三品)	九二二

此にても亦物品數を加ふるに従ひ標數の上騰するを見るへし。

教授ビヤソンは同じ仕方にて次の如き事を見出せり。千八百六十一年より同七十年までを基礎として取り千八百八十一年より千八百八十三年迄のソートビヤ(百十四品)クレール(二百六十五品)の價格にて比較するに殆ど變化あるを見ず。尙一步を進め千八百六十一年乃至七十年の物價を以て千八百八十五年乃至九十一年の價に比較するにソートビヤの説に従へば金の購買力は毎百十六を増加したりと云ひ。ソーエルベックに従へば購買力の増加は尙之より多しと云り。ビヤソンの説に據れば單に多數商品を含むか故にソートビヤの數可なりと云へり。

然るにソーエルベックは是等の増加せらるゝ物品は通例重要ならざるものなるを以て其變化極めて放縱なるの恐ありと云へり。

例へは忽布ホップの如き千八百八十一年には二五五なりしに千八百八十二年には四一三となり同八十三年には五一七にまで昇騰し又千八百八十五年には二四三に下落し千八百八十六年には二一三まで低落したればなり。ソートビヤの標數か千八百八十二年及八十三年に於て低落せざりしは右忽布の一品にても明瞭なり。忽布の騰貴は千八百八十二年及八十三年に於て夫々に毎百一四及二三の割合を以て標數に其影響を及したればなり。樹脂も亦其一例なり樹脂は千八百六十年には一一〇なりしか千八百六十二年には四八〇となり千八百六十三年には五四二となり千八百六十四年には六〇五まで騰貴したればなり。千八百六十四年のソートビヤの標準價に樹脂を加ふるを無りせば其標數は一二九八にあらすして一二五〇七なるへく即ち三分三厘低かる可りしなり。是等の例に據る時は一定商品の價の放縱なる昇降は標數上に至大の影響を行ふ者たるを示せり。エコノミストの標數さへも千八百六十三年乃至千八百六十六年に高標準なるは一部は

棉價の騰貴に原因するを明なり。之を詳言すれば平均に加ふべき貨物二十二品中棉花の類四ありて其價騰貴せしか爲め標數も亦從て昇騰せしめし者なるか如し。斯る困難の救濟法は一部は所謂秤量標數を採用するに在り(量標數とは商品の輕重を以て採用するを云ふ)。物品の輕重 普通の標數に於ては各品とも同一のものとして之を平均するか故に何れも同一の勢力を有す。是を以て麥の價二割五分下れりとするも洋藍の價二割五分上れりとするれば其にて差引平均せらるゝ所以なり。故に此場合に於て平準物價に一つも變る所なしと云はゞ其誤謬たるや勿論なりと雖とも標數に在ては別に變る所あるをなし。而して標數に斯る缺點あるは曾て承認せらるゝ所なり。或は同一の商品を數回加ふるに由て此弊を除かんと試みたる事あり。已に述へし如くエヨノミストは二十二品中に四度まで棉花を加へ、ソーエルベツクは四十五品中に小麥を二度麥粉を一度牛肉羊肉砂糖鐵石炭棉毛油を各二回つゝ加へたりし是れ明かに商品の輕重を平均する極めて簡略なる方法なり。思ふに最後の標數を決定せんか爲めには各品の配當分を定むべき秤量法 (Weights-and-measures) を採用するを可とす。通例使用せらるゝ秤量法は各品の總生産又は總消費を

以て標準と爲すを可とす。ミストルバルグレープの秤量法の如きは此種の最も有名なるものなり。バルグレープはエヨノミストの數を秤量するに方り合衆王國に於ける其消費高を標準として各品の相當價を計量したりし。例へば千八百八十五年に輸入したる洋藍の價は二百十三万磅にして其再輸出百五十三万磅なれば國內の消費は概略六十万磅と見做を得へし。次に同年中に輸入したる小麥の價より其再輸出の價を扣除し其殘額三千三百三十六万磅を以て輸入小麥の消費價額とし之に内國に於ける小麥の産額を千六百万磅とし此兩者を合し内外小麥の純産額を大略四千九百三十六万磅と假定すれば千八百八十五年の小麥の重要なる程度は洋藍の八十二倍なり。故に小麥の價に於て百分の一の上下あるは洋藍に於て百分の八十二の上下あるに均し。其他の物品に就ても其重要程度を計量するを斯くの如し。此計測も亦或る場合に於ては奇態に困難なり。例へば肉類の生産額は如何して之を計測するやと云ふに肉類額は國內家畜牛羊豚等の頭數に由り又其生命の長さとその平均の價とに由らざるを得ず。是れ困難なる所以なり。又棉花の場合に於ては輸出の木棉製品の價を扣除するを要用なり。斯

る秤量法に基きエコノミストの總標數二千二百箇(百三十二品を各數を各品の重要程度に従ひ毎年之を十九の商品に分配したりし千八百八十五年を見るに二千二百個中生棉に對する者二六三羊毛に對する者一四二肉類に對する者五二四鐵に對する者一五〇其他皆な之に倣へり。次に各品の場合に於ては千八百八十五年の標數に其重要程度を代表する數を乘し百を以て之を除すへし斯の如き數の列を加ふる時は新標數を得へし。此標數は各品共其重要程度に従て之に算入せられしものなり。之を別言すれば普通の算數的平均の代りに其重要程度を秤量せし平均を得たるものなり。

之に就き重要なるは此輕重を秤量する仕組か實際標數を如何計り變するやに在り此は次の表に於て明なるへし。第一列は普通の標數にて第二列は秤量的標數なり。

	普通の標數	秤量的標數
千八百六十五年	一〇〇	一〇〇
同 七十年	九一	九〇
同 七十一年	九〇	九三

千八百七十二年	九七	一〇〇
同 七十三年	〇二	〇〇
同 七十四年	〇〇	〇八
同 七十五年	九五	九七
同 七十六年	九三	九〇
同 七十七年	九四	〇〇
同 七十八年	八七	九五
同 七十九年	七六	八二
同 八十年	八七	八九
同 八十一年	八一	八三
同 八十二年	八三	八七
同 八十三年	八〇	八八
同 八十四年	七五	八〇
同 八十五年	七〇	七六

右の表に就て之を見れば秤量的標數は稍や高さものと如しと雖亦普通の標數と略其方向を同ふせり。

若し吾人が採る所の品類をして多からしめは此秤量的組織は標數上に大なる影響を與ふるものにあらざるへし。ミスター、ソーエルベックは各年の標數を二様

の仕方にて試験すと云ふ其方法は次の如し。

第一は區々の品類に就き同一の標數を使用する事但し千八百九十六年の六〇五に對し千八百九十七年の平均六二五なる場合には千八百九十四年乃至九十六年の三年平均或は千八百九十六年の六〇二に對し千八百九十七年の平均六二六なる場合には千八百七十一年乃至七十五年の五年平均に従ひ合衆王國に於ける該品の重要程度を計測すると。

重要程度を計量せざる數は千八百九十六年の六一に對して千八百九十七年には六二なりし故に生産の分量に従て計る時は標數が指示するよりも其騰貴稍や大なり。是れ首として砂糖、棉羊毛の下落より小麥、生肉、馬齡薯の如き重要なる物品の昂騰大なるか爲めなり。第二は各品の實價格に由て合衆王國內の物産の數量を計測する法なり、ソーエルベツクの物價表に基き輸入品は商務局の物價表に依り結局大部分は種々の物價表に由て生産高を計ると。

且千八百六十七年乃至七十七年の平均物價を基礎として名義上の價格

に於て計測すると。此場合に於ては千八百九十六年の六二〇に對して平均は六三五なり此も亦普通の標數より其割合高し。

第一法は前に記せしパルグレーブの方法に同じ、第二は稍や其趣を異にす仍て左に之を説明すへし。

其法たる先づ千八百九十七年中に於ける各商品の生産額を調査し之に其價を乗すへし。左すれば此に千八百九十七年の總價を得へし。次に此生産總額に基本時期なる千八百六十七年乃至千八百七十七年の物價を乗すへし。之にて當時に於ける價格の總高を得へし。同一の數量に對して此に起りし總價額の差は之を物價の變動に歸せざるを得ず。例へば千八百九十七年に於ける四十五品の總價額は四億六千四百二十万磅にして千八百六十七年乃至七十七年の物價にて計算せし其總價七億三千百五十万磅なりとすれば二者の比例は一〇〇に對して六三五なるか如し。

秤量的標數なる者は普通の標數の改良せし者なるに相違なし。普通標數の信用にまて幸なる論憑として改良標數も普通標數も本來大に異なる無きの事實を

め得たり。殊に各年に於ける商品の關係的重要程度を計量するの必要なく唯一年の調査にて十分なりとのを示せり。概して云へは基本品の生産せらるゝ夫々の數量は年々斯く甚しく異なる者に非ず。果して相違ありとするも其差誤は互に相平均するの傾あるか故に其差誤の結果は甚大なる者に非ざるが如し。エヂウアルスは同一の材料に七種の異なる方法を應用して標數を計算したるに千八百八十五年の結果次の如くなりしとぞ七〇・七〇・六七・三六・九七・二七・二六・九五。尙此に残れる一の問題は標數組織の成りし後新に入り來りて而かも廣く行はるゝ商品のとなり。年々の變化は恐らくは差して大なるとなかるへし併し偶然に甚だ較著なるものなきにあらす。燈火としての石油の如きは是なり。斯る困難は新基礎を建設するの外之を防ぐの道あるをなし。以上考慮の結果として物價の進路の概略の方向を知らんと目的ならば如何なる標數にても足れりとの事なり。然れども若し吾人にして標數に基き平準物價に於ける變化の效果と其變化の原因に論及せんと欲せば其効力甚だ疑ふべきあり。此に於て吾人の推計は其龜率を暴露し貨物の輕重(importance)なる言辭の

意義如何を釋義するを愈々困難なるを覺ふ。

科學的研究

統計の技術に就き此に掲記すべき種々の論議あり但し是等論議は統計家の間に於ても尙未だ一定せざる所なり。

前文已に説く如く總て物價の統計に於て吾人は平均を用ゐざるを得ず單純なる物價に在ては要するに算數的平均にて足れり。然れども平準物價を示すべき標數を算出するに方では重要な程度の異なる物品入り來るか故に正に秤量的算數平均を採用す可きものなり。

假令本來此二者か通例殆んど相同しく單純なるものを以て複雑なるものに代ふべきが如しといへとも決して然かすべきものにあらざるなり。

右に就き尙學說上趣味ある二平均あり。一はゼヴランの勸説せし幾何的平均にして他はエヂウアルスの提出したる中分法メジヤンなり。

ゼヴオンは貨幣及物價に關する其高名なる調査に於て自ら調査せし標數を計算するに方り。算數的平均の代りに幾何的平均を採用し之を辯護して左の如く云

へり。此に二つの商品あり甲は其價を倍し殊に乙の價は變らざりしと假定せよ、算數的平均にては二者の價の平均騰貴五割なり詳言すれば二者共に初年の標數は一〇〇にして次年の標數は一五〇なるへし。然れとも一五〇なる平均數の一〇〇に對するは二〇〇の一五〇に對すると同一割合の關係を有せざるなり。何となれば一五〇は一〇〇に對して五割増(每百、五増)なれとも二〇〇は一五〇に對して單に三割三分と三分の一増(每百、三三三増)なればなり。故に此場合に於ける眞正の平均數は一四一にして是れ即ち一〇〇に對して四割一分増(每百、四増)なるを恰も二〇〇が一四一に對して四割一分増なるに同じければなり。故に或る年に於ける眞正の平均標數を算出するには個々の標數を相乘し其若干方根を求むるを要す。其若干と云ふは代表せられたる物品の數を指すものと知るへし。之を求むるに最も容易なるは對數表を用ゐるに在り。

ゼヴォン説に對してはラスベールスは批評して左の如く云へりし。

金一疋を以て椰子一斤を買ひ同金一疋を以て丁子一斤を買ひ得たるに椰子は其價倍し丁子は其價半は下落せしとせよ。算數的標數は一二五にして平均價にて

二割五分の騰貴を示すべし。此場合に幾何的平均は一〇〇にしてゼヴォンの説に従へば平準價には聊かも變化なきなり。今其實際如何と問ふに物價の變動前には金の二疋を以て椰子及丁子各一斤を買ひ得たりしか其變動後は椰子一斤を買ふには金二疋を要し丁子一斤を買ふには金半疋を要するとなり。前時と同しく椰子丁子各一斤を買はんか爲めには金二疋半を要するとなりしなり。詳説すれば二割五分の増加なり云々。而してゼヴォンは算數的幾何的折衷的方法と稱得可き三方法ありと云ふの外右に對して答辯を爲さざりし。其幾何的方法と云ふは他の二方法の中間にあつて對數表を用ゐて爲すべきものにして大事を取りて却て誤りし彼の物價騰貴論に之を使用したりき。

幾何的平均を採用する唯一の適當なる理由は之に由て極端なる變動の影響を殺くに在り。元來標數の危険は一、二の物品か或る原因より非常の昇騰を來し爲めに全体の數を紊亂するに在り。エジウォールスは物價は其下落に比すれば其騰貴の方屢々にして且つ極端なりとのをを示せり。故に物價の累年比較の如きに在ては算數的平均に比すれば幾何的平均を採るを以て適當とす。

り。若し偏頗なく十分多くの物品を選定したりとせは秤量法の如何に拘らず一定限内に於ては略同一なる結果を出すへければなり。

右の説はミスタアピヤソンの對する眞實の答辯なり。ピヤソンの説にては基本として採用せし價值か同一なると同一ならざるとに因り其結果異なるか故に標數の仕組は全々無用なりと云ふに在り。其説次の如し。先づ十商品ありて其重要程度は相同しと假定せよ、而して其五品は其價倍し其五品は其價正に半額に下れりとせよ、是等十商品は價の變動起らざりし時は同價なりしとせよ、然るに右の如き價の騰落起らば其平均價は二割五分の上騰なるへし式にて示せば次の如し。

第一期

$$\begin{array}{r}
 5 \times 100 = 500 \\
 5 \times 100 = 500 \\
 \hline
 10 / 1000 \\
 100
 \end{array}$$

第二期

$$\begin{array}{r}
 5 \times 200 = 1000 \\
 5 \times 50 = 250 \\
 \hline
 10 / 1250 \\
 125
 \end{array}$$

即ち第一期の標數は一〇〇にして第二期の標數は一二五なり。即ち毎百、二五の

騰貴なり。是れ實際に起りし變化の正しき計算なり。各品か本來百弗したるものなれば第一期に千弗を價せしもの今は千二百五十弗となるへく即ち二割五分の騰貴なり。然れとも單位の價同しからざりしと假定せよ、例へは十品中五品の單價は初期五十弗にして次期に其價倍し他の五品は初期の單價二百弗にして次期に半價格に下落せしとせよ。此場合に第一期の價を一〇〇にて示せば第二期の標數は尙一二五なるへし。然るに實際上に於て起る所の差異は次の如し。

第一期

$$\begin{array}{r}
 5 \times 50 = 250 \\
 5 \times 200 = 1000 \\
 \hline
 10 / 1250 \\
 125
 \end{array}$$

第二期

$$\begin{array}{r}
 5 \times 100 = 500 \\
 5 \times 100 = 500 \\
 \hline
 10 / 1000 \\
 100
 \end{array}$$

單價同一なる場合に千二百五十弗となりしもの單價不同なるか爲め千弗となりしなり即ち價は下落の方なりしなり。

ピヤソンの説に據れば單價の異なる者を皆一〇〇にて示すとすれば其結果と

して價の騰落に従ひ異なる成果を得可しと云ふに在り。ビヤソンはゼヴォンの提出せし幾何的平均をも次の例を示して之を排斥したり(三シハリアンダに銀貨の名)。

第一

甲は 五〇達より一〇〇達に上り
乙は 一〇〇達より 五〇達に下り

第二

甲は 一〇〇達より二〇〇達に上り
乙は 一〇〇達より 五〇達に下り

第三

甲は 五〇達より一〇〇達に上り
乙は 二〇〇達より一〇〇達に下り

第一の場合には別に變化なし。一期も二期も一五〇達なればなり。第二の場合には二割五分の上騰なり第一期は二〇〇達にして第二期は二五〇達なればなり。第三の場合は二割の下落なり。第一期に二五〇達なりしもの第二期に二〇〇達となりたればなり。今算數的平均を用るれば此標數は三場合共二割五分の上騰を示すへし。然るに幾何的平均を用るれば詳言すれば各期とも其二標數を互に乘し其平方根を減すれば三場合共に一つも變化を見ざる可ければなり。

ミストルビヤソンにエデウオルス教授の答へたるは次の如し。

斯る困難の起るは斯くの如く故意に單純に造出せられし場合に於て現はるゝのみ一定の結果を生せしめんとの目的を以て之を計畫すれば勿論殆んど如何なるものにて其好む所のものを生せしむるを得ん。然れども活世界に於ては且つ品類十分數多きに於ては總ての騰貴か悉皆同一方向に働き總ての下落が悉皆同一の方向にて働くと云ふ如きは稀有の事なり。品種の選擇をして偏頗なからしめは可信法の教ゆる所に従へは區々の勢力は互に其力を平均す可き筈なり。若し其選擇をして偏頗なからしめは如何なる計量法といへとも極めて相似たる結果を出すものなるは吾人の實驗上見たる所にあらずや。理論に於ても實地經驗に於てもドクトルビヤソンが有り得へしとして示せし如き矛盾の結果は全く起るへしとも思はれず。故に結局標數は少くも概略平準物價に於ける變化を表示するものとして用ゐ可きものなるか如し。

評 論

物價變化の効果

物價に關して最も趣味ある問題は各人に對し其變化の効

果如何と云ふにあり。一品の場合に於ては其騰貴或は下落か製造家商賈或は消費者の直接の損益となるは吾人か常に見聞する所なり。若し相當に生産費減せずして小麦の價下落するをあらは生産者即ち農夫は損失を受くへし。賃金下落せずして生活費減するをあらは労働者は利益を受くるなり。今若し全体の平準價上り若くは下るとあらは如何なる現象を來すへきや若し千八百六十七年乃至七十七年以來物價三割下落せしとせば社會に對する其効果如何。先づ第一には曩に百弗にて買ひ得たるものが今は七十弗にて買ひ得ると云ふとなり。然れども此は或る一箇人が曩に一百弗を以て生活せしと同し様に裕に善く七十弗を以て生活し得ると云ふとなるやと云ふに決して否からず。是れ第一には吾人の方法の不完全なるか爲め又第二には箇人間の心理上の相違よりして、さる結果を來さざるなり。

統計の不完全なるは已に説きたるが如し物價と性質に關する困難は箇人の費用を論ずるに方て著大なる誤謬の泉源となるものあり。而して標數の重要程度は之に與からず尙重要なるは我が標數は卸賣相場に基くものにして消費の利害は

小賣相場に關するにあり。製造品の價は原料の價に従ふものなりとは恐らくは眞ならん。然れども此は必然同一の比例を以てせざるなり原料の價半は下落し製造費尙同一ならば製造品の價下落するや疑を容れず。然れども原料の下落と同一比例にはあらざるへし。小賣相場も亦之と同様に卸相場下落したりとするも仲買小賣商人は競争の爲め止むを得ず其極に到るまでは下落の利益を消費者に分たさるべし。

今一つの困難は家賃と賃金とか如何なる標數にも加はり居らざるをなり。家賃なるものは家の種々區々なるを其基本を定むるもの出來難さか爲めに之を標數に加ふるには出來難し。然れども費目としては最も重要なる科目の一なり。賃金も亦基本賃金なるものを定むるもの六ヶ敷より標數に加はらざるなり。而して賃金なるものは製造家に取りては費用の一科なりと雖大多數の人に向つては費目としてよりは収入の泉源として看らるゝものなり。是を以て賃金の騰落を計量するとの重要なるに拘らず此騰落は之を以て標數に加へずして却て之を消費物の平準價に對照するを常とす。然れども一の重要なる除外は婢僕等の給

金と技術に對する謝儀なりとす此は通例使用者に於ける經費の科目として信せらるゝ所なり。

年々消費せらるゝ物品の分量の増減は一般標數上に於ては斯く重要ならずと雖消費上に於ては著大の變化を指示するものなり。凡そ或る物品の價騰貴すれば消費者は通例其消費を節約し或は其代用品を索むる者なり。例へば小麥高價なれば小麥の代りにライイ又は玉蜀黍を使用し牛肉高價なれば羊肉を消費す。新商品と雖其標數に加はる前に自ら重要な位地を占むべきなり。是に由て之を見れば標數の變化と社會の實消費との間の關係は極めて密著のものたるを知るべし。斯る技術的の困難も其一部は標數に由て代表せらるべき品類の選擇を大に慎むると前に記せし適宜の秤量法を採用するに由て輕減するを得べし。

第二の計畫は模範家族の消費を標準として標數を數ふるとなり。吾人は前章に於て勞働者の家族の費用なるものを討究したる結果を示したりし。今若し是等消費の科目に就き其價の變動を追究し右家計豫算中に於ける各科目の重要程度を知り之を以て之を計量せば物價の變動か社會の大多數に及はす可き利害を代

表する標數を算出するを得べし。合衆國の上院報告に於て物價に就き教授フオクタナアか爲せし所のものは此種の計畫の最も勞多き所なり。勞働調査委員の第七年報に據れば常格の家族二千五百六十一戸の費用は其分配次の如し。

家賃	一五〇六
食料	四一〇三
薪炭燃料	五〇〇
衣服	一五三一
點燈	〇九〇
其他諸費	二二七〇
	一〇〇〇〇

右の箇條に聯結して使用すべき卸賣價格の種類は次の如し。

食料、衣料、燃料、點燈料、金物類、器械類、建築資料、藥品類、家具類

前掲の科目を以て是等の科目に直ちに應用し難きは明瞭なり。家計豫算に於ける一科目か標數の科目に一致せざる限りは食料と雖直接之を用ゐるとは出來難

し。故に一家に於て費消するものと雖牛肉、魚、牛酪、茶、咖啡、麵包、麥粉と云ふかの如く一々其消費の多少を考へ是等物品の夫々の重要程度に従て食料の價の騰落を計算せざるへからず。然るに豫算中に列する品類は悉く標數中に存するものにあらざるを以て食料の如きさへ之を計量すると頗る困難なり。之を衣料に應用するに至ては一層困難なり。衣料の豫算には夫妻又は兒女に對する何々の衣服と記せらるゝに一方標數に於ては金巾、キャラコ、フラネル、羅紗諸飾品、革絹などゝ記せらるゝが故なり。吾人か之を取るには上衣と云ふには衣服地を靴及長靴には革を其他の科目には毛布、フランネル、棉布、麻布、纏布を一括して適用せざるを得ず。斯る方法が衣料の費用を計算するに極めて粗略のものなるは明かなり。其他の箇條は尙一層困難なり。燃料は標數中に存する各種の石炭の價の平均にて代表せらる。點燈料は蠟燭の價を以て計るへく。家賃は準すへき標數全く無きか故に暫く變化なきものと見做すか如し。之を終りにして其他諸費の中に於ては家具なる標數に基きて計量し得可き家具及器具を除くの外は總て不動と見做すものとす。總て斯る積を以て其結果は次の如し(千八百九十一年卸賣價格に關する上

院の報告。

消費を基として計量したる千八百九十一年の諸物品の關係的價格
(千八百六十年を基本とし一〇〇とす)

家賃	食料	燃料	點料	衣料	其他	重要程度	標數	結果
一五〇六	四一〇三	五〇〇	九〇	一五三一	二二七〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一五〇、六〇〇
一〇三・七	九八・一	四八・一	七五・九	九五・三	九六・二	一〇〇〇	一〇〇〇	四二五、四八一
四九、〇五〇	四、三二九〇	一一六、二〇二九	二一六、三三二〇	九六一、九九四〇				

右の表に據れば總費用の六割八歩六厘まで物價變動の餘響を蒙りたりしか其他は先つ同一と假定せらる此方法に由て講究せし千八百九十一年の關係的物價は九六・二なりし。但し吾人にして若し其價の調査なき總てのものを排除する時は一家の費用中物價の爲めに直接に影響せらるゝ所のものゝ關係的費用は千八百六十年の一〇〇に對し千八百九十一年は九四・四なるへし。千八百四十年より千

八百九十一年まで斯る計算を毎年行ひ二種の新標數を得たり而も共に單純なる平均標數に異なるものなり。

此新標數に従へば物價の一般の進路は普通の標數に略相似たり。但し或る年次には其差甚だ大なり。

此方法は尙甚だ粗大にして物價の變動が勞働社會に及ぼす實際の効果如何を示す等々の用としては其價值甚だ大ならず。而して此研究も亦隨意氣儘に排列せざる限りは殆んど如何なる秤量法にても多くは同一の結果を來すものなりとのを説示す。實際此方法を家族的豫算の十二種類に應用したるに千八百九十一年の標數として現はれしものは九五七、九六三、九六四、九七七、九七〇、九五三、九六四、九五二、九六六、九〇八、八九二、九六三の十二數なりし。唯だ二個の例外を以て是等の數は其原數たる九六一に甚だ接運したるものなり。

平準物價の變化を計る爲めの斯くの如き慘憺たる經營も箇人に屬する心理的の相違より吾人は此變化の結果を計測する能はず。之に就きミストル、ピヤソンの言は次の如し。

或人は多くの麵包と少許の肉を用ゐ、他の人は多くの肉と少許の麵包とを用ゐ、或人は煙草を薫らし或人は酒を飲み又或人は煙草を喫せず酒を飲されと好んで書籍と繪畫を購ふ故に物價の變化が人の實情に如何に影響すへきやを判断せんか爲めには物品の關係的重要度は箇人の需要に隨て異なるか故に人民を數種に區別するを要用なるへし。而して是等の需要も時々變し又其價と品質を參考して甲品を乙品に變更するものなり。されは貨幣と商品の間の交換比と例は假令如何なるものなりとも社會に於ける各人に對して決して同一の影響を及ぼすものにはあらず(英國經濟雜誌)。

標數は又時に平準價の變動より生ずる債者及債權者間の損益の上の變化を表示する爲めに用ゐらる。

物價下落して而かも同額の金員を返済するものとせば負債は負債主をして益々困難ならしめ之に反して之を受け取りたる債權者は之か爲め大に其利益を受く物價の騰貴したる時は全く之に反す。

利息の變動より起る緩和の効力にも論到せず貸借を金額にて表示する方法の正

否にも論到せざるも而かも標數なるものは債者債權者の損益なるもの、詳しく標準を供し得るものにわらず。例へば負債者は其借金を拂はんか爲めに之を賣らんと期せし物品の價下落したるが爲め其負債を償却すると一層困難となりしとあらん。然るに債權者か其返却せられし金を以て買入れんとする物品は其價格更に低落せざるか爲め其利益聊かも多きを加へざるともあらん又多數の物品は其價下落せし場合と雖労働者の賃金騰貴したりしならば負債者は決して不利の地に立たざるべく之に反して労働にして賃金の平準を維持したりしならば債權者は其金を使用するも別に益する所なかるへし。之を要するに統計の力に由て是等詳細の事實を計量せんとするは到底出來難きとなりとす。

尙物價の變化なるものを熟ら考ふるに或人は消費者として利益を受くるよりは生産者として害を受くるを多く或は時に之に反するとあり。製造品の販賣價にして原料の價及之を製造する労働の賃金より下るとあらば實業家は其消費品の價廉なるか爲め消費者として一部其利益を得たるに拘らす其製造品に就き利益を失ふか爲めに損失を來さざるを得ず。又農産物の價地代及農作賃より俄に下

ることあらば小作人は忽ち其害を被るべく若又生活の費用賃金の割合より速かに上るとあらば労働者は忽ち其害を被るべし。故に平準價に著大の變化あらば其は終に工業的關係を一變するに至るへし。

エジウヲルスの説に由れば各級の人民に對しては各其に適當なる特別の標數を算出するを得へしといへり。輸出入の標數は其重要程度に従て計測すれば商家及中外貿易に關係する人々に要用のものなるべく。卸賣價格の標數は精密に活計の難易を計量するには適せざるへきも商業進路の概略を示し吾人は前途如何なる境遇に遭遇すへきかを教ゆべく又手数料を以て所得とする商人は其利賣品の價額に依るものなるか故に物價下落すれば同一の收入を得んか爲めには一層多大の賣買を行はざるを得ずとのことを教ゆるならん。各級人民の爲めに箇々特別の標數を設定すへしとの事は畢竟長期の仕拂を羈束する爲めに適應せらるへき所謂表的基本なるもの、算出の困難なるを表發するものなり。

平準價變動の原因 吾人は既に平準價の變動を決定し又之を計測するの方法を論したりし。吾人は又之を以て社會各級民の上に平準價の變化か及ぼす効

果を幾何まで計測し得るやを考究したりし。第一に發見せし方法は唯た極めて大略の計測を供するに止り眞正の術は常に容易に確定し難きものなるを見たり。第二の方法は更に鹵莽にして不確實なるものなり。吾人か目下の研究にては、此方法の定りし時に至り平準價に於ける變化の原因を指定すべきか如し。此は最も困難なる事業なり而して其重要な程度は殊に過重視せらる。一定品の價の變化なるものは秋穫の凶作供給の妨碍戦争の如き生産の改良專賣乃至は流行の如き各種の原因に出づるものとす。是を以て商況必迫の時に在ては購買者又は委託者の畏怖心より平準價の全部下落すべく又各自盈滿して投機の熱盛なるに方ては一時其價の騰貴するとあるへし。故に或る特定品のみの價に關し又は其騰落とも一時のものなりせば多少の確かさを以て其原因を指示するを得べし。

百般の物價皆多少動搖し之れか爲め平準價の變動を我か標數に顯はしたる場合殊に一時の少變動に拘らす數十年に亘り一貫するものゝ如きは最も重要なり。千八百四十八年より千八百七十三年まで二十五ヶ年間は物價騰貴の大勢を示し

たりしか千八百七十三年以降二十五ヶ年間は物價下落の大勢を顯したりし。今や我か事業は物價騰落の原因と認めらるへき現象を右騰落の大勢に連結するに在り。之を爲すに方り原因を主として物産に關するもの及主として貨幣に關するものとして別つを以て論議に便なるを知れり。而して物價と貨幣との學說頗る混雜なるを以て貨幣に關する研究は暫く之を次章に譲り此には直接に貨物に關する原因及營業の方法に關する原因のみを論究すへし。吾人は他方面に於て變化の原因を探究するまで貨幣の高は暫く別問題と見做し置くへし。貨物に牽連する原因にて其價に影響し此に調査研究を要すべく見ゆる條件は次の如し。

- 一 供給 Relations of supply.
- 一 生産費 Cost of production.
- 一 運搬費 Cost of transportation.
- 一 營業法の變化 Changes in business methods.
- 一 投機の増減 Increased or decreased speculation.

今や吾人の目前に横はる問題は平準價の變化を表示する標數を以て數に顯はれたる是等の原因に適すべく事實を對比するに在り。我か統計材料の不完全なる事數原因の合同して作用せし場合に一原因を分離區別する事の困難なる事又原因及結果の間には精密に相比例せし關係存立すへしとは豫言し能はされは此は一の難問題なるへし。

百貨の中吾人の精密なる供給統計を有するものは甚た尠し。例へは大貌利にまての輸入小麥の如く商品か輸入せらるゝものなる時は我か報告稍や信すへきか如しと雖も内國生産の小麥に至れば一の推定に係るものたるに過ぎず。又生産費の如きも殊に同一商品か種々の價にて生産せらるゝ場合には之を決定するは困難のとなり。

一原因を隔離獨立せしむるは社會學中各分科に於て覺知せらるゝ共通の困難なり。例へは此に供給増加し一方に需要減少したる場合あらん。而して其價の下落は供給増加(甲原因)需要減少(乙原因)の二因の均く相影響する場合あるへし。吾人は此場合に供給増加と價の下落との間の精密なる關係を知る能はさるなり。

例へは毎百、二〇の供給増加は容易に吸収せらるへしと雖尙又毎百、二〇の増加は全く其價を破却し終るへし。生産又は運送に於ける一般の改良は夫々異なる物品に夫々異なりて影響すへし。今此に種々多くの物品に影響を及ぼすへき原因ありとせば吾人は此原因の總ての物に同一の程度にて影響すへしとは期するを得ざるなり。或る物に在ては價の下落甚た大なるへく他のものに於ては其影響比較的に微細なるへし。一物品の價大に廉なれば他方に於て消費の増加を促すことありて爲めに價の騰貴するをさへ無きにあらず。千八百七十三年以來物價の著しき下落は供給及運送の實況に人の注目を引くに至り或る經濟學者の如きは之を以て物價下落の原因なりと説明したりき。然れとも統計的方法は此説を證明するには寧不適當なりとのを自白せざるを得ず。吾人の統計は過る二十五年間に於て非常なる生産の増加を示せり。然れとも供給の増加と物價の下落とを連結して講究せしと少なし。唯たミスター、リユーク、ハンサアドの爲せし研究は此種の趣味あるものゝ一なり。其調製せし表は千八百七十四年より千八百八十三年まで十ヶ年間毎年十二月三十一日に於て二十五品を選び其貯藏高と

價とを示せり。初年及末年が必しも極端の數を示さずと雖今其兩極端を取りて其結果を示せば次の如し。

茶	コ	砂	米	絹	咖啡	合衆國	
						千八百七十四年貯藏	千八百八十三年貯藏
八七二、二〇〇	九二二、五三五	一八、〇〇〇	一〇、二八二	七、九〇〇	四、六一三	一、四〇〇	千八百七十四年より同八十三年迄の變動
増加	減少	増加	増加	増加	減少	増加	毎百貯藏増減
四三、五	二六、八	四七、二	二七、九	八九、八	三二、九	七五、〇	毎百價格騰落
下落	騰貴	下落	下落	下落	騰貴	下落	
五六、八	七八、二	一九、八	六、七	一〇、八	一〇、三	二九、九	

是等の報告に由りミスター、ハンサアドは左の標數を算出せり (二十五品なるは故に)

年	貯藏	價	格	年	貯藏	價	格
千八百七十四年	二五〇〇	二五〇〇	同	七十九年	三二六九	二四六〇	
同 七十五年	二五四五	二三六〇	同	八十年	三三三三	二一九四	
同 七十六年	二八二四	二五〇四	同	八十一年	三三六一	二二三三	

此計算の結果千八百七十四年を一〇〇として取れば其比例次の如し。

人口	一〇九三
貯藏物産	一二四八
物價	九一四

右の事實は以て物價の下落は單に貯藏物産の増加の人口の増加より急速なるか爲めなりとのとを十分に立證するものなりと抗言するを得ず。然れとも貯藏と物價との或る關係を表章する方法としては頗る趣味あるものなり。

右と同様なる種類の趣味ある數はミスター、バルグレイブの十九基本商品の推定輸入及内國生産品に關し最も用意周到に製作せし表より推算するを得へし。例へは合衆王國に對する小麥の供給千八百六十六年には七千九百九十万俵千八百八十五年の供給には一億二千一百万俵なりし而して此年間に人口は三千万人より三千六百万人に増加したりし。然るに小麥の價は内國生産額及外國輸入額に

由て影響せらるゝのみならず世界の供給に影響し従て其市價に影響する海外の生産總額に由て左右せらるゝものなるを知れり。抑も過去三十年間に於て重要物産の生産額増加せしは實に非常のものにしてそはノイマン、スバルトの世界經濟一覽の證明する所なり。其要領は既に土地の章に於て示せし所なり。

生産費の統計なるものは勿論一定狀態下に於ける一定物品に就て提供するを得ず。然れども生産費減少すとの確實なる證據には物價の低落するに拘らず供給依然たるのみならず益々増加するものあるを以て知るべきなり。此事たる吾人が屢々示せし如く賃金の低落せざるを證明すれば愈々益々明瞭なるにあらずや。而して此類の證據は英國商業不景氣調査委員及金銀調査委員の目前に提出せられしもの多し。但し尙詳細の統計を採集するは有益の事業なるべし。

生産中の特別科目即ち運搬は一層統計の所理に適するものとす。吾人は市加古より紐育までの穀物運送賃の統計を有し又一定鐵道に由て一噸一哩を運搬する費用の累年統計を有す。

是等統計は年々出版せらるゝ合衆國統計摘要にて運送賃の次第に低減せらるゝ

を見るべし。

業務の方法の變化と投機的賣買活動の盛衰は統計的調査に入ると少なし。其影響の多少見るべきは例へば遠隔地より英國へ食物直輸入の統計、蘇士の如き直路を経て來る商品の増加、内外電報使用の増進、小工場に比して大工場増加、トラスト又シンジケートに由て工業を集中する事にありとす。總て是等は生産及生産品を取扱ふ方法に於ける經濟上の特徴なり。

是等事實と物價下落との間の親密なる關係は元より之を設定するを得ざるなり。何となれば各事は唯だ一部の原因たるに過ぎずして其眞意は僅かに推測に止まればなり。統計の方法は單に或る結果を生出したる如く見へ將た又斯る結果を生出すべきものと見るが如き原因の大多數を観察するものなりとす。

明治三十五年五月十九日印刷
明治三十五年五月廿二日發行

定價金壹圓

譯者

吳文聰

發行者

高田俊雄

印刷者

熊田宜遜

發行所

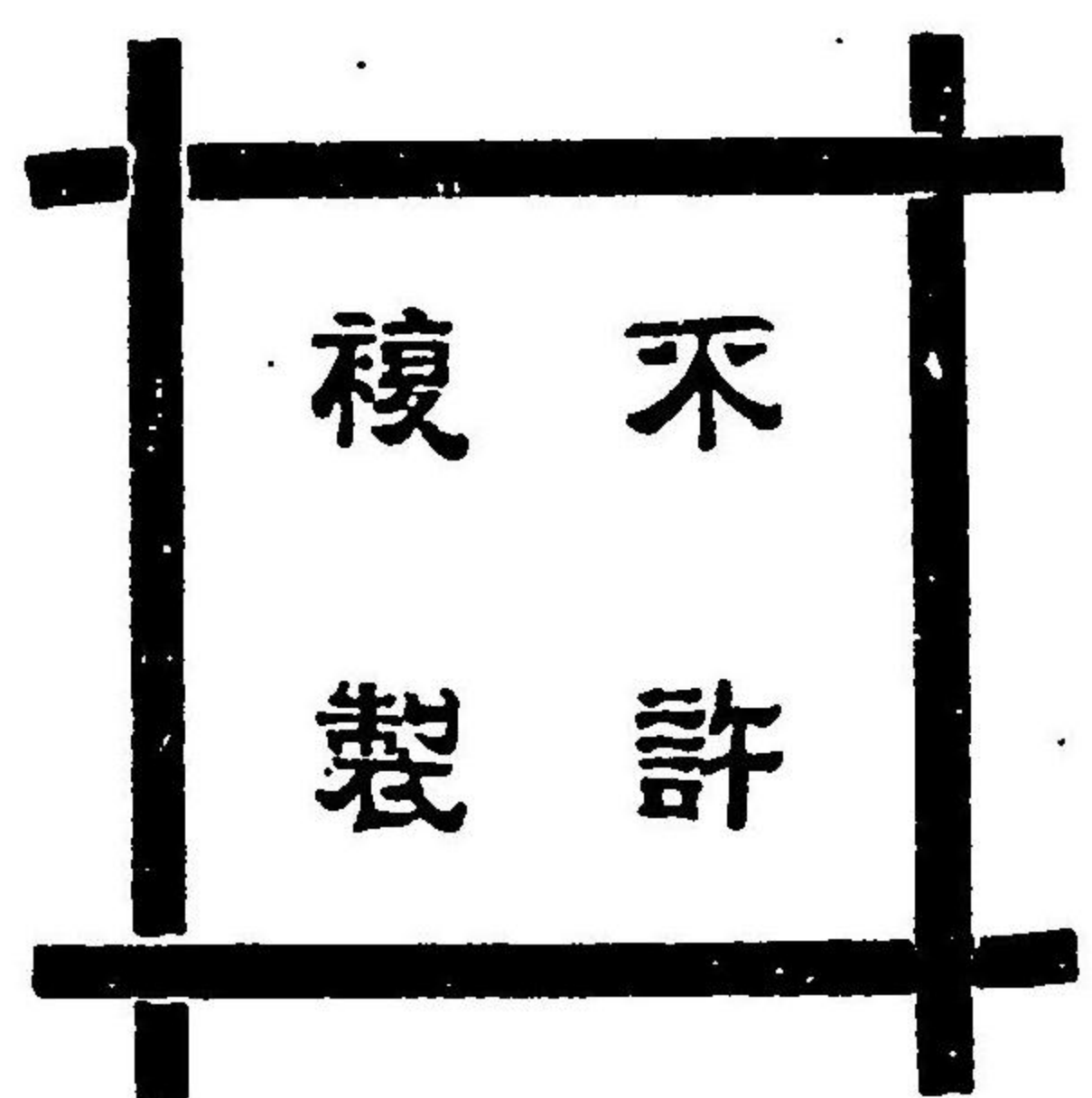
東京專門學校出版部

東京府豐多摩郡戸塚村大字
下月塚六百四十七番地

印刷所

熊田活版所

東京市神田區錦町參丁目廿五番地



東京專門學校出版部出版圖書目錄

東京專門學校出版部出版圖書目錄

早稻田叢書

(版八) 米國アリンストン大學政治科教授
文學博士ワッド、ロオ、ウイソン原著
法學博士高田早苗譯
政治汎論
一名 沿革實用政治學
背皮金文字入上製 正價壹圓五拾錢
一千二百五十頁 小包料四百餘

(版一十) 英國ケムブリッジ大學教授アルフレッド・マシヤル原著
法學博士井上辰九郎譯
經濟原論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
八百頁 郵稅拾八錢

(版四) 英國法學博士
ウオルフ原著
天野爲之助
柏原文太郎譯
國民銀行論
一名 信用組合新策
背皮金文字入上製 正價壹圓
五百餘頁 郵稅拾四錢

(版三) 國際法學博士
攻法 法學博士中村進午著
新條約論
背皮金文字入上製 正價壹圓參拾錢
六百五十頁 郵稅拾六錢

(版三) 英國法學博士
シガウ井ツク原著
マステイナル
田島錦治共譯
經濟政策
附外國貿易論
背皮金文字入上製 正價壹圓四拾錢
六百五十頁 郵稅拾六錢

(版三) 英國シ、エー、キーエンス原著
法學博士天野爲之助譯
經濟學研究法
背皮金文字入上製 正價壹圓
四百五十頁 郵稅拾貳錢

(版五) 國際法學會員
法學博士 有賀長雄著
近時外交史
背皮金文字入上製 正價壹圓五拾錢
七百餘頁 郵稅拾六錢

(版三) 英國ヒ、シー、スコット原著
法學博士高田早苗譯
英國國會史
背皮金文字入上製 正價壹圓參拾錢
八百餘頁 郵稅拾八錢

發賣元 博文館
東京市日本橋區本町三丁目

發賣所 有斐閣書房
東京市神田區一ツ橋通町

同 東京堂
東京市神田區表神保町

同 吉岡書店
大阪市東區備後町四丁目

英國憲法論
英法學博士 高田早苗 著
正價壹圓七拾五錢
郵稅貳拾錢

英國憲法講義
背皮金文字入上製 正價壹圓七拾五錢
郵稅貳拾錢

財政學
英法學士 高野岩三郎 著
正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

世今歐洲外交史
佛國 ア、ド、ビツル 原著
酒井雄三郎 譯
正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國際私法論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

社會問題解釋法
安部 磯雄 著
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

露西亞帝國
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國法學
法學博士 有賀長雄 著
正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

政治罪惡論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

英國今代史
一名 女皇之御宇
全部三卷上卷千頁餘頁 背皮金文字入
上製 正價壹圓貳拾錢 郵稅拾錢
小包料四百錢
文藝士 姉崎正治 著

比較行政法
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

宗教學概論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

萬國國力比較
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

西洋倫理學史
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

政治學及比較憲法論
下卷近刊 上卷紙數六百頁
正價壹圓貳拾錢 郵稅拾錢

近無政府主義
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

近刊
法學博士 有賀長雄 著
正價壹圓貳拾錢 郵稅拾錢

政治罪惡論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

社會學
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

哲學概論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國際私法論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

社會統計學
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國際私法論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

社會統計學
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國際私法論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

社會統計學
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國際私法論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

早稻田小篇
故 酒井雄三郎 著
正價壹圓貳拾錢 郵稅拾錢

十九世紀歐洲政治史論
正價壹圓貳拾錢 郵稅拾錢

社會統計學
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國際私法論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

社會統計學
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國際私法論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

社會統計學
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

國際私法論
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

社會統計學
背皮金文字入上製 正價壹圓貳拾錢
郵稅拾錢

佛國巴里大學
法學博士 有本實長
法學博士 宮本平九
新譯

國際法論

正價金拾五錢 郵税金四錢

法學士 磯田一著

支那貿易

正價四拾錢 郵税金四錢

橫山正修 編著

非鐵道國有論

正價金拾五錢 郵税金四錢

フタトシ、オウ、高木正義 著
フイロツフイ

(版三) **トラス**

正價金拾錢 郵税金四錢

小山松壽 著

南清貿易

册一全

正價金五拾五錢 郵税金六錢
各國勢力範圍 支那交通 產業圖挿入
英國アーチバルド、アール、コフリン 原著
法學士 立木 耶抄 譯

最近之支那

册一全

正價 金三拾五錢 郵税 金四錢
伯魯大隈 重信 講演

營公談

册一全

鮮明有價入
正價 金拾錢 郵税 金四錢
網島榮一 耶 著

快樂派倫理

册一全

法學博士 高田 早苗 抄譯

帝國主義論

册一全

正價 金四拾錢 郵税 金六錢

法學士 三木猪太郎 抄譯

犯罪學

册一全

正價 金四十錢 郵税 六錢
ウイロロ、ヒル、及ホサン、ケイ 原著
浮田 和民 解 說

國家哲學

册一全

歷史叢書

册一全

法學博士 高田 早苗 校閱
山本利喜 雄 著

露西亞史

册一全

(版再) 正價金壹圓廿五錢 郵税金拾四錢
總クロース上製四百五十頁 鮮明地圖挿入
マチエラー、オウ、ロース 松平康國 編著

英國憲法史

册一全

米國シカゴ大學政治科教授
ハイレ、プラット、ジヤコフソン 原著
東京專門大 内 編 三 譯

歐洲十九世紀史

册一全

正價金壹圓廿五錢 郵税金拾貳錢
總クロース上製四百餘頁 鮮明地圖挿入
マチエラー、オウ、ロース 松平康國 編著

世界近世史

册一全

正價金壹圓廿五錢 郵税金拾貳錢
總クロース上製紙數四百餘頁
鮮明地圖挿入

長田 忠一 編著

佛蘭西史

册一全

正價金壹圓廿五錢 郵税金拾貳錢
總クロース上製紙數四百餘頁
鮮明地圖挿入

近刊

伊田和民 編 **希臘史**

伊田和民 編 **羅馬史**

松平康國 編 **英國史**

文學士 隈本繁吉 編 **獨逸史**

文學士 坂本健一 編 **伊太利史**

文學士 村川堅固 編 **西班牙葡萄牙史**

文學士 坂本健一 編 **荷蘭白耳義史**

文學士 高桑駒吉 編 **北歐史**

長田 忠一 編 **土耳其波留汗史**

四

文學叢書

文學博士 坪内雄藏 著

英文學史

册一全

總クロース上製美本九百餘頁
正價 金貳圓 小包料四角半

五

高安月郊 譯

イブセン社會劇

總クローズ上製 四百餘頁
正價金壹圓 郵稅拾四錢

要庭 董村 著

巢林子撰註

文學博士 坪内雄藏 著

英詩文評釋

東京專門學校講師増田藤之助 著

英詩文評釋

宮崎三味 選

元祿名著集

東京專門學校出版部出版

近刊

宮崎三味 譯
支那史

トレストイ伯著 尾崎紅葉 瀧沼夏葉 譯
アンナ、カレニナ

フワイムツク著 登張信一 譯
ソルウンプ、ハアベン

フロウベル著 上田敏 譯
マダム、ボヴリ

ハーアイー著 梅澤精一 譯
テ

ホーソン著 内田真 譯
スカーレット、レター

尾崎紅葉 著
俳諧七部集略解

赤瀬又次郎 著
有職故實

ストグアド著 千葉健造 譯
英國小説進化論

ドワン著 中島茂一 譯
シエークスピア

早稲國文學會編述
諸曲評釋

島村瀧太郎 著
名家短篇集

森槐南 著
元曲舉隅

經濟學叢書

伊國法學博士ルイギ、コッサ原 著
日本法學士 永井直好 重 譯

社會經濟原論

總クローズ上製 三頁餘頁
正價金壹圓 郵稅拾四錢

東京專門學校出版部出版

英國フレイ、エー、セヨウ 著
日本 信夫 津平 譯

歐洲貨幣史

刊近

米國エドワード、カロン 原 著
法學博士 天野 爲之助 譯

金融之原理及其實際

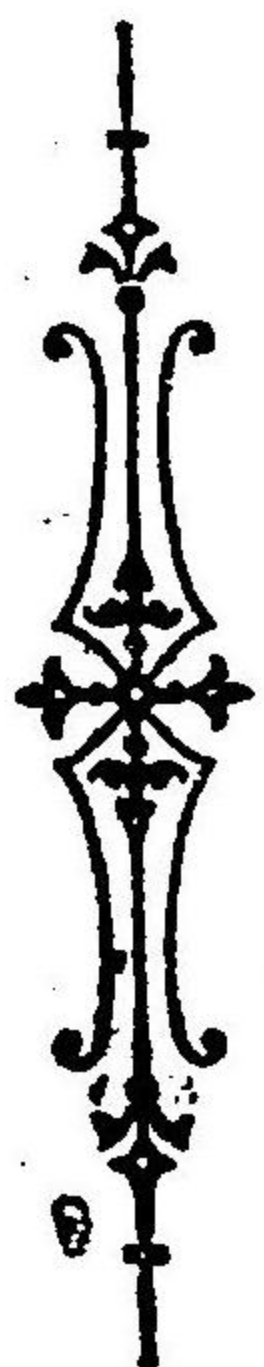
刊近

法學博士和田垣三郎 岸田虎三郎
コンラード氏經濟學
(上)國民經濟學 (中)經濟政策學
(下)財政學

近刊

法學博士松崎順之助 岩城之實 譯
ハドレー氏經濟學

文學士梅若誠太郎 垣原正直 共 譯
アダムス氏財政學



法學博士天野爲之助 原田順之助 譯
クレア、氏外國爲替論

法學士 永井直好 譯
パンテ、ン氏消費論

吳 文 譯
スミス氏經濟統計學

法學士 柳田國男 譯
クラーク氏分配論

文學士 杉江輔人 譯
クリネ、氏交通機關論

マスマー、オウ、アーン子業續論
埃國價值論

譯者未定
ボン、ペワーク氏資本論

譯者未定
デヴィソン氏貨幣論

法律叢書

法學博士 藤山和夫 法學博士 藤田謙
法學博士 宮井政章 法學博士 戸水寛人 批
帝國大學教授 藤村 譯

法學博士 梅謙次郎 法學博士 菊池武夫 評
獨逸伯林ハイムリヒ、アルンブルヒ原 著

法學博士 中村進午 法學士 副島義一
法學士 瀨田忠三郎 法學士 古川五郎 合 譯
山口弘一

獨逸民法論

冊四全

附獨逸民法正文正價金八圓
菊列三千五百餘頁背皮金字入上製
第一卷 總則 第二卷 物權
第三卷 債權 第四卷 親族、相續
●正價 ○第一卷金壹圓七拾五錢 ○第二卷金壹圓七拾五錢
○第三卷金壹圓七拾五錢 ○第四卷金壹圓七拾五錢
●郵送料 ○第一卷金十六錢 ○第二卷金十六錢 ○第三卷
金二十錢 ○第四卷金二十錢 ●全部小冊金壹圓

東京專門學校出版部出版目録

議論正大調查綿密世界智識集本誌の一大特色

早稻田學報

每月一回二十五日發行

大賣場	早稻田學報	海外現象	文藝教育	政法經濟	雜纂	講演	論說	定價
本郷 芝 盛 春 堂	神田 有 斐 關	芝 田 東 京 堂	神田 有 斐 關	芝 田 東 京 堂	芝 田 東 京 堂	芝 田 東 京 堂	芝 田 東 京 堂	郵金十六部 稅一圓二部 共金八十五錢

發行所
早稻田學會
東京市牛込區早稻田專門學校出版部

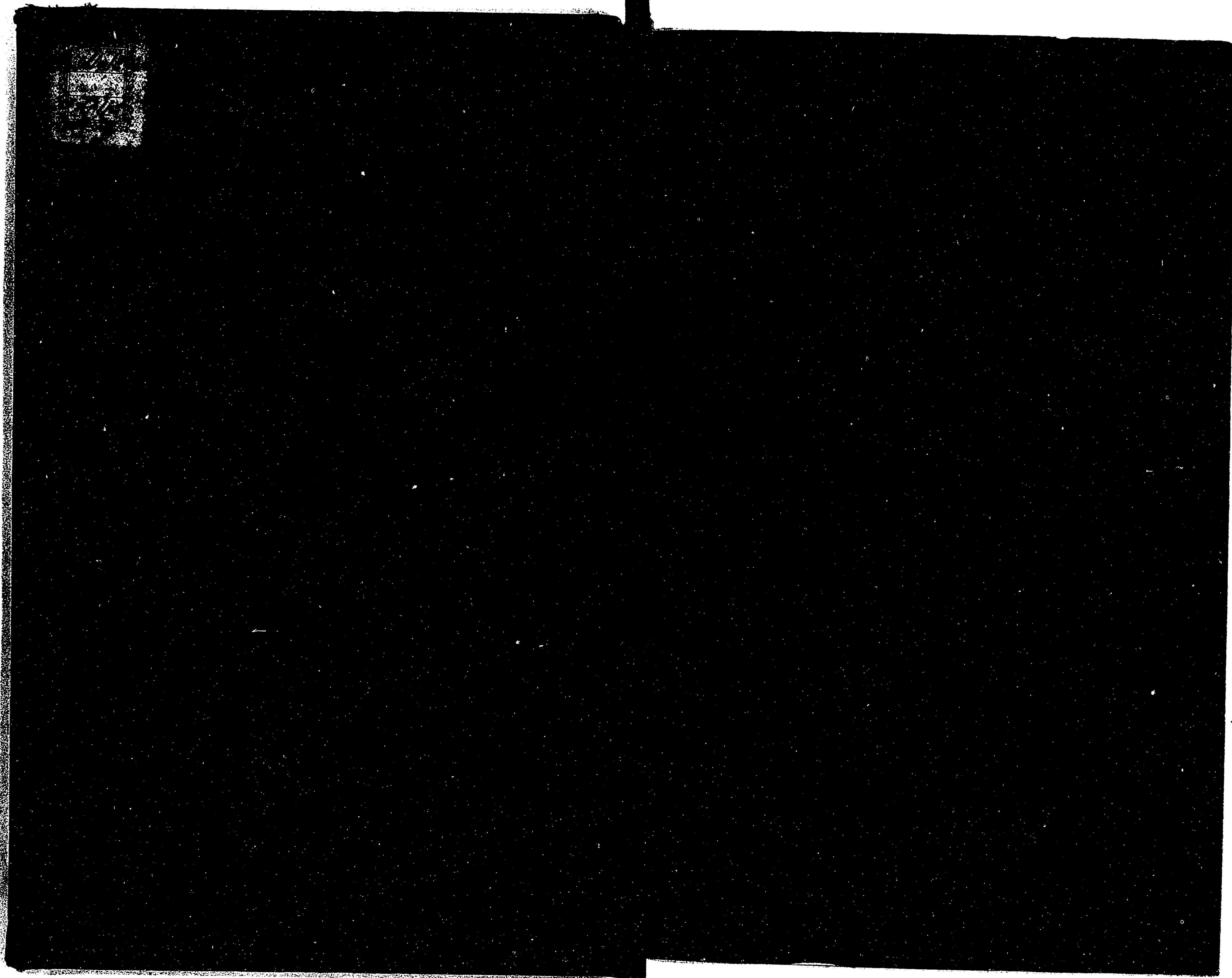
國學院法學會員法學博士
賀長雄氏主筆

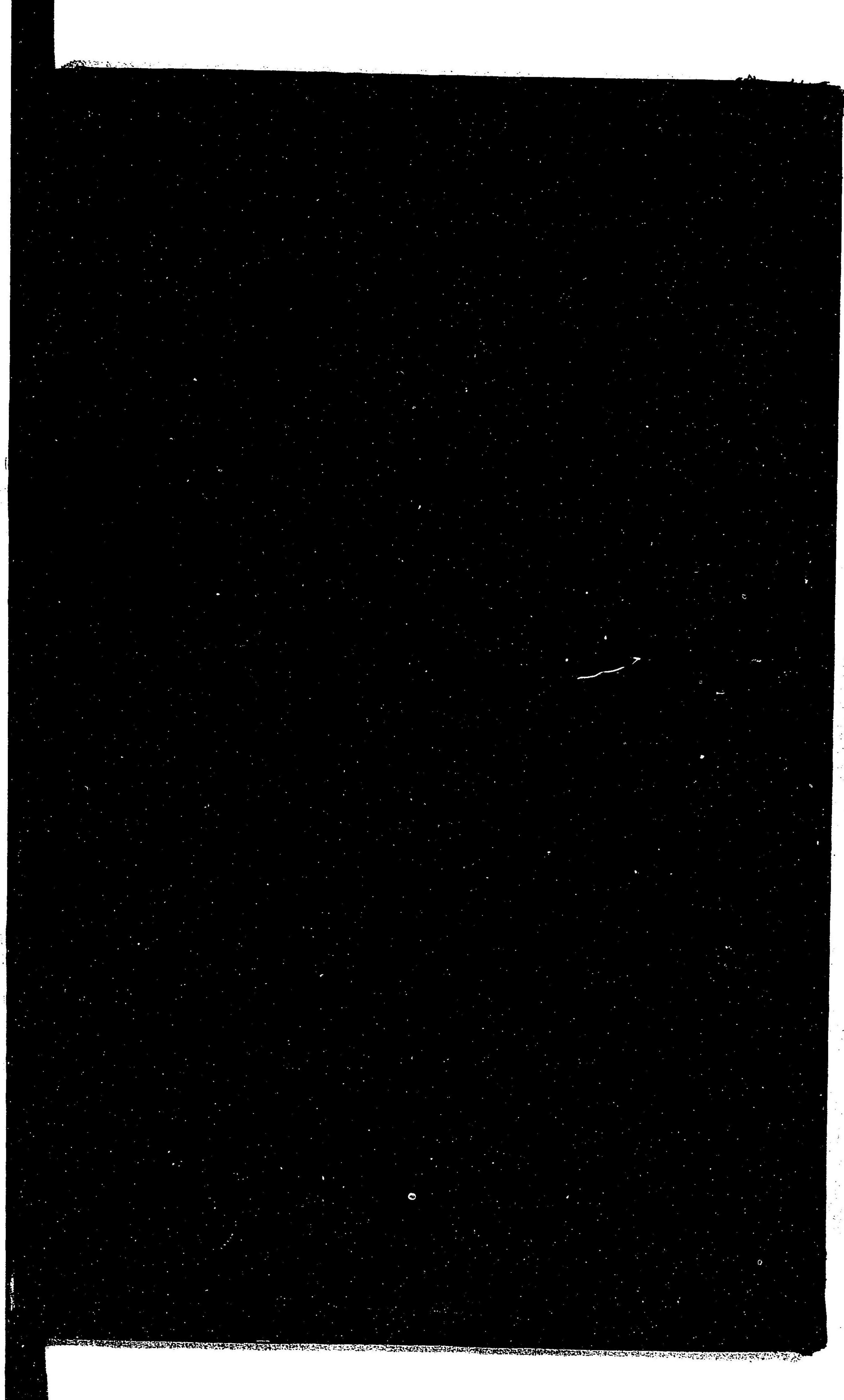
外交時報

每月一回二十日發行

大賣場	外交時報	外交家傳	萬國赤十字	公國國際	論說	記事	肖像畧傳	定價
本郷 芝 盛 春 堂	神田 有 斐 關	芝 田 東 京 堂	芝 田 東 京 堂	芝 田 東 京 堂	芝 田 東 京 堂	芝 田 東 京 堂	芝 田 東 京 堂	郵金十六部 稅一圓二部 共金九十六錢

發行所
外交時報社
東京市牛込區早稻田專門學校出版部





41
94

(M)

045368-001-9

41-94

経済統計学

メーヨー・スミス/著

上

M35

BDQ-0008

